

るの虞あり苟も國家を以て任ずる者の爲すべきの業に非ざるなり、畢竟豫備費の金額は之を既往數年の實況に鑑み其目的を全うするに足るの高を存せざるを得ざるなり

第四節 機密費、恩給、退職給及補充科目

國家を經營し機務をして敏活ならしめ以て各般の機能を全うせんと欲せば勢ひ多少の機密費を要す若し夫れ浪費濫用の如きは固より大に戒めざるを得ざるなり、今茲に吾人の一言せんと欲する所のものは機密費は之を各省に分賦すべき哉將た又之を一括して以て或中心に置くべき哉之を或中心に纏むるを好しとせば其中心は國家の主腦たる内閣たるべきか又は出納の源泉なる國庫たるべき哉の問題是なり、其大體は既に豫備費に就て論じたる如く或中心を求めて是に之を統一するは之を各處に分賦するに勝れるが如し、而して機密費其者の素質より之を見るに其統一の場所は國庫に非ずして國家の統治機關たる内閣たる哉論を竣たず、我國の現状は多く吾人の冀望に背かず、其最多額を内閣に置き陸軍省、海軍省、

機密費は主として内閣に置くべきこと

恩給扶助料

外務省、内務省の如き最も機敏の働を要し、時に或は一變の間國家の威信、運命に關するの大事を決せざるを得ざる官衙にありては手元に多少の機密費を有し一呼して支出に應ずるの便なきを得ず、然れども分賦其度を失すれば徒らに豫算金額増加し、而かも世に寸益なし故に事情の許す限り之を一中心に纏むるを宜しとす、恩給扶助料の如きも之を各省に分賦せんと欲せば敢て爲し難きの業に非ざるべしと雖も斯の如きは之を支出の源泉たる國庫に集むるを好しとす、我國の現則即ち是なり、就中恩給の如きは全體に増加の傾ありと雖も又増減過不足の生ぜざるものに非ず、蓋し恩給者は老年者多く頻々缺員を生ずるは數の免れざる所にし、是に減少の因を爲し、又政治上の改革若くは戰爭等の起るあれば大に其數を増加し、増減を豫測すること難し、故に豫算編製の當時は概して生存者を以て標準とす、今各省に之を分賦するときは各省は歳計全體に通ぜず、只管ら自己の責任の缺如せんことを慮り十分の金額を請求するは勢の免れざる所なり、故に既論の如く斯の如きものは之を國庫に集むるを宜しとす

退職給の如きも各省俸給豫算の幾分を割きて之を國庫に纏むるを宜しとす、其

豫算の編製及執行 第四節 機密費、恩給、退職給及補充科目

退職給

効用は恩給扶助料に及ばざるべしと雖も道理に於て差異あることなし而して休職者も恩給者の如く年長者其多數を占るは自然の勢にして又改革其他の政變に際して其數を増加すべく増減の勢ひ恩給の場合に酷似するものあり只其金高に大小の差違ある耳而して死傷手當賠償金訴訟費等の如く其の支出の有無を確定する能はず全く他働に依る者にして僅かに一二圓を豫算し所謂補充科目に屬する者も亦之を國庫に纏め各處は必要ある毎に之が支出を國庫に請求することゝせば緩急相應じ全體に於ては多少の節減を得るの結果を來すべし又是れ一考の値なしとせざるなり

第五節 補助費

第一目 總論

最近各種補助費の金額大に増加し三十五年度に於ては其額既に千四百萬圓を超過し三十六年度は不幸にして不成立に終りしと雖も其提出豫算に於ては更に増加して千五百二十萬圓餘に達し三十七年度の提出豫算には少しく減少し三十

補助の決
算に就て

八年度は時節柄少しく減少せしと雖も尙ほ九百三十萬餘圓を存留し四十二年度は更に増加して千九百七萬餘圓となり四十四年度は少しく減少して千八百五十五萬餘圓となりしと雖も尙ほ積羽船を沈め群輕軸を折るの虞なしとせず慮らずんばある可らざるなり元來補助の得失は經濟論に屬し茲に詳論するを要せずと雖も試に之を一言すれば國家全體の利害に關し世人が之に依て以て其福利を進むることを得べきもの例へば金融、保險、運輸、通信等の機關の如きは時に或は多少獎勵的補助を要することなしとせず然れども事一地方、一個人、一會社に關し其成敗利鈍は只當事者の利害に係るのみにして國家の休戚に影響すること薄き者又は利害一地方に止まる者の如き之を保護獎勵するの必要なき議論を俟たず管に其必要なきに止まらず保護の度高きに過るときは徒らに民財を徳するのみならず國民の自力奮勵の銳氣を挫折し他力依頼の惰心を生じ國家の進運を妨げ其害勝計し得可らざる所のものあり然りと雖も大國を治むるは固より變通の策なきを得ず臨機應變時に或は補助補助の要を生ずることなきを保せず只其撰擇は之を苟もするを許さず萬一之を與ふるの必要ある時は宜く決算に就て之を與ふべ

きなり豫算を以て之を與ふるときは小額の地方支出を以て之が飼と爲し以て國庫より補給金を釣出すの弊を生ずるなきを保せず慮らざる可らざるなり

第二目 地方費補助に就ての注意

經費の區別を明かにし濫用を避んと欲せば努めて國費と地方費とを區分し漫りに國費を以て地方費を補助するの例を廢止せざる可らず大體に於て費用の區分判明ならざる時は或は國家の豫算に地方的經費を編入し之を全國に徴し以て一地方に投ずるの不平なきを保せず而して之を受る所の地方は自ら負擔の重を感ぜざるを以て其使用を慎まず動もすれば濫費の弊に陥り國家の豫算と共に地方の其も亦確實なること能はず世俗に所謂惡鏡身に附ずの譬に漏れざるの弊なきを得ず此區分明かならざるに於ては地方の事情補助を得るに熱中し自治制の發達得て望む可らず焉を其繁榮を期するを得ん其區分の標準は自ら判明にして多辯を要せずと雖も試に之を一言せば事業の利益一般に普及し單に一地方又は團體個人に止らず其經營は國家の命令に基き地方團體の自由の裁量に任ずる能はざる者は國家の事業と爲し利益一地方團體又は個人に止まり其取捨地方團

収入の増
加は大き
望あり

體の裁量に任ずるを得べき者は地方事業とし彼等の區分に依り其費用の出所を異にせざるを得ず今一步を進めて實際に就て之を論ずれば國防郵便電信等の如きは國家の統一を要し警察衛生土木教育等の事業は多く地方的に屬す然りと雖も初等即ち國民教育窮民救助國道等の如く其素質國家の管理に屬すと雖も其經營は之を地方團體に委するを以て便とするものなとせず是等の事業に對して國家が其費用を負擔(全部若くは一部)するは時に或は外面に於て補助補給の形となしとせずと雖も其實然るに非ずして當然の費用を支拂ふものなり此區分を明にせずして漫に地方事業を補助せん乎弊端百出收拾す可らざるに至るは勢の免れざる所なり慎まざるばある可らず抑々一地方の補助は全國の負擔となり全國各部皆補助を望まば國家は何に依て之に應ずるを得ん補助政略亦窮まれりと云つべし然りと雖も此區分を全ふし國家の隆盛と地方の繁榮とを促さんとするに先ち大に講究すべきものあり何ぞや曰く國家的收入と地方的收入とを區分し大に其増加を圖ること是なり夫れ國家に間税を基とし地方は直税を基とするは當然の事にして實際の便宜亦是に存す而して我國の收入中前途有望なる者少しと

せず即ち其主要なる者を舉れば森林酒類煙草等の如き則ち是なり經營其宜きを
 得ば多額の財源となるや疑を容れず今之を先進國の例に徴するに進歩の餘地綽
 々として存するものあり即ち西曆千九百八年度の精算に據れば英國の酒類純收
 入は總計凡四億三千四百廿五萬圓内地稅三億三千二百六十餘萬圓輸入稅約五千
 八十二萬圓なりにして煙草輸入稅約一億三千八百廿四萬圓佛國の煙草專賣は約
 一億八千八百三十萬圓の收入を生じ普漏西の森林收入の如きは約六千六百七十
 五萬圓を生じ西曆千九百八年度の豫算に於ては六千七百四十萬圓を計上す我國
 の國情決して彼に劣らず豈に努めざる可ん哉其他地價差増稅の新設關稅登錄稅
 印紙稅所得稅等の改正を以てせば優に一國經營の收入を得るに足らん而して必
 要の生ずるあらば施すべきの策少しとせず臨機應變の事固より机上に談ずべき
 に非ざるなり而して地方の爲には直稅輸入の増加を計り差増の登錄收入等特に
 市府に於ては諸獨占事業の收入を納め米國流の特別賦課スベシヤル、アセスメン
 トを加味し以て諸般の經營施設に當充せば我國各般の施設は先進諸國の如く多
 數の障礙あることなく期年ならずして其面目を改むる哉疑を容れず此の如く深

獨占事業
 及特別賦
 課の收入

根固本の策一たび立つに於ては凡百の施設次を以て進行するを得べく資理興邦
 の業一に吾人の克勵に屬す豈に努めざる可けん哉

第三目 補助費は集めて一款と成すべし

若し夫れ補助補給を必要とせん乎豫算編製上其金額を主管の各廳に分たず之
 を國庫に纏めて一款とし之を受くる所の各實體を項とし一目瞭然其總高と其事
 物とを明にするを要す若し夫れ然らずして其目的の事物と金額とを各其主管廳
 に分賦するに於ては國民全體は勿論議會と雖も或は其全豹を窺ふに便ならず嘗
 に一斑を見て其取捨を決し臍を嚙むの悔なきを保せず我國の現制は之を各廳へ
 分賦す故に豫算上に其全體を知るに便ならず輒近政府は特に總豫算説明中之
 を表出し以て世に公にす世人之を見て漸く相戒むるの狀なしとせず論者或は云
 ん之を國庫の一款となすは甚だ可なり茲に百尺の竿額一步を進めて補助の種類
 を以て項とし項中目を以て目的の事物と分たば流用の實茲に開け國費節減の意
 に副ふを得べしと是れ一理なきに非らずと雖も斯の如きは便に過ぎて檢束の効
 を失ひ目中に於て無數の紛糾を醸發し弱は強の肉となり豫算執行中其議決の意

に反するの結果を生ずるの虞れあり、變通の策を用ゆる須らく事物の撰擇を慎むべし、紛糾の憂あり者の如きは假令膠柱の譏を免れざるも寧ろ頑然墨守の策を採るを好しとす、是れ所謂不動中の動にして亦一種の變通法たるを失はず、虚々實々玄妙の術此間にあり一片の理論可は即ち可なりと雖も鯨鯢を切り小鮮を煮る術自ら異なり豊に彼を以て是を推すを得ん哉

第六節 數年度に亘る經費

第一目 繼續費

一 繼續費の必要

歳計豫算は一年度の經營に關し後年度の費目に係るべき者に非ずと雖も抑々國家の經營は至大至廣大體の通義を踏むと同時に變通の道を講ぜざる可らず、事業の素質及其規模の如何に依りては勢ひ後年の策を定めざるを得ざるなり、是に於てか憲法は特に繼續費の必要を認め其第六十八條に

特別の須要に因り政府は豫め年限を定め繼續費として帝國議會の協賛を求む

ることを得

と規定し以て變通の道を開けり、今試に其必要を説ん例へば國防の爲に砲臺を築き或は戰艦を製造するの要ありとせん乎、其事業の雄大なる其設計の精密なる到底一兩年を以て其竣功を期するを得ず、又鐵道の敷設、軍港、要港、商港の開鑿等の如きは數多の歲月を要す、若し夫れ是等の事業に要する費用を毎年度の豫算を以て需ん乎、其間不幸にして議會の解散あり又は議會が初年度に於ては協賛を與へ次年度に於ては之を否決するが如き事あらば國家は非常の不利を蒙り大不經濟の結果を來す哉、多辯を要せず、元來國家立法の大任に當る所の議會が斯の如き前後撞着の行爲に出るは理に於て有る可らざる事に屬すと雖も個人怒るときは道理を失ふと一般多數人の團體も其憤怒するときは道理を失ふことなしとせず、或は勢に乗じて狂奔し個人の場合より層一層怖るべきの現象を呈するは天下の事實にして史乘其例に乏しからず、天下の事、事大小となく豈に管に理勢如何に依てのみ之を律すを得ん哉、慮らざる可らざるなり

二 繼續費濫設の弊

繼續費の設置は斯の如く深遠なる主義に依るものなりと雖も時に或は濫用の弊なきを得ず、元來一事一業を擔任する者は概ね國家の利益を遠觀するに精ならず、自己擔當の事業に熱中し成べく完全に成べく容易に成べく敏速に之を成就せんとするは其常情にして固より宥恕すべきものなしとせず而して議會亦或は地方特殊の關係に依り或は微妙明言す可らざるの事情に驅られ必要ならざるに容易に繼續費に左袒することなきを保せず若し夫れ特別已を得ざるの必要あるに非ずして漫りに繼續費を許さん乎、是れ財政の屈伸を奪ふものにして非常の不便を來す哉多辯を要せず、夫れ國家は活物なり豈に變通機宜を制するの策なかる可ん哉、一斑の爲に全豹を害するが如きは固より不可なり而して我國繼續費の編製亦完全と云ふを得ず、請ふ少しく之を辯ぜん

三 繼續費豫算の編製

方今繼續費編製の方法たる其初年に於て總額と年割額とを議定し將來數年に亘るの年額を當初に於て確定す、故に其年割額實際の必要に伴ふを得ず屢々年額變更の必要を生じ多少の物議を免れず、加之場合に於て國家の計畫を遠き將來に

如何に改むべき哉

亘り天下に發表するは其利益に於て疑なき能はず、斯の如きは大體の施設に於て不可なるものなしと云ふを得ず而して財政上より之を論ずるも繼續費の如きは多くは臨時費に屬し其費用を國債に求むるもの多し故に當該年度の國債募集額を示すは或は免れ能はざる所なるべしと雖も將來數年に亘り豫め募債の額を示すは固より策の得たるものに非るなり况や年額屢々變動し市場を誘惑するの虞あるに於てをや故に繼續費は漫に之を許すを得ざるは勿論、其設置を要する場合に於ても其總額と年數及初年度の額とを定め次年度以降の金額を當該年度を埃て之を定むるを好しとす

四 豫算不成立の場合にも差支なし

論者或は曰はん果して斯くの如くなれば豫算不成立の場合に於て繼續費の効用を失ひ國家は非常の不便に遭遇すべしと、是れ其一を知て未だ二を知らざるの説にして固より取るに足らざるなり、知るべし我憲法に於ては豫算不成立の場合に於ては政府は前年度の豫算を執行するを得るものにして繼續費と雖も前年度の金額までは當然之を使用することを得べくして決して論者の憂ふる如く事業

中止の不便を來すことなきも只だ多少の過不足を生ずるは蓋し已むを得ざるの數なりとす加之豫算の不成立の如きは事の變體にして成立は其常體なり天下の事豈に變體を主位とし常體を客位に置くを得ん哉論者又或は云はん不幸にして不成立兩三年度を繼續せば即ち如何然れども斯の如きは既に正當の代理者を定め其代理者に疾病事故あるときは如何と云ふが如きものにして固より是れ杞人の憂たるを免れず豈に堂々論戰を爲すの價値あらん哉抑々事を論ずるは常況に據らざるを得ず偶發天下の大勢に關係なき孤獨の事項を促へ來て之を論據とし或は實際有り得可らざる事項を想像し以て立脚の地を得んと欲するが如きは是れ徒らに言を好む者に非ずして何ぞ哉

増進及年
割額變更
の實況

五 繼續費の増進及其年割額變更の實況

斯の如き繼續費の効用は國運の進歩を圓滑にし國家の大計に於て固より必要缺く可からざるの設備なりと雖も利のある所弊害之に伴ふの譬に漏れず其濫用は財政の屈伸を妨げ市場を誘惑す而して其方法如何に依りて或は政略上の不便を醸成し或は募債の不利を來すの虞なしとせず豈に慎まざる可んや然るに近年

我國の實況は學理の指導に隨はず吾人の冀望に伴はず繼續費の設置年に多を加へ而かも其變更の頻繁なる大に戒むべきものなしとせず請ふ試みに其實況を左に表出せん

一般會計繼續費

	三十九年度	四十年年度	四十一年度
豫算額	三一、一五六、四八〇 _円	一一五、五八一、四四三 _円	一〇〇、二四八、〇三八 _円
前年度繰越額	二二、五四三、八七三	一三、〇七七、七〇八	六一、六六二、二九〇
決算額	三一、五二〇、四〇五	六六、八五三、四一四	一〇〇、一〇二、八八七
翌年度繰越額	一三、二三二、七〇五	六一、六六二、二九〇	六〇、七六一、八三七
不用額	九、九四七、二四一	一四三、四四六	一、〇四五、六〇五

備考

一三十九年度翌年度繰越額の内には四十年法律第二十二號に據り帝國大學特別會計へ繰越たる拾五萬四千九拾七圓を包含す

一三十九年度不用額の各年度に比し多額なるは鐵道建設及改良費、北海道鐵道

間變更なからんと欲すと雖も豈に得可ん哉。嗚呼に曰く來年の事を云へば鬼が笑ふと、夫れ然り今若し十數年後に係る事項を論ぜん乎、只に牛頭馬頭の冷笑を買ふのみならず閻魔と雖も其威嚴を保つ能はず呵々大笑閻府爲に震動するに至らん、繼續費の事豈に夫れ注意せずして可ならん哉。政府も是に見る所ありて三十六年度提出豫算には其改正を試みたり、不幸解散の爲め其目的を達せざりしと雖も既に改正の端緒を開き三十八年度提出豫算は本目所論の趣旨に基き編製せられしと雖も惜ひ哉。議會の容るゝ所と爲らず爾來尙ほ改めず豫め掻て痒を待つゝの愚に陥り依然として舊式を存す、今事の解し易からんが爲め左に表を掲げ聊か看官の便に便せん

第二目 豫算外國庫の負擔となるべき契約

茲に又其素質趣旨を異にすと雖も其目的稍々繼續費に類し國庫後年の負擔を一齊に一年度に於て定むるものあり何を哉。豫算外國庫の負擔となるべき契約を爲す事是なり。是れ帝國憲法第六十二條第三項に

國債を起し及豫算に定めたるものを除く外國庫の負擔となるべき契約を爲す

は帝國議會の協賛を經べし

とあるに基ひし學術教員の招聘出版物の繼續購入等の場合に適用するものにして、立法の意蓋し國家をして支拂義務の履行に差支へなからしめんとするの注意に出るものにして其主趣に於て固より間然する所なしと雖も適用其度に過ぐれば是れ亦多少後年を束縛するの結果なしとせず抑々議會は毎年之を招集し毎年度の費途を議せしむる者にして毎年の費途は毎年新に其議定する所と爲るを當然とす區々の事情の爲め後年の財政行爲を束縛するは憲法の要議に背き實際の運用に便ならず畢竟前記繼續費及本節所論の契約の如きは固より除外的便宜法なるを以て其適用は可成之を狹隘ならしむるを原則とす適用其度を得ざれば則ち財政の彈力を奪ふの虞れあり抑々歳計豫算は議會集會の始に於て之を提出すべきは會計法の命ずる所なり而して議會は毎年之を召集し其開會の始に於て豫算を議せしむる所以のものは立法の意先づ歳計を豫定し之に依りて一週年の謀を定むるを期するに在る哉歴然として疑を容るゝの餘地を存せず故に特別の必要なくして豫め後年の費途を定むるは法の精神に違ふものと斷言するを憚らず

豫め年度
外に渉る
費用を定
要むるの必

況や爾後數年に亘り其金額を定むるに於てをや

第七節 工事費及物品材料の供給

第一目 工事及物品供給の集中

前節記載の繼續費に依る所の大工事は勿論普通官衙の工事及物品材料の供給に就て尙ほ大に論ずべきものあり請ふ少しく之を述べん餘言は暫らく之を措き今中央に政府の工事及物品供給の任に當る所の一局を設け法規を嚴にし官紀を肅にし之をして建築大修繕及普通の備品消耗品供給の事を掌どらしめ各官衙の新營修繕備品消耗品に係る費用及之を掌る所の技師、技手、書記等の俸給を此中央機關に集め各官衙に於て新營修繕及物品の需要あるときは此の中央局に其設計計畫を依頼し又は物品の需要を爲し各廳に於ては雨漏、風防等の如き應急の小修繕のみに従事し且つ各廳に於て不用に屬する物品は之を中央局に復歸するものとせば變通の便大に開け多額の經費を節するを得べき哉疑を容れず英國の如きは中央に工事局なる者ありて各廳の工事を掌り併せて物品供給の任に當る故に

各廳は應
急工事の
ために従事

事能く其目的に副ひ浪費濫用を防ぐ上に於て大効あり、往時我國に於ても工部省の設けありて土木工事を司掌したるの例あり、今少しく之が規模を擴張し砲臺艦船の建築等兵事秘密を要するものは固より除外せざるを得ずと雖も、内外古今の例に鑑み、前記の一大局を中央に設置せば之れを現制の如く各廳に分ち各々吏員を備へて之に當らしむるに比して其利害固より同年の論に非ざるなり、斯の如くせば各廳建築の大小精粗其分を得べくして事始めて其目的に副ひ使用の物品又其品等を均ふすることを得べし、方今各廳の建築修繕宜しく精なるべくして精なるを得ず、粗にして其目的を達するを得べきも壯麗結構共に分に過るものなしとせず、物品亦品等を均ふせず、或は封筒脆弱に失して郵務當局却て不便を感じ、或は紙質堅韌吏員開封に苦しむの例なしとせず、而して試験室の建築設備の不完全なるに代へ、講義室の美麗堅牢に驚くの場合なしとせず、斯の如き不倫の奇觀は中央工事局の設置忽ち之を醫するを得べし、加之現制の下に於ける技師、技手の配置は其當を得ず各廳に適任者を得ること難くして一聽に敏腕熟練の士を得以て牛刀の感あるも他廳に於て擔任の士其術に堪能なる能はざるの歎なきを得ず又一廳

目下は甚だ不便なり

大口の購買

に於て事務閑散にして吏員脾肉の歎あるも他廳に於ては事務繁劇奔命に疲るゝの憂なしとせず其間兼務囑託等の事行はれ多少事情を緩和すべしと雖も之を一局に集むると其便否果して如何、智者を俟て後ち知らざるなり

外國の例

政府の工事及物品供給の一局を設くるの便益瞭然争ふ可らざるは既論の如しと雖も茲に又一他の便利ありて存す、他なし仲人の使用を減じ需用物品を一齊大口に購入するを得るを以て口錢を省き割引を得隨て廉價を以て需用品を得る事はなり、物品の購買巨多なれば水陸運送費に於ても亦割引を得るの便あり是れ經費を減少するの一端たり、面して仲人を省略するの利は只に口錢の關係のみならず官紀取締の上に於て間接の利益なしとせず、茲に於て哉幸國に於ては兵餉は成べく之を附近農民より購求すべし、又兵餉購入の爲には特に繰上支拂命令を發することを得るとの規定あり、夫れ國庫の計算は利子勘定の爲に拘束を受けず之が爲め特に大藏省證券を發する場合の外繰上命令國庫の爲め何かあらん露國に於ても兵餉を直接に農民より購入するの例あり、是れ農民保護の主意に出るものなりと雖も亦以て仲人使用省略の一例たるを失はず國家大兵を養ふに當りては

經費の節用と生産者保護とに鑑み一考の値なしとせず然りと雖も弊害は不測の邊に發す一齊大口の購買亦常に弊なきを得ず弊一たび生ずれば小口競争の方法復た之を試みざるを得ず故に大口の購買を試みると同時に競争の方法亦之を廢するを得ざるは勿論なり夫れ國家の歲計は兵備の大なるより紙屑の小なるに至るまで羅拉して以て漏すことなきを要す軍備の大を論じて紙屑の小なるを忘るるは財政其精を得たるものと云ふを得ず故に各省の紙屑も之を取纏めて中央物品供給局に送附し、同局に於て之を漉き返して諸般の用紙に充るを好しとす。外國に於ては銀行と雖も尙且つ注意を紙屑に及ぼすものあり、一銀行にして既に然り政府紙屑の貴重なるを知るべき耳、豈に之を輕々看過するを得ん哉而して政府收入の大部分は固より税金より來るものなり、事細微に涉ると雖も費用を節し納税者の利益を保護せざるを得ざるは固より論を俟たざるなり

第二目 山林の利用

中央土木供給局に附屬し材料供給の事亦大に攻究せざるを得ず元來土木建築の事業は巨額の材料を要す、鐵道の枕木、電務の電柱に於ける孰れも木材を要する

大小漏す可らず

利用の方

夥多にして其他各廳の修築修繕に要する木材實に少しとせず、然るに是等の材料を普通の歳入を以て購入するが如きは計畫其宜きを得たるものと云ふを得ず國家にして山林を有せざらん乎、吾人亦何を乎云ん、國家若し豊富なる山林を有するに於ては何ぞ輪伐區域を定め自己所要の材木を自ら供給するの道を講ぜざる、自ら其術を盡さずして民財を徵するが如きは固より策の得たるものに非ざるなり、宜く國中須要の場所を選び數多の貯木所を設置し、伐截の好季に於て輪伐區より木材若干を伐出し之を貯木所に收容し自然の乾燥に人爲の乾燥防腐の術を加へ倉庫出納の爲には一の特別會計を設け以て出納を明にし各廳は豫算額以内に於て其需用する所の木材を倉庫に需め倉庫は木材を拂出し領收證を受け之を國庫に納付するときは一錢の現錢を要せず民財を徵せず、單に物品收入を以て國家の收入を増加し巨額の木材を供給するを得べし而して餘材あれば之を民間に賣却し以て國家の收入を増加する亦可なり、物品收入の例は沖繩縣の砂糖、琉球飛白、八丈島の八丈綿等にあり之を行ふ實に易々たる耳、晚近歐米先進國に於て木材防腐の術大に行はれ則るに足るもの少なからず以て大に利用すべきなり而して森林

収入の事豈に木材に止まらん哉。竹材の如き亦其一要部たり。即ち治水工事に於ける蛇籠製造の如き竹材需用の大部を占むるものにして、舊幕府時代の如きは頗る之に留意し有名なる竹藏の設けあり、殊に艦材の伐截貯蓄に就ては最も周到なる注意を示せり、古人の國家經綸の衝に留意する深しと云つべし。輒近各國に於て建築、造船等の材料として金屬を使用すること頗る多く、殊に鋼の使用夥しく一見木材の使用を減ぜしに似たりと雖も、其實大に然らず。人口の増加と人文の發達は木材の使用に愈々増加を來し、電柱、枕木、鑛山用杭柱、道路建築用片木(ブロック)、摺付木軸、製紙原料、塞子用等往時に於て木材の需用甚だ少なく又は全く之なかりし方面に於て其需用夥しく年々其多を加へ専門家の調査に依るに其消費高之を四十年前に比するに正に二倍を増加せり、是に於て各國銳意山林事業を經營し其結果頗る見るべきものあり、今其一二の例を擧ぐれば西曆千九百八年度の豫算に於て、李漏西の山林原野の収入は一億三千五百八十萬餘馬の巨額に達し、佛國の如き山林に名なき國にても尙ほ同千九百十年度の収入豫算高に二千五百四十五萬餘圓にして其林業の進歩の如きは近年殊に顯著なるものあり、西曆千九百年の巴里萬

木材の需用及外國の例

我國の山林は睡眠の情態にあり

外國に於ける森林經濟の實況

國博覽會に於て佛國林業の出品は大に世界の人目を惹けり。抑々木竹材の伐截貯蓄は國家經濟の一部にして輕々看過すべきの問題に非ず、宜しく古今内外の事例に鑑み學術の應用に怠らず、天然の利益に従ひ人爲の術を加へ、前述諸般の利益を收め以て國家の収入を援助し併せて森林事業の發達を期すべきなり。今哉我國森林は殆ど睡眠の状態に陥り、四十三年度の豫算に於ては僅かに千七十四萬三千餘圓を見込み、森林資金繰人の約二百九十七萬圓の如きは臨時収入にして永久の者に非ず、漸次減少を告げ將に數年を期して皆無に歸すべきものとす。今試に英獨等森林經濟及其収入の一二の例を擧げて之を我國の情況に比するに、天淵管ならず、則ち英國の一貴族に屬する二百八「エイカ」^一、エイカ^二は四反二十四步強の森林地は、嶮岨なる山腹にあるも方今一年「エイカ」二圓五十錢の地代を得るは實に易々たる事に屬す、故に今之を三十年基礎にて還元すれば其價格は七萬五千圓となる而して之に殖林して途中にて透切を爲し得る所の収入は約四萬五千圓なるべくして五十年内に得る所は實に十九萬圓となり「エイカ」に付約九百十圓を得べくして殖林費は五十圓なりとす。又獨逸の「ハルツ」山林収入は一「エイカ」一年七圓「サイレ

シヤノギリアント山林は十圓にして、スウイツランドのツールヒ市所屬の山林に於ては純収入十五圓なり而して獨逸の國有山林の収入は上級下級の平均一「エイカ」に付純収入五圓五十錢、面積は一千萬「エイカ」凡そ國土の二割六分而して之に依り生活する者は約十萬人なりとす、之を我國方今の一町步約二圓十五錢に比し實に同年の論に非らず進て純収入を見るときは實に云ふに忍びざる所のものあり（三十九年度の如きは前年度に比し十五錢前々年度に比し十七錢を増加せしに拘はず一町步の収入六十七錢雜費二十六錢を要せり。加ふるに我國人士の森林を愛せざる實に驚くべきものあり其濫伐盜伐の甚しきは論なく今之を清國漢口枕木貿易の實況に徴するに我國より輸入に係る者は概ね生木にして只に適當なる防腐術を施さざるのみならず乾燥不十分にして黁を生じ易く輸入總額一割の不合格品を生じたるの實例あり是れ三十五年七八月頃の實況なり爾來見るべきの進歩なく三十九年に於て日本産の枕木一本の代價は凡そ一圓二十五錢にして米國産因に記すオンタリオに於ける材木の價格は西曆千八百九十三年の「ロード」五十一立方尺弱八十志より同千九百七年十一月の百二十七志に騰貴せり佛國産

に比較し六割乃至七割の低價なるも輸入者は尙ほ我國産を排して已まざるの勢あり是れ他なし米國産の者は代價高しと雖も燥乾十分にして適當の防腐術を施し耐久力に於て我國産に三倍するを以て敷設後修繕等の手数を要する少きの利あるに由る（日本産は二年乃至三年）木質に於て天然の不利あれば之を林業根底の改良に埃つの外なしと雖も單に乾燥及防腐劑等に不注意なるが爲め此不利に陥り彼の一本の伐木に對し我は三本を伐截せざるを得ず、剩さへ輸入品一割の不合格を見るが如きは實に吾人の遺憾とする所なり况や輓近の報告に依るに検査輸入済のものも尙ほ且つ黁を生じ其使用を嫌惡するの情益々加はるの勢あるに於てを哉其不經濟にして經濟宜を得ざるや論なき耳然りと雖も我國森林の實力豈に今日に止まらん哉其力能はざるに非ずして施設未だ其全を得ざるなり前途の多望なる多辨を要せず我政府も茲に見る所ありて三十八年度豫算に於て新たに國有林作業費なる一款を設け從來の立木賣却の方法を止め伐木製材の費用として二十八萬餘圓を請求し議會亦之を可決したるは林産物利用の爲め一步を進めたるものと云ふを得べし、爾來少して經營する所ありと雖も四十四年度の森

林費豫算は四百五十二萬餘圓にして國有林野經營費は約二百七十六萬圓なるに對し收入は前記の如く尙ほ僅かに千五十四萬四千餘圓に止まり頗る不振の成績たるを免れず右の外北海道に約三十九萬餘圓の森林費あり

第八節 臨時收入と經常費との關係

第一目 總論

國家の歳入歳出に經常臨時の區別あり我會計法夙に之を認め其第六條に歳入歳出の總豫算は之を經常臨時の二部に大別し各部中に於て之を款項に區分すべし

と規定し經常費は國家保存の爲め要する恒久の費用を支辨し臨時費は一時特定の事件又は事業の費用支辨の爲に要する者たるは世人の熟知する所なり夫れ然り然らば即ち臨時收入を以て經常費を支辨するの不可なる知るべき耳抑々財政の鞏固を保たんと欲せば出納の實況管に經常收入を以て經常費を支拂ふを得るのみならず臨時費と雖も其幾分は經常收入を以て之を支辨するを得るの域に在

らざるを得ざるなり何と云へば日進の世運に際會しては事物の改良進歩の爲め頻年臨時費を要し其素質に於ては依然臨時費たるを失はずと雖も事實上經常費用と其選を異にする能はざるもの多ければなり而して一國の財政にして經常收入を以て臨時費の大部分を支辨するの地位にあるを得ば夫れ之を財政の鞏固を保つものと云ふを得べし(財政基礎の鞏固と財政經理の完好とは自ら別特の事に屬す看官請ふ之を諒せよ)

第二目 臨時收入の實質

經常歳入の臨時歳入の實質は世人の熟知する所にして之を喩々するを要せずと雖も今試みに臨時歳入の著しき者を舉れば國債募集金、諸種の寄附金、官有財産の一時若くは年期付の賣却代價、森林の臨時伐木賣却代、不用品賣却代等なり而して外國より受る所の償金の如きは時に或は巨額に達する場合なきに非ずと雖も是れ固より臨時中の臨時に屬するものにして財政金融の問題に於ては之を論外に措かざるを得ず、臨時收入の實質夫れ斯の如し之に依り經常經費の支辨を計るの不可なる論なき耳

第三目 恒久の費用支辨は臨時収入に依頼す可らず

經常經費とは經常收入を以て之を支辨せざるを得ざるは論を俟たず、今個人の場合を以て之を例せんに茲に一家主あり其恒産より生ずる収入を以て一家の計を爲さず借金若くは所有財産の賣却代價を以て其費用を支辨せば期年ならずして倒産するは多辨を要せず、其の他人の寄附を待つが如きに至りては愚に非ずんば即ち狂固より一顧の値なし、國家の事豈に之と異ならん哉、自ら生産を増さず他國の贖購投資を待つ豈に危ふからずや、西曆千八百四十八年の佛國の革命たる其原因種々ありと雖も當時財政頗る困難にして數箇年の間短期公債を以て之を彌縫し終に情願はれ勢屈して如何ともする能はず是に一大破綻を生ずるに至りしは其一大原因にして之を史乘に照して明かなり、慎むべく惧るべきの至なり

國家の事變通を要すと同時に大に其費用を減

臨時収入を以て經常費を支辨する事の不可なるは大體に於て既論の如し、然れども國家に事變あるは猶ほ個人に災害疾病あるが如し幸にして事變小なるときは或は經常費を節して之を應ずるを得べきも事變少しく大なるに至れば到底其費用を經常收入のみに取ること能はざるは數の然らしむる所にして終に臨時收

めざる可からず

入に依らざるを得ざるは固より數の免れ能はざる所なり、國家の事豈に變通の策なからん哉、然りと雖も事苟くも臨時の素質を帶ぶれば其費用は必ず之を臨時收入に取るべしと云ふが如きは固より失當の事に屬す、臨時費と雖も鐵道、電信、築港、運河等の如く建設的の計畫に出る者の費用は成べく之を經常收入に取り累を後世に貽さざるを好しとす、若し失れ兵亂騷擾、天變地殃等の如く豫想するを得ざる者に對しては臨時収入を以て之に應ぜざるを得ざるは蓋し已を得ざるの數なりとす、然れども運輸通信事業等の如き大工事に向つて漫に後世を利するを名とし公債を起し事の成敗利鈍を慮るに精ならざるときは後世は其利を收むる能はず却つて其負擔の重きに苦しみ其發達を妨げらるゝに至るなきを保せず、後世は後世相當の負擔なきを得ず、然るに之に加ふるに祖先失策の結果たる餘殃を以てせば夫れ將た何を以て乎其發達を期するを得ん、慎まざるばある可らず

第四目 我國の近況

一國の經常收入の狀態が大體に於て佳良にして苛政收斂の跡なく優に其經常費を支辨し尙ほ多少の餘裕を存し臨時費を償ふの餘力あらば其財政は則ち安然

第一章 豫算の編製及執行 第八節 臨時収入と經常費との關係 第三目 恒久の費用支辨は臨時収入に依頼す可らず 二七

鞏固なりと云ふを得べし、我國財政の近況は明治廿七八年戦争前の如く寛裕なるを得ず増税の必要を生ぜしこと一再に止まらず債額亦頗る増加せしと雖も、經常臨時費の關係は近年までは財政の鞏固を保つを證せり、請ふ左に明治卅一年後の實況を表出せん

第三表

年	經常歳入出		臨時歳入出	
	左	右	左	右
三一(決算)	一一三、八六九、三三四	一一九、〇七二、一四四	八七、一八四、七九一	一〇〇、六八五、四二四
三二(全上)	一六七、六二七、二六七	一三七、五九〇、四一七	八六、六二七、二五七	一六、五七五、一一九
三三(全上)	一八〇、五〇九、五一八	一四九、一三四、一六六	一五、三四五、三四九	一四三、六一五、八九二
三四(全上)	一九〇、三六四、八三六	一六〇、三六四、八三六	八三、九九四、二四一	一〇六、四九三、二四一
三五(全上)	二〇九、五九一、七三五	一七一、〇五九、八〇七	八七、七四九、六八八	一八、一六六、九二三
三六(全上)	二〇九、二八八、二〇〇	一六七、七二一、二四六	四七、五一七、五九五	七九、七一、二四七
三七(全上)	二四七、四〇六、九四四	一二六、九六三、七八九	八〇、〇五九、九九一	一五〇、〇九一、八九三

年	經常歳入出		臨時歳入出	
	左	右	左	右
三八(全上)	二七三、五八四、六五一	一五六、六八一、四〇三	二六一、六七七、七四〇	二六四、〇五九、六〇一
三九(全上)	四四四、八九八、二五一	三三九、九五九、二三四	八五、五四九、五五五	一二四、三二一、三〇五
四十(全上)	四九二、二八七、〇三六	三九八、五六八、一〇五	三六四、七九六、七七五	二〇三、八三二、八五二
四十一(全上)	五〇九、八六二、八九六	四〇九、二四五、九二二	二八五、〇七四、二七四	二二七、一一五、一七一
四十二(豫算)	四七〇、三五四、一三六	四〇四、七〇〇、五一六	四八、五七五、一四七	一四、二二〇、五九五
四十三(全上)	四八三、九九八、二六六	四一一、一三一、六二二	四七、五〇七、七四八	二二、一七二、二九九
四十四(全上)	四九四、九一六、四九七	四一〇、一四一、八七五	七三、九八七、四一九	一五八、七六二、三九〇

軍事費は略す

由是觀之我國財政は往年に於ては頗る順況を示し明治三十五年度は經常歳入出の間に三千七百餘萬圓の差違あり、三十四年度の如きは經常費を以て臨時費總額の凡そ一割七分を支辨し得るの好況を呈し、三十六年度及三十七年度の豫算は不幸にして不成立となりしと雖も臨時議會の結果に依り之を見るに前記の如く尙ほ三四千餘萬圓の差違を示し、三十八年度決定豫算に於ても亦巨額の差違を存せり、而して此事たる固より數字上の事實にして所謂骸骨的事實に屬し毫も修飾

の之に加はるなし當時世人財政に向て咄々嗽々せしも是れ見易きの事實と數字とに就て研究の勞を取らざるに坐せしものにして幸に事實に適合せざりき然りと雖も三十九年度以降は大に其事實を異にし同年度より各種の臨時増税を永久税と爲し之を經常歳入に編入し四十年度に至りては臨時軍事費の殘餘を以て繰かに收支を彌縫し所謂足を削りて靴に適し頭を殺ぎて冠に便するの譏を免れず爾來依然として舊套を脱するを得ず今にして大革新を加ふるに非ずんば近き將來に於て困難なしとせず寒心の至りなり

第五目 露國財政の近況

一 歳出及國債の増加

又露西亞の財政は一種不可思議の現象を呈し往々世人をして其真相を窺ふ能はざらしむるものあり請ふ少しく之を述べん

抑々露國の歳計豫算は國會開設以前にありては皇帝に對する大藏大臣の一報告書にして毎年露曆一月一日を以て發布するものとせり今試みに西曆千九百二年の該國財政の報告を見るに歳入凡そ二十一億三千百三十六萬圓歳出凡そ十九

億七千八百三十八萬圓歳入殘餘凡そ一億五千二百九十八萬圓なり其所謂借錢政策中に斯の如く巨大なる歳入殘餘あるは頗る異數の感なきを得ず而して歳出の増加に至りては更に驚くべきものあり即ち西曆千八百八十五年と同千九百二年とを比較するに前者に於ては歳出九億一千三百十四萬圓なりしに後者に於ては前記の如く二十一億圓以上に増進し實に十三割三分を増加し西曆千九百四年年度の決算は更に増加して約二十七億三千八百萬圓となれり然るに西曆千九百五年十一月に發表せられたる決算に據れば歳計の不足額三億千七百十萬圓に達し前年度中に募集したる國債は悉皆編入済なり累年追送して同五年度に於ても約四億の短期公債を起して之を彌縫し同六年度に於ては豫算に於て臨時部に四億八千百十萬圓の不足を示し西曆千九百七年度の經常歳入は二十五億圓を豫算し臨時費は前年度剩餘と當年度收入の自然増加に依頼せり大國財政の經營素より容易の業に非ざるなり方今四海の大勢歳出の増加は邦家の免れ能はざる所なりと雖も露國の如きは蓋し稀れなり而して其國債の増加の如き殆ど人をして信據し能はざらしむる所のものあり即ち西曆千八百七十七年七月露土戦争の初期に於

ける十九億六千七百萬圓(内十七億六千七百萬圓は外債)より急に増加し三十七八年戦役前既に世界の第三位を占め西暦千九百九年に至り九十八億留(内五十八億留は外債にして三十五億留は佛の應募せし者なり)の巨額に達し第二位に進み元利子拂の爲め約四億留を要するに至れり。元來西暦千八百八十七年より同千八百九十九年即ち第十九世紀の終に於て歐洲大陸は一般に太平を樂みしに露國は其間國債を増加すること十七億五千萬圓の内十二億一千萬圓は鐵道敷設に使用し一露哩(凡そ我九丁にして英哩の三分の二)の建築費平均十萬九千五百留の巨額に達し之を隣國なる瑞典の五萬四千五百留に比して甚だ高く、世界有數の高價國を以て目せらるゝ北米合衆國の六萬三千七百留に比するも尙ほ凡そ六割の高價を見るの實況なり。是れ主として内國製の鐵を使用し爲に費用を増加すると約三億留に達せしに由らずんばある可らず、合衆國亦非常の保護國なりと雖も終に露に及ばず、而して鐵道の延長及其收支等を見る更に驚くべきものあり即ち西暦千八百九十二年より同千九百二年に至るまでの十箇年間に二萬八千八百露哩より五萬三千露哩に延長し費用十億五百萬留を要せり、然るに前後の總計を合すれば都

露國鐵道
巨額なる
原因

合十五億留となる、今専門家の説に據るに若し外國の鐵と勞力とを使用するとせば凡六億留を以て同線を複線と爲すを得べきとの事なり、其差違甚だしく信を措く能はざるに似たりと雖も露國政府は西暦千八百八十四年乃至千八百九十五年に鐵道の爲め内國鐵を使用せしこと一億三千萬、ブードにして爲に費用を増加せしこと九千二百萬留、爾後同一原因に依り三億留の費用を増加せし事實に徴すれば夫れ或は信を措くに近からん乎而して其損失額は前記十ヶ年間に鐵道の爲め起りし公債元利の支拂を除き六億留にして西暦千九百 年には收支不足七千三百萬留、戰爭の初年には四億留に達し、軍事輸送よりの收支は差引く(第二年の額は更に大なるべきも露の近情最も錯雜にして其真相を得るは内外の共に難しとする所にして事實に近き精數は殆ど之を得る能はざるなり

又最近の調査に據れば露國政府の鐵道公債三十三億二千三百萬圓年々の利子は約一億三千四百萬圓にして此利子の外に政府が比利亞線等の爲に損失する所一箇年約五千萬圓乃至一億圓に上り此外に普通公債の内より鐵道費として支拂はれたる者の利子を加算すれば露國政府の鐵道費支出は驚くべき巨額に達す

べし而して西曆千九百十年度に於ける政府鐵道收支豫算は左の如し

國有鐵道收入		六〇,〇〇〇,〇〇〇
私立鐵道よりする政府收入		一,二〇〇,〇〇〇
計		六一,二〇〇,〇〇〇
私立鐵道對する保護		三,〇〇〇,〇〇〇
年金等		五〇〇,〇〇〇
國有鐵道運轉資金		四八,一〇〇,〇〇〇
同上 改良費		四,六〇〇,〇〇〇
機關車、車輛購入費		二,八〇〇,〇〇〇
計		五九,〇〇〇,〇〇〇

(附言) 右支出には西比利亞線一部の改良費及同線複線建設費等新線に關する者を含まず

二 疑の點

斯の如くして露國政府は西曆千九百年より同千九百三年までに外債のみにて

都合三億五千六百萬圓を増加せり(事件發生以來の増加は前章記載の如し)同國公債の増進實に驚くべきものあり而して當時露國の財政は表面上非常の好況を呈し其豫算決算は常に殘餘を示せり是れ前記募集高と鐵道資金高との差違五億四千萬圓を經常部に繰入れ歲入殘餘の外觀を裝ひ露國公債の價格を維持するに努めたるものに非ざるなきやの疑は世人の胸中に蟠る所にして敢て無理とも云ひ難し然れども輒近露國歲入の増加は著しき現象にして英人デ・ロン氏の調査に據れば西曆千九百二年を以て終る所の十三箇年の間に其増加實に九億三千七百九十五萬餘圓の巨額に達せり

三 露國收入の増加の真相

今其内容に入り之が項目を見るに増加は主として酒類專賣(二十九留十「コツベ」)の酒類に二十一留の專賣收入を含有す(鐵道收入(民業とすれば收入は民の懐に入るものなり其を國庫へ移せしのみ)造幣局收入、御料山林收入及關稅にありて他は微々として論ずるに足らず即ち西曆千八百八十九年には是等の收入五億二千七百三十七萬餘圓にして同千九百二年には十二億三千三百四十五萬餘圓に増

加し同時に税収収入は四億四千七十九萬餘圓より六億七千二百三十萬餘圓の増加に止まれり、而して其増加も亦自然の増加に非ずして税率の増加に依るもの頗る多く即ち燐寸税の増加十割六十五、コベックスの燐寸代價中に三十五、コベックスの税金を含む、砂糖税の増加十割六分、二十七留十一、コベックスの糖價中に七留の税金を含むの如きは其最たるものなり、抑々砂糖は露國人民の最大需用品にして他國に比して一層缺く可らざるの事情あり、然るに現行輸入税は砂糖一本百二十英斤に付二十九志七片にして精糖同上三十九志五片なり而して近年倫敦市場に於ける糖價は中物一本最高十三志九片なるに依り露國に於ては税金のみにて英國の市價より遙かに高價たらざるを得ず故に砂糖の消費は英國の一人一年は六十九英斤に對し露は僅かに十四英斤六三に止まり、世界の第十一位に居るの實況たり、兩國人民生計の難易實に同年の論に非ざるなり、坤第二編第一卷第十二章第四節第二目參觀又試みに其隣國なる獨逸に比較するに露國の麥酒及煙草税は獨の其に三倍乃至四倍し砂糖税及石油税は一倍半乃至一倍四分の三に達す有名なる石油生産國にして此實ある誠に異數の感なきを得ざるなり

國庫遊金の真相
露國財政の奇觀

今一步を進めて露國財政の要領を適述すれば極端に民力を徴し又官業を努め毎年約一億六千二百萬留の殘餘を得ると雖も鐵道其他の臨時費の爲め約二億六千四百萬留を要し少くとも其不足約一億二百萬留は毎年之を借入れざるを得ず依て前記十二箇年度中に總計約十七億五千萬留を借入れ臨時費として約十二億四千八百萬留を使用せり(前記不足額と略々符合す)而して其差違凡そ三億留は之を蓄積す、有名なる露國國庫遊金なる者即ち是なり、已ぬる哉其名美なりと雖も仔細に其實を窺ふときは是れ借金の使用殘にして之を露の有と云んより寧ろ佛の有たるの觀なきを得ず而して露國は其死藏金に對し利子支拂を辭せず一種異様の財政と云はざるを得ず

四 歳入不足並に外債

斯の如して義和團匪の亂の比までは僅かに彌縫し來りしも終に支へず近年は毎年約三億留の不足を生ずるを常とす、其他前記十二箇年度中私設鐵道會社の外債にして政府の保證に係る者約十億五千萬留ありて西曆千九百四年の上半期に於ては是等露國政府の責に歸する者と純然たる國債とを合して既に總計八十八

億九百萬留に達せり、由是觀之、輒近露國の財政經濟にして外資を以て支へられたるもの約二十六億留の巨額に達す而して之に加ふるに日露戰爭の爲に起りし外債六億八千餘萬留内債六億留あり、斯の如く露國は常に平價以下にて、九十三乃至五なり、四分若くは五分を以て外債を起し之を以て金を購入し國庫遊金を積むを以て能事と爲すが如し、今其結果を見るに利子は物品の輸出超過を以て之を拂はざるを得ず、然るに今哉露國外債の總高は約八十七億圓、前記鐵道會社の分を除く而して佛より借入れたる高六十二億五千萬圓なり、にして之が爲め要する所の利子は約四億圓なりとす、其他露國が外國へ支拂ふべき運賃、保險料等は之を詳かにすることを得ずと雖も、國債外の外資の利子約三千萬圓而して露國人が外遊の爲め費す金額は凡そ七千萬圓たるべしとは世人の信ずる所にして、露國が貿易外に外國へ支拂はざるを得ざる金額は少くとも年々約五億圓なり、此巨額を支拂ふの財源は穀類及材木の輸出總輸出高の八割を占むとサイベリヤ金坑産出高凡四千萬圓との外他に之を求むるを得ず、然るに輒近露國の麥作は一人に付き二十二「ブート」四「ブード」は四貫三百六十八匁餘なり、今諸國に於ける一人宛麥の使

露民の麥の消費高

露國の外債

用高を見るは北米衆合國は六十一「ブード」九にして、丁抹は五十七「ブード」、佛國は三十三「ブード」六なりとす、故に露國は其民をして食に飽かしめんと欲せば、單に麥の輸出を止むるを以て足れりとせず、進て巨額の穀物を輸入せざるを得ず、然るに實際は前記の如く麥の輸出年に増加し、外債の利子拂の爲め過去十六ヶ年間に約六十億留の代價を以て約七十億「ブード」の穀物を輸出せり、民に菜色ある偶然に非ざるなり

茲に又曾て露帝の信任を忝ふし露都に於て「ウヒードモスチ」と號くる新聞の主宰たるウクトムスキ公と稱する一貴人あり、西曆千九百二年三月十三日の同新聞紙の社説に掲げて曰く

既に露國は獨逸に比して一人當り麵麩の消費三分の一を減ず、剩さへ獨人は露人よりも多く馬鈴薯及麥を消費す、露人をして國民と同様の營業を得せしめん、欲せば露國は其穀類を輸出すること能はざるべし

是れ其真相を得たるものに似たり、果して然らば露は國民に食料を與んと欲せば、外債利子を拂ふを得ず、國民に相當の食料を與ふれば一國の最も神聖なる義務を

歳計の明瞭を缺く

履行する能はざるの地位に在るもの、如く至難の状況を呈すものと云はざるを得ず、然れども是れ只門外漢が種々の經濟事項より推測する所に過ぎず、其内容の詳細を知らば大に安ずべきものなしとせざるべきも惜ひ哉、露國の事情は多く秘密に屬し西曆一千九百年の豫算中にある七千三百七十三萬二千九百九十四留の巨額の如きは諸費豫期せられざる費途豫備其他等明示し難き科目の下に編入せられ其内容を知る能はず、豈に遺憾ならずや

五 食料の不足並に獨佛との關係

今輓近露國政府の調査に據るに露民は肉食すること極めて稀にして其食飼は主として之を植物質に取るを以て一人一年の食料は少くとも農産物馬鈴薯共二十「ブード」是れ所謂饑饉率なりを要し、馬匹は一頭一年に燕麥四十「ブード」を要す、然るに歐洲露領五十縣に於ては一人の平均生産高十六「ブード」六を超過せず即ち三「ブード」四の不足を示す果して然らば農夫一人の生産力は以て一兵を養ふに足らず、况や無數の僧徒官僚を養はざるを得ざるに於てをや、其困難なる多辯を要せず而して農馬一頭に對しては二十三「ブード」六即ち十六「ブード」四の不足を示し、農産

物の最高はベッサラビヤン地方の三十七「ブード」八にして最低は北部の九「ブード」七なり、燕麥は之に反し最高は東北部の四十六「ブード」にして最低はベッサラビヤンの五「ブード」七十餘なり而して農民總數の七割七厘は農料の不足に苦み其數四五千五百三十五萬八千七十八人に達し二割四厘の人は饑を感ぜざるも馬匹に十分の食飼を與ふるを得ず、人馬共に饑を覺へざる者は僅かに八分九厘に止まる斯くの如くなるを以て毎年十一月比に至れば無數の農民貴族に向て哀を請ひ貨幣と食料を借入れ繼かに來るべき春を待つは決して例外の事に非ず却つて普通の事に屬す故に貴族輩は此弱點を利用し普通農夫勞銀の半箇以下にて彼等を自己の田圃に使用し剩つさへ農馬、農具等も彼等に自辨せしめ自ら之を有せず、トムモツ地方に於ては貴族地にて農馬及農具を有せざる者總數の二割六分リ、ペーチアンスクに於ては三割三分キ、サノフに於ては三割リ、ベツキに於ては四割ありて其他枚舉に遑あらず、斯の如くして農民は殆ど自己の土地を耕へすの暇なく貴族地と雖も勢ひ相當の注意を以て耕へさず、農業の進歩は夢にだに見る事を得ず大に退歩を促すは自然の勢なり、而して農民は二三年分も前借し居る者少からず壓制

に堪へ兼ね地主の眼を掠め遁逃を企る者あり、現に脱走して、コサツク村落に投じ水飲と成つて働勞し居る者少しとせず。斯の如くなるにも拘はず世の一部人士殊に獨佛多數の論者が頻りに露國財政を樂觀し其鞏固を説くは一見頗る奇異の感なきを得ずと雖も少しく之が眞想を觀察するときは是れ亦た怪むに足らざるなり則ち佛國の露國々債に投入せし金額は約百億法外に凡そ同額の商事的投下ありの巨額に達し佛國財産の總額二千百四十億法中千億法は不動産にして千四十億法は動産なり故に露にして倒産せば佛國は其動産價格の殆ど一割を失ふべく獨の露國々債へ投入したる金額は二十五億馬にして獨の財産總額は二千百五十億馬外に商事的投入十億馬あり内不動産千億馬動産千五百五十億馬なりとす、今此二十五億を失ふのみにても非常なる損失なるに獨露兩國は貿易の關係最も深密にして前者は其勃興する所の工産品を後者に糶し後者より其農産品を糶するの必要ありて露國總輸入額西曆千九百六年の高六億千九百九十餘百留中獨逸よりの輸入二億六千七百餘萬留にして獨の總輸入高八十億二千百八十九萬餘馬中露より輸入する者約十億八千八百萬馬に達し兩國の輸出入中の主位を占む、是れ

露と獨佛の關係

所謂惡縁にして其間斷んと欲して斷つ能はざる所のもの有りて存す、獨佛兩國の一部人士が露國財政の爲め喋々喃喃する亦故なきに非ざるなり、然りと雖も大勢の向ふ所固より人爲を以て廻らす可らず、輒近露國の國債頻りに下落し之を十年前即ち西曆千八百九十七年に比するに倫敦市場に於て正に左の如き差違を生ぜり

第四表

公債の名稱	西曆千八百九十七年最高	同千九百七年五月
一九九二分	一〇七、〇〇〇	九三、五〇〇
鐵道五分	九五、〇〇〇	六四、五〇〇
大陸鐵道四分	一〇五、二五〇	七五、五〇〇
一八九四分	一〇二、八七五	六五、五〇〇
一八三分半		

實に非常の差違と云つべし、夫れ公債價格は一國の信用を表示す漫りに人爲を加へて市場を迷はす可らず、抑々人爲は極まる所あり其馬脚を露はすに至りては一層の不信を招く鑑みずんばある可らざるなり、近者頗る恢復し五分は平價以上と

なり四分も凡九十五の好價を示す(四十三年末)然れども之を他國に比し尙大に及ばざるものあり、事情斯の如くなれば近時佛國輿論の一角に於ては新たに英佛露三國同盟を結び英佛二國の資本を以て大に露國の富源を發達し經濟上政治上三國の利益を計るべしとの説を生ぜり獅子王の之に耳を傾るや否や智者を俟つて後を知るべきに非ざるなり然り而して露國は將來尙ほ國家經濟の爲め巨額の費用を要すウイツテ氏の説に據れば露國をして一等國の地位を保たしめえと欲せば今後六十二億五千萬留乃至六十六億六千萬留の資金を要すべし、然るに佛國側の觀察は(ラ、レ、ヴェ、イ、新聞)八十三億留を要すと爲す其何れが是なるは未だ劇かに斷言す可らずと雖も斯の如き豫測は概して不足するを以て通患と爲す故に暫らく後者を以て比較的眞に近きものとせざるを得ず、知らず双頭の鷲四溟の水を搏て以て龍を喰ふを得るや否や、然れども喰はざれば則ち大鵬鷓鴣胡に若かず歐洲大陸財界の調和亦難い哉抑々露國公債は其目的明瞭ならずウイツテ氏在職十一箇年中佛國より借入れたる十八億留の如きは一部は舊債償還の爲め一部は國庫準備金積立の爲め使用せられ一部は露清銀行へ附與せられ其他は鐵道建設の爲めに

用ひられたり、依て英國の輿論は常に露公債へ投資するを戒む予の寡聞なる未だ輿論の一變せしを聞かざるなり

六 露國農地の生産力

又露國に於ける「デシヤチン」(二町一反四畝八歩)の穀物の生産力を他國に比するに左の如く孰れも著しく劣等の結果を示す

第五表 (數は「ブード」なり)

	露	獨	瑞	典	合衆國	キヤナダ
小 麥	二八、二	七七、〇	一〇〇、〇	六〇、三	六三、三	
大 麥	三二、八	五六、四	七五、九	四二、〇	六二、〇	
燕 麥	三九、〇	七三、二	八三、二	六三、二	九七、七	

合衆國の如きは土地廣大にして農事は極めて粗放なるに「デシヤチン」の收穫守約なる獨逸に亞ぐ之を露に比して頗る異數の感なきを得ず又最近英國農商務省の調査に據れば各國との比較左の如し

第六表 (西曆千九百五年を以て終る五年間の平均收穫)

	小 麥	大 麥	裸 麥	燕 麥
英 國	二九,九一	三二,五七	三二,五七	四一,〇九
獨 逸	二八,二四	三二,八四	三二,八一	三九,三九
佛 蘭 西	一九,二二	一六,〇〇	二二,一八	二六,六〇
匈 牙 利	一七,五四	一五,九二	二〇,九四	二四,八四
ルーマニア	一六,二四	一四,八八	一六,三五	一九,九七
勃 牙 利	一四,〇〇	一三,二二	一七,六二	
歐洲露西亞 (波蘭を除く)	九,六八	一一,三三	一二,六四	一六,二五

七 露國保護政策其他の影響

今一步を進めて露民の負擔を見るに露農は穀物二百二十英斤に對し二十二鎊を負擔するに反し、バイエルンの如きは歐洲中高税の國なるに拘はらず僅かに十鎊に止まる中央及東部露國の如きは最も甚しく西曆千八百九十年より同千八百九十九年の十年間に農民が負擔せし直税金額約四億一千萬圓に達し農民其重きに堪へず政府は終に約二億圓を拂戻すの奇觀を呈せり

元來西曆千八百六十一年の農奴解放令は其名甚だ美なりと雖も農民は之に對し巨額の賠償金通例一年約八千萬留戰爭の初年の如きは八千六百萬留に達せりを支拂はざるを得ざるを以て概して之を好まず、之に反抗して起りし所の一撥千百回の多さに達しカザン地方の如きは五千の農民藩旗を翻へし動兵の必要を生じ殺戮せられし者五十五人傷けられし者七十一人に達せり。今其執行の順序を見るに農民は當初二年間は絶對的服從の義務を負ひ其期間に貴族地主等の爲すに任せざるを得ず、次の二年間を過渡の義務期とし其間貴族等は農民の上に警察權を有し農民支配役の任命黜陟を擅にし賠償金支拂濟に至るまで之を繼續するものとせり、而して賠償は小區域に重く大區域に輕して上向遞減の法を採り、小區域の者は勢ひ賠償を爲すを得ず、剩つさへ大區域の幾分を高價を以て借地せざるを得ざるに至らしめ農民をして萬劫を経るも終に貴族等の土地を去る能はざるの苦境に陥らしめ坐ながら農民を壓し巨利を得不當の榮華に驕る者少しとせず、是れ露國農民の困弊に陥りし一因なり、加之輸入税は年に高まり今哉(三十八年)露農は綿布三十六英斤を得んと欲せば之に對し裸麥三十二「ブード」を與へざるを得ず、

彼の保護税を以て最も有名なる獨逸に於てすら尙ほ僅かに十一「ブード」を以て足れりとす露國農民の境遇亦難哉亦露民の必需品なる製茶を以て之を比するに獨民が九「ブード」を以て得る所の茶に對し露民は九十三「ブード」を與へざるを得ず懸隔も亦甚しと云つべし。諸般の鐵品器具亦保護の爲め大に其代價を増し之を隣國に比し二十乃至三十割の高價を保ち農具隨て騰貴し農民の生計に一層の困難を加ふ而して其他住家の卑矮なる死亡率の多き千に付四十六、四に達する所あり。露國農民の困難は財政の困難と年に増加するの勢あり。然に農民の智力を進め根本的に之を救済するは露國當局の好まざる所にして(西曆千八百九十七年の國勢調査に據るに文字なき者の數カールス地方に於て八割九分二厘セーフトヒートルスホルグ管内に於て四割四分九厘なり其他之に類す。漢にウキッテ氏大に工業策を講じて成らず轉じてサイベリキ滿洲の鑛業を試み進で鷄林に採鑛伐木を以て巨利を得んと欲して復た成らず終に拾收す可らざるの勢に陥われり、軍勢に曰く造作過制雖成必敗と况や成るべきの數存せざるに於てをや鑑みずんばある可らざるなり

八 十二年前と今日との歳入歳出の比較

以上の計數はデ・ロン氏の調査に據るものにして露國歳入の増加一見頗る大なりと雖も租税額の自然増加に至りては殆ど見るべきものなし、今又西曆千九百六年の豫算に掲ぐる所の數と十二年前即ち西曆千八百九十四年の主要なる租税收入とを比較するに其實況左の如し

第七表

	西曆千八百九十四年	同一九〇八年(實收)	同一九〇九年(豫算)	同一九一〇年(豫算)
直税總額	一、二七五、九三〇	一、九四一、八二六	一、九三三、八八二	一、九八二、四六九
煙草税	四六〇、八九五	五三〇、九三三	五七三、九九〇	六三〇、七六五
砂糖税	三、五七五、八三三	九三、六二七	九三、三六六	一三〇、八六五
關稅	二〇六、九五五	二七九、三五〇	二七六、四五〇	二八四、〇五五
印紙税	四、五七五、六一一	六、五八八、九〇一	六、八七七、四〇〇	七、四〇〇、一〇〇
財産移轉税	三、七五〇、〇九〇	三、一四八、一三三	三、〇六〇、〇〇〇	三、四六五、〇〇〇

過去十二三箇年間租税收入の増加斯の如く其著き増加を見るものは砂糖税、關稅

の二目なり即ち前者は約十割六分の増加を爲し而して後者近年の増加は世の熟知する所にして国力發達の結果に非ざるは多辯を要せず今試みに露國に於ける最近の輸入税増加の積を見るに左の如く宜に驚くべきものあり

第八表

西曆年次	食糧		未製品及粗製品		製造品	
	輸入價格	收稅額	輸入價格	收稅額	輸入價格	收稅額
一八六九	八七、六	二七、六	一八九、五	九、四	一六一、九	一四、九
一八七九	八九、八	三六、六	二七五、三	二六、二	一三、七	一八、七
一八八九	五三、九	三六、二	三三八、〇	四四、八	一九	七三、六
一八九九	七〇、八	五四、二	二八九、九	八八、〇	三〇	三〇、七
一九〇〇	七七、一	六三、六	二九三、九	七三、九	二五	一六五、一
一九〇一	八一、四	七四、七	二七三、六	八六、一	三三	一四〇、〇
一九〇二	七九、三	七五、九	二八三、八	八九、一	三三	一二九、九
一九〇三	八四、四	七五、三	三三〇、三	〇二〇、六	三〇	一四九、〇

爾來著しき變化なし然るに其間歳出の増加は驚くべきの巨額なり即ち西曆千八百九十四年には經常費總額約九億八千萬留なりしに西曆千九百六年度の豫算に計上する所の高は約二十億七千五言萬留にして其増加十割を超過し官業及官有財産收入の増加に由る即ち西曆千九百六年度の精算に於ける此種の金高は經常收入總額約二十二億七千八百二萬留中約十三億八千萬留を占め其半額を超過す露國財政の基礎斯の如く頗る異常にして殆ど中古の状態を見るの思ひあり而して歳出の増加亦容易ならず印ち

第九表

西曆年次	經常費	臨時費	合計
西曆千九百三年度決算	一、八三、〇三六、〇〇〇	三、四、八四三、〇〇〇	二、一〇七、八七八、〇〇〇
同 千九百四年度決算	一、九〇六、八四七、〇〇〇	八三〇、八四九、〇〇〇	二、七三七、六九六、〇〇〇
同 千九百五年度決算	一、九五、〇七六、〇〇〇	一、三九、五七七、〇〇〇	三、二〇四、七五三、〇〇〇

同 千九百六年度決算	二、〇六一、三四、〇〇〇	一、一五二、五三、〇〇〇	三、二二二、六九七、〇〇〇
同 千九百七年度決算	二、一九五、九八八、四四五	三六六、六四〇、〇三三	二、五八二、六〇八、四七七
同 千九百八年度決算	二、三六七、七五〇、五九五	二六八、九三三、三〇九	二、六一六、六八二、八〇四
同 千九百九年度決算	二、四五二、四三三、七六八	一五八、二七、八七二	二、六〇七、五五一、三九六

なりとす、收支同額亦一奇觀を呈するものと云つべし

今西曆千九百七年十二月十日露國大藏大臣が國會議場に於て爲したる説明に據れば八年度は之を前年度に比し國防の爲め五千五百五十萬留(内四千三百五十萬留は陸軍、千二百萬留は海軍)の増加を要し其他遞信事業の爲め四千五百萬留、農務の爲め千二百萬留、教育費六百廿萬留、内務、大藏、司法三省の爲め六百萬留の増加を要し多少の困難あるは最も容易きの數なりとす而して臨時費の主要なる者は戰局の爲め要する六千六百萬留、鐵道建設の爲に要する五千九百四十萬留、救荒費千四百三十萬留、東清鐵道會社債券の爲に要する七百五十萬留、釀造及蒸溜權收の爲め要する三百六十萬留、短期公債償還の爲め要する五千三百萬留なりとす、然るに是等臨時費中一億九千五百萬留は之に對する歳入なく新債を起して之に應ず

るの計畫なり、西曆千九百九十年に於ても同様の情況なり

然るに近年露國に於ては贖田上納金を全廢し酒類專賣收入(目下約六億九千八百萬留なり)も節酒獎勵の結果無限の増加を望む可らず、翻つて歳出の方に於ては假令海軍復舊案は既に議會を通過し陸軍の擴張補充等の費用は之を辭する能ざるべく將に明年度より大に之に着手せざるを得ざるべしとは露國の輿論にして頗る費用の増加を要するものあり、加之運輸通信事業等戰役の爲め已を得ずして繰延に附せしものも今裁整理進暢の道に就かざるを得ざるべく、教育衛生等亦多少の新費用を要するものなしとせず、露國財政亦多忙なる哉而して露國歲計の豫算と決算との間に著しき差あるは是れ亦健全の情態を示すものと云ふを得ず、則ち西曆千九百六年度經常費の豫算は約二十億三千三百萬留にして決算は約二十億六千百萬留臨時費に至りては最も甚しく約四億七千八百萬留の豫算に對し十一億五千一百萬留の決算高を顯出せり、八年度の結果此轍を蹈むなくんば洵に多幸と云つべし、就中其増加中約四億四千五百萬留の如きは國庫債券の償還の爲め要せしものにして全く之を豫算に見込まず突如として決算に顯はれしは頗る世人

の耳目を驚かせり

九 近來の増税

是等の費用を償はんが爲め露國政府は煙草税を増加して千四百萬留瓦斯及電燈税にて二百萬乃至三百萬留蠟燭及紙税にて七百萬乃至八百萬留を得んとす是れ所謂郷頭主義にして囊にウキツテすらも忌避せし所の方法なり而して西曆千九百四年度の收入決算は二十億千八百萬留内租稅收入は六億五千七百萬留にして總收入と經常費を比較すれば約一億二千五百萬留は收入超過を示し一見甚だ好良なるが如しと雖も戰爭前の國債は既に約六十六億留にして國債費は約三億千二百萬留の巨額に達し内約三十二億留は二萬四千三百一哩の鐵道購入の爲に用ひられ其他建設改良等の費用は五億留の巨額に達し其他露國に特別なる國民の負擔は農奴解放の辨償金にして總額二十億留中辨償濟額は三億五千萬留にして十六億五千萬留は尙ほ未來に於ける農民の負擔なり斯の如く露國の財政は國は巨額の公債費を負擔し鐵道は收支相償はず民は多大の國費を負擔するに搦て加へて尙ほ巨額の解放辨償金を支拂はざるを得ず他國に比して一種異様の關係あ

最近財政
上の情況

るものと云はざるを得ず然るに西曆千九百七年度の豫算に於ては酒類專賣收入を増すこと約一億留、關稅、鐵道、砂糖、石油、營業稅等皆增收を見込み、露國當時の國情果して其増加を見るを得る哉頗る世人の注意を惹けり、然るに支出の方に於ては國債利子約四千六百萬留、鐵道事業費約三千萬留、軍隊給養費千二百萬留を増加し其他臨時費に於て飢饉地方經濟費約六千萬留、短期公債償還の爲め五千三百萬留を要す收入の増加は確實ならざるに支出は即ち確定し而して其經常費に屬する者の如きは永久に涉り寧ろ増加するも減少の望み甚だ少きものに屬す。進んで西曆千九百八年七月上旬露國國會は歳入不足の調査を執行し歳出約二十七億七千萬留に對し歳入は約二十六億留に止まり一億七千萬留の不足あるを發見せり、此不足は内債を以て補填すべしと定めたり。然るに其原因は主として海陸軍々々鐵道教育費等の増加にありて單に本年度のみに止まらず陸軍は五箇年間々々二億五千萬留の増加を請求し海軍は殆ど算なく鐵道には三億留を要すべく教育諸般の設備には十億留を要するの見込みなり、是れ一見信じ難しと雖も從前設備の不完全なる國土の廣濶なる夫れ或は此巨額を要するの事實ならん乎。果然西曆千九

百九年度の精算は經常費二十四億四千九百五十三萬四千九百十七留にして前年度に比して増加すること約六千三百六十八萬餘萬留なり此増加を來せしは主として陸軍省の四千二百二十萬留遞信省の二萬九百三十萬留内務省の千二百十萬留司法省の七百三十萬留大藏省の二千三百八十萬留文部省の千百萬留農務省の千二百九十萬留なりとす今一步を進め豫算總額に就て之を見るに露國に於て最も巨額を要する者は遞信省にして(國柄に由る)經常費五億七千萬留臨時費六千萬留合計六億三千萬留計上し實に總支出額の約四分の一を占む(露國に於ては郵便事業は常に收支相償ず)次は言ふまでもなく陸軍省にて是れ又國柄に由る經常費四億七千六十萬留臨時費八千八百四十萬留合計五億六千四百四十萬留なりとす其他大藏省は經常四億五千六百萬留臨時四百五十萬留合計四億六千五百五十萬留海軍省八千八百萬留司法省七千二百萬留農務省七千百萬留文部省六千四百萬留商工務省四千二百萬留教務省三千百六十萬留宮内省千六百萬留會計検査院一千萬留外務省六百萬留中央各官衙八百五十萬留牧馬本部二百萬留豫算外に臨時支出一千萬留を計上せらる而して國債費は三億九千六百七十萬留を要し經常歳出總

額の約一割六分を占む

右の如く本年度歳出の増加は約一億六千萬留なるに歳入の増加は豫算通りの實收ある者とするも九千萬留に過ぎずして遙かに歳出の増加に及ばず今試みに西曆千九百三年(戦争の前年)以來の歳入歳出増減の實況を掲れば左の如し

第十表

西曆	經常歳入百萬留	兩曆一九〇三年に比し増減
西曆一九〇三年	二、〇三一・八	
同 一九〇四年	二、〇一八・三	減 一三・五
同 一九〇五年	二、〇二四・五	減 七・三
同 一九〇六年	二、二七一・七	増 二二九・九
同 一九〇七年	二、三四二・五	増 三一〇・七
同 一九〇八年	二、四一七・八	増 三八六・〇
同 一九〇九年	二、五二六・三	増 四九四・正

而して經常費の増加は前表の如く歳出入共に著き増加を示すものと云ふべし今

一步を進めて最近兩年度の豫算を示せば左の如し

第十一表

	西曆千九百十年	同千九百十一年
經常歳入	二、五八〇、〇六三、四九七	二、六六九、五七四、九一六
臨時歳入	一一、六二四、三八三	一二、四〇〇、〇〇〇
國庫剩餘金		一一、三七六、三八四
歳入合計	二、五九一、六八七、八八〇	二、六九三、三五二、三〇〇
經常歳出	二、四七〇、〇三五、三三三	二、五四五、九二三、五三一
宮内省	一六、三五九、五九五	一六、三五九、五九五
最高官衙	九、一二九、一一七	八、一九一、三九四
聖教務院	三四、一九五、二一七	三七、五六六、九八四
内務省	一五五、二三六、四八二	一六二、八九六、一六〇
大藏省	四二四、〇八九、八六六	四一七、六六六、五六二

司法省	七四、五〇三、九八九	七八、一二六、二六三
外務省	六、一七四、三〇七	六、二七三、五九五
文部省	七五、九九八、四五八	九一、六九四、三七五
逓信省	五五一、二三四、九一三	五五六、二一三、〇七〇
商工省	三八、六一八、九〇九	四〇、八四三、六一二
農務省	八五、五五三、六五五	一〇一、九〇八、七九二
馬政廳	一、九八一、四四八	二、一二五、四五四
陸軍省	四八〇、七一一、三九二	四八四、九九九、二七七
海軍省	八九、二四七、四二六	一一二、九九四、二五七
會計検査院	一〇、一九六、八五七	一〇、七九八、四六二
國庫元利	四〇六、八一二、一七四	四〇七、二六五、六七九
雜費	—	一〇、〇〇〇、〇〇〇
臨時歳出	一二一、六六二、五六七	一四七、四二七、七六九

内 譯

日露戦争に關する支出	二、八一八、五六五	二、三〇三、四一〇
陸軍諸官衙に要するもの	—	四八、六〇〇、〇〇〇
鐵道布設費	六七、一一〇、三一〇	九五、一〇五、一六五
私立鐵道會社補助費	—	一、四一九、一九四
雜費	五四、七二三、六九二	—
歲出合計	二、五九一、六八七、八八〇	二、六九三、三五二、三〇〇

因に云ふ我國に於ては西曆千九百八年三月に決算濟

由是觀之露國財政の裕かならざるは照々乎として其れ明かなり然れとも本年度に於ては前年度繰入ありて不足を補ひ得しは露國の爲めに賀すべき事とす是れ豐年の賜ものなり而して陸海軍費の多額なるは勿論露國財政の特徴は通信費の巨大なると酒類收入の大なることは是れなり前者は版圖の廣大なるの結果にして已を得ざるの事情なきに非ずと雖も後者に至りては決して國家遠大の政策として喜ぶべきの現象に非ざるは天下自ら定論ありて依て此所に贅せず

十 近年の貿易の實況

抑々財政は經濟の反響にして歲出の増進國債の増加生産的有効のものをして一般國運の發達に伴ふものたらしめば即ち可なりと雖も此間露國經濟の發達を見るに或は爲に寒心せざるを得ざるものなしとせず今外國貿易の成績に就き之を見るに西曆千八百八十三年には輸出十億三千七百二十三萬圓輸入九億一千八十萬圓同千九百二年には輸出八億九千三百三十萬圓輸入五億六千九百二十五萬圓にして即ち二十箇年間に輸出に於て年額四千五百九十三萬圓輸入に於て三億四千五百五十五萬圓を減少し西曆千九百九年に於ては輸出約十三億六千六百萬圓にして多少の増加を示せしと雖も輸入は約七億八千九百萬圓に止まり尙往日に及ばず是れ國民消費力の減少を示す者にして固より好兆と云ふを得ず而して其輸出の増加も既に供給裕かならざる穀物の輸出(約七億四千八百萬圓前年は三億七千五百餘萬圓に止まれり)に由る者にして是れ亦事實の順況と云うを得ざるなり

十一 農業の情況

又農業の情況に就て見るに西曆千八百七十年には穀物の收穫高四億ヘクトリトル(ヘクトリートル)は五斗二升八合四勺強にして同千八百九十四年には五

億千五百萬「ヘクトリートル」なりとす、是れ一見満足すべき結果なるが如しと雖も、此間露國の人口は七千萬より一億六百萬に増加せしを以て一人當の收穫高は五「ヘクトリートル」半より四「ヘクトリートル」九に減少したる割合なり（歐洲露領）。此人口の増加と前記輸出入の減少とを對照するときは露國經濟に就き轉た寒心する所のものなしとせす。

又輓近露國主要産物の産出高を見るに左の如し

第十二表

	西曆千九百二年より 同千九百六年まで	同千九百七年	同千九百八年
冬期黑麥	二二,三二一,〇〇〇	二一,九七九,八〇〇	二〇,四五六,〇〇〇
同 小 麥	六,四九二,六〇〇	四,八四二,〇〇〇	四,四一〇,〇〇〇
夏期黑麥	四,六九八,〇〇〇	五,七二四,〇〇〇	三,七八〇,〇〇〇
同 小 麥	一一,七二三,四〇〇	一〇,四三一,〇〇〇	一二,六〇七,二〇〇
獨逸小麥	二,八四四,〇〇〇	一,二七八,〇〇〇	一,八七二,〇〇〇
大 麥	八,〇一七,二〇〇	八,四五六,四〇〇	九,〇四一,四〇〇

蕎 麥	一,一三五,八〇〇	一,一一九,六〇〇	一,〇九四,四〇〇
玉 蜀 黍	二,二四八,二〇〇	二,五二九,〇〇〇	二,四三三,六〇〇
豌豆	一,二八三,四〇〇	一,四二〇,〇〇〇	一,七二一,八〇〇
扁 豆	七四一,六〇〇	七二〇,〇〇〇	七〇六,四〇〇
燕 豆	二〇七,〇〇〇	二〇七,〇〇〇	二四一,二〇〇
菽 豆	七五六,〇〇〇	七七,四〇〇	七七,四〇〇
燕 麥	一四,三九八,二〇〇	一四,四七〇,二〇〇	一五,〇三三,六〇〇
馬 鈴 薯	二八,九四二,二〇〇	三一,四五八,六〇〇	三二,三七六,六〇〇

第十三表

冬麥 三一,ブード二七 春麥 三四より二五

今露の農業化學の大家として知られたるメンデレエフ氏の調査に依るに露國が過去二十五年間に土地の生産力を失ひたる歩合は實に二割五合にして二十年前までに露の寶藏と稱へられたるサラマ地方に於てすら「デシヤチン」の收穫の減少左の如し

大麥 四一より三〇

裸麥 三三より一八

燕麥 三三より二六

馬鈴薯 三〇一より二一三

又隣國なる丁抹の一經濟學者ベルク氏の調査に依るに南露地方に於ては肥料の使用極めて乏しく例せばヴォルガ河畔のウタヴロポル縣に於ける二百の村落中百二十八箇村は曾て肥料を施したることなく土地は雜草を以て覆はれ種子の選擇は行はれず、小麥産地の農民にして曾て白麵麩を口に爲ることなく黒麵麩と雖も贅澤品と看做さるゝの情況にして收穫皆無の場合少からず饑饉は殆ど慢性質となり、國稅の重きは論なく地主にして對農民の徭役甚しく加ふるに鐵器類に重税を課するを以て農民之が使用に堪へず、已む事を得ず木製農具を用ひ草菅殺に膝も滿目荒廢般射の野を見るの思ひあり、嗚呼是れ誰の過ちぞや

斯の如き實況なるを以て露國に於ては饑饉は一の流行物となり西曆千九百六年の如きは殊に甚だしくサマラ地方に於ては「エイクル」の收穫高百英斤に止り種子の半を回復することを得ざるの凶作に陥れり、然るに該地方は人口三百萬餘を有するを以て如何ともし難く二箇月間に馬二十萬頭、牛八萬五千頭は或は屠殺

學者間の調査

貪食せられ或は斃死し家畜の損失二割乃至三割四分に達し饑饉は廿五縣に廣がり一家五口内三人は壯年者より成立するものが一日五十錢以下の費用にて生活せざるを得ざるの慘狀に沈淪せり斯の如き有様なるを以て國民教育の如きは夢にだに之を見る能はず西露に於ては文字を讀み得るは百分の二にて中露にては百分の四なり而して常食は馬鈴薯、胡瓜、黒パンにて纔かに饑を支ふるの有様なり、然るに寺院の祭祀日に於ては飽まで鯨飲馬食し大に健康を害し「イースタ」祭の後には死亡率増加し小兒の如きは倍數に達すと云ふ、總て露は兩極端に走るを以て常と爲し一方農民の極貧に對し一方官僚僧侶の驕奢あり一方農民の斷食的な生活あれば一方寺院の祭日に於ける放食鯨飲あり、一方天に連なるの平野あるに農民は常に耕地の少きに苦しむ總て常識を以て律す可らざるは是れ露式なりとす而して土地の割付も次第に減少し一人前の畑の面積は西曆千八百六十一年の四「デシヤチン」八より同千八百八十年の三「デシヤチン」八となり同千九百年には更に減して二「デシヤチン」半となり、同千九百一年には農民一人が耕し得る土地の五分の四以上を保有する能はず一人の生産高は其需用高に對し一割六分の不足を生し

家畜一頭の需用に對しては四割一分の不足を生し西曆千九百七年に於ては農民中自己生産物を賣却し能ふ者は僅かに總數の九分九厘にして七割七厘は自己食料に充つべき分量の收穫を得る能はざる窮境に陥れり然るに過去三十年間に中部及南部に於ては地代四五倍上騰し、東西部に於ては二三倍となれり、第十一表に掲載するが如き結果を生ずる偶然に非ざるなり、生計情態斯の如くなるを以て農民中に文化の普ねからざるは暫らく已を得さるとするも之と同時に地方官中の教育の程度に至りては更に驚くべき者あり即ち最近西曆千九百七年の調査に據るに露國地方官中等教育を受けたる者は僅に百分の二に止まり中等教育を受けたる者百分の六、小學に登りし者百人中十二人其他は曾て規律ある學校に學籍を有せし事なし、僧侶亦學識に富まず故に官僚及僧侶は國民教育の發達を望まず政令行はれず終に此情態を來せり(因に云ふ醫者も亦三萬人に一人の割合なり)

斯の如く露國上下の教育閉却せられ加ふるに歳入上の必要より飲酒は之を抑制するより寧ろ獎勵せらるゝを以て國民の身體智能に不良の結果を來し身體に就ては前陳の如く智能に就ては犯罪の増加大に参照すへきものあり、今最近司法

省監獄局の發表したる犯罪者の統計に據り之を見るに西曆千九百年に終る十二年間の一日平均在監人員左の如し

第十四表

西曆年次	人	西曆年次	人
一八九八	八四、六七六	一九〇四	九一、七二〇
一八九九	八六、八六二	一九〇五	八五、一八四
一九〇〇	八五、八五七	一九〇六	一一、四〇三
一九〇一	八四、六三二	一九〇七	一三八、五〇〇
一九〇二	八九、八八九	一九〇八	一六六、〇六四
一九〇三	九六、〇〇五	一九〇九	一六九、三八五

(六月一日現在)

又最近の報告に據り露國穀物の收穫の景況を見るに西曆千九百五年には總高三十七億八千四百萬「ブード」(「ブード」は四十英斤にして輸出六億九千七百萬「ブード」に達し同千九百六年には收穫三十二億五千七百萬「ブード」に減じ輸出亦五億九

收穫の景況

千萬「ブード」に減少せり、果して然らば内國消費の爲に爲す所の者は二十二億六千七百萬「ブード」乃至三十億八千七百萬「ブード」に過ぎず、今之を露の人口約一億四千萬に割當れば一人宛て十九「ブード」零五乃至二十二「ブード」餘にして平均二十「ブード」五五なりとす、凡我二石六斗四升、其量人口を養ふに充分ならず、加ふるに酒類製造の爲め多額の穀類を費やさざるを得ず、而して燕麥の如きは多く馬匹の飼養に使用せざるを得ず、露民の生活亦憫諒すべきものあり、是に於て方今露國の死亡率は諸文明國中に於て最大多數を占め、千に付き三三・五の高率を示し、之を其隣國なる獨逸の二二・二に比すれば實に同年の論に非ず、而して國民の體力健康亦大に減じ、近年軍備擴張の爲め大に標準を降下せしと雖も、徵兵不合格者年に増加し、歐洲露領五十縣の實況を見るに其平均實に左の如し

西曆千八百七十五年乃至八十三年	六分四厘
同 千八百八十四年乃至九十三年	七分五厘
同 千八百九十四年乃至同千九百一年	一割三厘

然るに今我四十年戰役前に比し兵數約十四萬人を増加す、是れ露國臣民の負擔に

穀物の輸出と外債との關係

一層の重を加へたるものと云つべし

斯の如く總收穫に於ても減少を示し、又一人當りを以て算するも露國收穫物は一人に付き凡そ麥類二石五斗に過ぎず、然るに同國輸出品の過半は農産物にして其價格年に三億乃至四億圓を超過す、此金高の大部分は外債の利子支拂に必要にして他に之を求むるの道なく、穀物の輸出は外債と共に年に増加し、西曆千八百七十年七十四年頃には其高三百十三萬二千噸に止まりしも、同千八百九十年九十四年頃には六百七十萬八千噸に増加せり、是に於て國民漸やく菜色ありて其生産力年に減少を示し、西曆千八百六十一年六十五年と同千八百九十一年九十六年とを比較すれば播種の石數に於て三割五分を減じ、之を三十年以前に比し、今日は土地の生産力に於て二割七分を減じ、西曆千八百六十八年より同千八百九十五年まで、飼養料缺乏の爲め農民が其馬匹を失ふこと四割八分の多きに達し、妻子を驅りて馬耕に代ふるの實況たり、今馬匹と農地との關係を示せば左の如し

第十五表

西曆年次	無馬農地	一馬同上	二馬同上	三馬以上同上
------	------	------	------	--------

一八八二	二六九
一八八八乃至九〇	二七、八
一八九一乃至九六	三二、二
	二九、一
	二一、九
	二一、七
	一七、五
西曆千八百六十年	四、デシヤチン _八
同 千八百八十年	三、デシヤチン _五
同 千九百年	二、デシヤチン _六

右は農夫一人に對する平均割付反別なり、割付は東北に於ては概して大きく東
南西南に於て小なり最少は一、デシヤチン_四なり

露の農事凡そ斯の如し幸にして西曆千九百八九兩年は近年の大豊年にして十

年の作柄亦平年を越へ幾分か活氣を添へたりと雖も人口も一億五千五百萬を越
へ麥類の生産高尙ほ一人二石に上らず之を他國に比して緩裕なりと云ふを得ず
況や多額の輸出あるに於てをや

十二 農民負擔の情況

加之農民の負擔は、年に重を加へ今哉三十七年其収入の六分の一乃至三分の一
甚さに至りては二分の一以上に達し農家食料の爲め僅かに一日約六錢を除すの
極に達せり。今各方面よりの調査の結果を見るにモスコ_ー管轄の最好地方名を脱
すの實況は一家の収入平均年四百二圓の内より直間税として七十二圓八錢内間
税は飲料税二十一圓六十四錢茶税十圓七十錢を主要なる科目とし直税は二十三
圓十六錢なりとすを徵收し同管内のキリン_{地方}は二百二十六圓五十八錢の收入
より七十七圓十四錢を徵し、サラトフ_{管轄}のバラセフ_{地方}に於ては百十七圓七十
六錢の收入より六十二圓三十四圓即ち歳入の半額以上を徵するの割合なり而し
て露領中最も富裕の名あるタウリダ_{クリミヤ}方面の地方會議(ゼムストウオ)の調
査に依るに該地方各家の所有地は平均凡そ十一、デシヤチン_ニにして直税十六留三

十七哥間税六十八留七十八哥合計凡そ八十五留を負擔す然るに收穫物の最も高價を占むるときと雖も賣却代價は七十五留に達すること難しと云ふ之を英國農民の收入が西曆第十七世紀に於て四十二磅十志に達せしに比し殆ど評言を求むるに苦しむ意納者の多き實に偶然に非ざるなり又一箇年三百九十留二十「コベク」の歳入を有する農家が主要なる消費品の爲に使用する一年の金額と其消費品の負擔する税金との關係を見るに左の如し

第十六表

物 品	價 格	税 金
類 酒	二九、一〇	二一、〇〇
砂 糖	二六、八六	七、〇〇
製 茶	二一、一一	一〇、四〇
綿 布 類	一〇、八九	三、八
他の衣類	六、四〇	未詳
石 油	四、五一	一、五
煙 草	一、六八	〇、三〇

燐 寸	〇、六五	〇、三一
合 計	一〇、二二〇	四四、二一

由是觀之是等消費品の負擔する所の租税は約四割四分にして他の費用の爲め一年僅かに百八十九留「コベク」を残すのみ、加之地租甚だ重く土地の生産力の四倍乃至六倍に及び甚しきに至りては十倍に達するものあり、夫れ露農は土地を得て其貧を加ふるとは世上に喧傳せらるゝ所なり諺に曰く天に口なし人をして言はしむと蓋し誣言に非ざるなり而して地方指揮官「リラル、コムマンドル」及地方裁判所及巡查は人民を鞭つの權を有し時に苛政誅求の譏なしとせず教授「ジェンソン」氏の調査に據れば西曆千八百七十七年「ノッゴロド」州に於ける實況左の如し

- 一 従前の御料地農民の地租の負擔は其生産力の十割
- 二 従前貴族地全上 十六割一分
- 三 従前よりの個人農業者 十八割
- 四 過渡義務農 二十一割

然るに方今に於ては五十六割五分に達する者二三に止まらず抑々「ノッゴロド」

は露國に於ては有數なる富裕の土地なるに輒近同郡會の調査に據るに男子の三分の一女子の三分の二は純農にして他に収入を求むるを得ず其他は副業に従事し爲に得る所の一年の収入は百八十五萬五千百留に達し一見富裕なるが如しと雖も食料の不足の爲め三百萬留以上租税の爲め三百二十七萬八千百三十六留を支拂はざるを得ず餘す所僅かに二百五十萬留のみ試みに之を一戸に割當れば一手僅かに十二留六五「コベックス」を残すのみ今一步を進め露國各地の土地収入と租税及地價賠償年額とを比較すれば左の如し

第十七表

管轄地	負擔歩合
セイントピートルスボルグ	一二八、〇乃至一五〇、五
モスコイ	二〇五、〇(平均)
トフエール	二四四、〇乃至二五二、〇
スモレンスク	一六六、〇乃至二二〇、〇
コスツロイマ	一四六、〇乃至二四〇、〇

プスコフ 一三〇、〇乃至二一三、〇
 ウラジミール 一六八、〇乃至二七六、〇
 ウィアツカ 九七、〇乃至二〇〇、〇

實に異數と云はざるを得ず而して殆ど信ずるに苦しむ然れども是れ世に傳ふる所輕々看過するを得ざるなり

十三 租税の怠納

斯の如くして農民の生産力年に減少し西曆千八百七十一年より以降八箇年間の平均國税の未納高二割二分に止まりしと雖も其より漸次増加し同千九百年には五十三割二分に増進せり今金額を以て之を見るに西曆千八百八十五年には五千萬留に止まりしに同千八百九十六年には一億四千二百五十萬留となり爾來大増加を爲せしや疑を容れずと雖も其數を得ざるを遺憾とす而して農民の市町村費未納高も亦大に増加し西曆千九百四年より國庫は年々二百五十七萬四千圓を支出し市町村費を補助せるの已を得ざるに至れり而して此費用は露國軍令第三十八條の規定に依る所の貧窮從軍者の家族扶助に充るもの多きに居るを以て今

後益々其額を増加するの傾向あり、露國財政に一困難を加ふるものと云つべし
 元來怠納は露國政府の痼疾なるを以て今一步を進め租税と人口との増加歩合の比例農地一「デシヤチン」一町一反餘の負擔額及缺損額救助額に就て一言するは敢て無用の業に非ざるべし請ふ少しく之を辯ぜん

西曆千八百八十三年乃至同九十二年間に露國人口の増加は一割六分なりしに租税は二割九分を増加し西曆千八百九十三年乃至同千九百二年の間には人口の増加一割三分に止まり(蕃殖力の減少を示す)租税は四割九分を増加せり故に怠納は西曆千八百七十一年乃至同八十年は平均一「デシヤチン」に付三十八錢なりしに次の十年間の平均は四十八錢となり西曆千八百九十一年乃至同千九百年には一回八錢に増加し強賣強徴頻々として起り農民は自暴自棄の境遇に陥り納税を努めず勤儉の美風地を拂ふて去れり(ベクチタエーフと稱する老實なる地主の調査に據る)

十四 缺損及救荒費

又政府側の調査に據るに増税の結果として過去十年間中央及本部九箇縣より

人口の増
加と租税
の増加と
の比較

収入すべき四億五千萬留中より實收し得しは四億七百萬留に止まり四千三百萬留は全く缺損に歸し同時に政府は同地方に向て救荒補助の爲め二億三百萬留を支拂ひ純収入は法定の半額に達せざるの奇觀を呈せり收斂の弊斯の如し豈に戒めざる可んや

抑々露國は國民の最大多數を(人口の約八割五分)占る所の農民を基礎とする所の帝國なるを以て其本を養はずんば國勢の隆盛を望む能はざるは論を俟たず然るに彼のウツテ氏は非常の熱心を以て工業政策を行ひしを以て其結果工場の繁榮は全く之を政府の注文に俟ざるを得ず政府の注文は國費の膨脹となり國費膨脹の結果は民力の乾涸となり止む事を得ず新設事業の維持を外國市場に求めんと欲し或は航海補助となり或は輸出獎勵金の支給となり甚しきに至りては法律を無視し中央銀行をして此等事業に對して貸付を爲さしめ西曆千九百一年には四千百萬留同二年には七千五百萬留を貸出し其内九百萬留は既に缺損となり其後尙ほ段々増加するの勢あり而して西曆千九百三年には貸出高一億留に上れり其本亂れて而して末治まる者あらしの例に漏れず當局非常の苦心も終に破れて

無理の結
果を中央
銀行へ持
込む

水泡に歸し坤第二編第四節第四目に於て記載するが如き結果を來せり、經濟の事情斯の如くにして財政の擴張を試みる又難からず哉而して晩近各種の報告に就て之を見るに西曆千九百七年度の如きは經費の増加甚しく其總額の經常歳入を超過すること十億留に達し殆ど信ず可らざるの情況を呈せしに尙ほ進んでウヰツテ氏の有力なる反對あるに拘はらず八億留を投じて極東に不生産的鐵道を建設するの決議を爲し自ら巨額の公債を起さざるを得ざるの苦境に陥れり而して保護政策は物價の騰貴を致し一旦之が爲め市街に集まりし人民は業を失ひ急に田舎に歸り食品燃料(寒國には大關係あり)の價格大に増加し納税負擔は前記の如く無類に重く食品缺乏して政府は殆ど年々救荒の爲め巨額を支出し問題は最早其當不當論を超へ何時まで斯の如き情態を繼續し得る哉にありて存す又佛國資本家の好意も無限なりと云ふを得ず倫敦經濟雜誌の如きは今哉露國の爲めに採るべきの策は只經費節減と重き租税を減ずるにありと論斷するに至れり當らずと雖も蓋し遠からざるべし

第六目 獨逸の情況

露國財政の景況斯の如し然るに其隣國なる獨逸の財政亦靜穩と云ふを得ず、西曆千八百八十八年度の帝國總歳出額は約七億四千萬馬なりしに其より十年を經過し同千八百九十八年度には既に十三億八千萬馬に増加し更に十年を經過し同千九百八年度に到りては實に約二十七億千八百萬馬と成り殆ど信ず可らざるの巨額に達せり此二十年間獨逸帝國の人口は三割を増加し能く世界最高の増加率を保つも歳出の増加は實に三十六割七分餘に達し其速かなるに驚かざるを得ず、國債の増加亦實に夥し請ふ之を左に表出せん

第十八表

西曆年次	債額 <small>單位百萬馬</small>	一人當り
一八七七 ^{三月三十一日}	七二、二	一、六六
一八八一全	二六七、八	五、九〇
一八八六全	四四〇、〇	九、三六
一八九一全	一、三一七、八	二六、五六
一八九六全	二、一二五、三	四〇、四六

一九〇一全	二、三九五、七	四二、四九
一九〇六全	三、五四三、五	五八、一四
一九〇七全	三、八〇三、五	六一、四八
一九〇八全	四、〇〇三、五	六三、七八
一九〇九十月	四、二五三、五	六七、三四
一九一〇全上	四、八九三、五	七五、二三

帝國公債の増加斯の如くなるに短期の大藏省證券發行高も亦大に増加し西曆千八百八十一年までは約四千萬馬を以て十分なりしに漸次に増加し同千九百八年度の發行見込額は四億七千五百萬馬の巨額に上り從て國債利子及管理費も大に増加し西曆千八百八十年には六百二十萬馬に止まりしに同千九百八年度には一億五千五百五十萬馬に増加し九年度豫算に於ては更に増加し一億七千四百十八萬七千馬を計上せり而して國債尙ほ漸次増加せざるを得ざるの勢ありて明治四十二年三月更に三億二千萬馬を募集せり、獨逸帝國財政改革の急務たる論を

埃及、今日同國の上下之が爲に慮心する實に故あるなり、然り而うして帝國の國債が斯の如き急劇なる増加を爲すと同時に列邦國債も頻りに増加し百五十億六千八十餘萬馬となり之を帝國公債に加ふるときは都合百九十九億五千四百餘萬と成り實に英の國債に超過し佛國の次位にあり、今三國負債増加の程度を示せば左の如し(單位十億馬)

第十九表

西曆年次	獨(列邦債共)	英	佛
一八八〇	四、三	一五、五	一九、二
一八九〇	九、八	一三、八	一五、三
一八九五	一二、三	一三、二	二四、七
一九〇〇	一三、〇	一二、八	二四、四
一九〇五	一五、六	一五、九	二四、八
一九〇七	一七、〇	一五、七	二四、五

一九〇八	一八、八	一五、四	二四、八
一九〇九	一七、八		
一九一〇	二〇、〇	一五、二	二五、一

由是觀之英佛の如きは額頗る多きも寧ろ減少の傾向あり然るに獨の増加は奔流の如く矢既に弦を離れて挽回の力なきの勢あり若し夫れ帝國債のみを以て之を論せば更に驚くべきものあり

是等の増加を來せし所以のものは開明世界一般の趨勢に依るものなさに非ずと雖も主として獨逸の國情殖民地開發の必要ありて之に要する直接の費用は勿論伴ふ所の軍備殊に海軍擴張寧ろ新設の爲め巨額の出費を要するに依らずんばある可らず抑々獨逸殖民政略は其國土人口の關係上一國の生命にして西曆千八百八十年之が計畫を定め費用を惜まざ爾來孜々として其經營を怠らず經畫以前は陸海軍を合せて軍事費は四億六千萬馬に止まりしに其より十年を經過し同千八百九十年には七億馬となり同千九百八十年には十億二千萬馬となり海軍最

も増加し西曆千八百八十八年度の五千萬馬より漸次増加し同千八百九十八年度に於ては既に一億三千萬馬となり爾後計畫を改め更に増加して同千九百六年度には二億四千萬馬同千九百七年度には二億七千萬馬同千九百八年度には三億三千万馬となり尙ほ同千九百七年度までの繼續費として毎年平均少くとも四億馬を要する計畫後に詳説すべしにして同七千萬馬は毎年公債支辨と爲すの見込みなり殖民事業直接の費用も輒近著しく増加し二十六年前(西曆千九百九年)以前までは殖民費なる科目は帝國豫算に顯はれず西曆千八百九十八年度に至り僅かに千二百萬馬を要せしに最近五箇年度に於ては平均約五千萬馬を要し西曆千九百八年度の豫算には七千五百萬馬を計上す是れ行政府補給平時軍事の費用なり而して帝國政府が當初より西曆千九百六年末まで殖民事業に使用せし費額は主として東阿の爲め九千百萬馬キヤメルソンの爲め二千五百五十萬馬トローゴの爲め四百萬馬南海群島の爲め二百五十萬馬サモアの爲め百四十萬馬西南阿の爲め九千四百萬馬新ギニヤの爲め七百五十萬馬膠州灣の爲め一億馬にして都合約六億四千萬馬の巨額に達し其他キヤロリン、マリアン及ベレウ島購買の爲め西班

牙に支拂ひたる金額二千萬馬、東阿征伐の爲め三百五十萬馬、西南阿征伐の爲め六億四千萬馬、都合約十二億八千三百五十萬馬の巨額を要せり(議會の特別委員の請求に依り政府の提出したる調書に據る)其他郵便船の補給、電信鐵道の費用、海軍費の増加等總て殖民地の爲め要する費用少なからず(殖民局本部の費用は別なり)是等を合するときは過去二十二年間(西曆千九百八年以前なり)に費やせし金高更に増加して約十七億六千萬馬に達するの計算なり、獨逸政府が殖民の爲めに力を盡す又大なりと云つべし、然るに白人の移住する者は西曆千九百六年には總計一萬二千三十六人、東南阿の六千三百七十二人を最多とし、マリアン島の二十三人を最少とす、而かも白人は獨逸のみに非ず、獨人は無論過半数なりと雖も、官吏、宣教師等を除けば凡そ半数なり而して収入は主として輸入税にて殖民地にて徴收したる税金は西曆千六百年には僅かに總額千九百十七萬馬に止まれり、爾來獨逸は益々力を殖民事業に致し、西曆千九百廿七年度の直接殖民地費用の豫算總額は約一億一千八百萬馬にして之を前年度にして約千三百十一萬馬の増加なり而して財政上の獨逸を保つはサモア、トウゴの二島あるのみ、他は皆多額の補給を要す(因に記

す獨逸政府北清事件の爲め費やせし費額四億六千六百萬馬なり、我は僅かに約二千五百萬圓即ち五千萬馬に止まる、彼我情態を異にする斯の如し)

獨逸帝國支出の増加の概況斯の如し、今計數を以て之を見るに、西曆千九百年の總支出高は二十億五千八百萬馬に止まりしに其より頻りに増加して同千九百九年には二十八億五千五百餘萬馬に増加し、同千九百十年の豫算に於ては少しく減少せしと雖も尙ほ約二十八億五千三百三十萬馬を計上す而して西曆千九百八年度の豫算に於ては八千萬馬の缺欠ありて次の五箇年間に八億四千萬馬の不足を生ずるの見込なり、何となれば同時間に海軍に四億七千萬馬、陸軍に一億二千五百萬馬、ホルチック運河擴張の爲め一億五千七百萬馬、帝國鐵道の爲め五千六百萬馬、官舎建築の爲め二千二百萬馬の臨時費を要し、其他帝國政府は殖民地鐵道の爲め一億五千五百萬馬の保證を引受けなければなり、此金高は全額を要せざるの見込、是れ戰爭饑饉等の如き事變なく太平に居ての増加なり、右の外各列邦の費用も亦少なからず、獨逸國民の負擔亦輕きに非ざるなり(八年度豫算十三億七千五百餘萬圓)

西曆千九百八年度に於ける獨逸帝國の豫算は之を昨年度に比し約一億五千三

百萬馬を増加し内三千七百五十萬馬は陸軍六千萬馬は海軍の爲に要し其他は主として役員給料増加の爲に要するものあり而して陸軍増加の主要なる者は野戰砲隊の爲に要する千三百萬馬糧食費の爲に要する千百萬馬なりとす是等の増加は全體の擴張整頓に依る者なるべしと雖も抑々亦保護の結果原料及食料品の騰貴に由るもの少しとせず而して歳入不足は二億六千五十萬餘馬にして之が補填は公債に依るの計畫なり加之本年度に於ては南西亞弗利加秩序回復の爲め特に三千五百萬馬を要するの勢なり抑々獨逸帝國は近年國勢大に張り費用從て増加し曩に西曆千九百零六年増税を遂行し一億八千萬馬を得るの豫定なりしに實收は一億三千萬馬に止まり殆ど租税の最大點を超過せしを呈し西曆千九百零八年の豫算に於ては新税の收入は一億三百萬馬以上を見積る能はざるの勢に迫れり實に新税(西曆千九百零六年の創始)中鐵道切手税の如きは五千三百萬馬を得るの豫期なりしに實收は二千三百五十萬馬に止まり(因に郵便收入も二千萬馬の減少を示せり)支系遺產税の豫期高は四千八百萬馬なりしに實收は四千二百萬馬に止まり賞與金(ポルナス)税は一千万馬を豫期せしに實際は六百萬馬に止まり以て國

費の増加を支ふるに足らず當年度に於ては公債償還の如きは固より之を停止せざるを得ざるの勢なり是に於てや新に酒精及ブランデー酒の專賣を試んとするの説當局に起れり然れども其收入見込額は五千萬馬乃至六千萬馬に止まり一專賣事業と爲し之を國家に收め其自營に歸せしむるの價值あるや否や頗る疑なき能はず煙草税増加も一部局に唱へらる而して普魯西の豫算も亦連年不足を告げ本年も五千萬馬乃至五千五百萬馬の不足を告げ列邦分擔高も西曆千九百零七年には一億九百萬馬なりしに當年は二億馬に達するの見込なり

斯の如く計畫豫算せられたる西曆千九百零八年度の豫算不幸にして好結果を見るに至らず經常收入に於て一億八千五百十萬馬の不足を生ぜり内主要なる者は關税の一億二千百萬馬の減少にして西曆千九百零六年の關税政策が如何に收入に影響せしやを見るに餘りあり二千六百三十萬馬は郵便電信收入二千六百三十萬馬は鐵道收入是は商況不振に於て減少し其他遺產税鐵道交通税麥酒税に於ても多少の減少を示せり歳出に於ても大に節約を加へ六千三百十萬馬を減少し國債償還寡婦孤兒保険料の繰入も當年度に於ては之を停止して純歳入不足は一億二

千二百萬馬に減ぜり、然るに該基金には五千三百萬馬を繰入れざる可らず、列邦への分賦金は一億馬に上り、曆千九百七年度の分擔金は延納となり、同年度の不足未償高尙ほ千三百八十萬馬を存するを以て、西曆千九百八年度の決算も亦容易に非ざるなり。

西曆千九百十年度の提出豫算は陸軍費を減じ、海軍費を増加し、公債費を増加し、殖民地補給費を減じて、外面頗る改良の形を呈せり、則ち

經常費は	二、六六六、八五八、〇〇〇
にして昨年比し	六、八五八、〇〇〇
を増加せしと雖も臨時費は	一九一、三一八、〇〇〇
にして昨年比し	二三四、六一六、〇〇〇
を減じ、差引總計	四三、二九八、〇〇〇
を減少し、海軍に於て	三六、四四〇、〇〇〇
を増加し、陸軍に於て	二八、三四〇、〇〇〇
	四七、三二六、〇〇〇

を減少し、海軍總計を

四四三、一三六、〇〇〇

と計上し、既定の繼續年割額

四四〇、八〇〇、〇〇〇

を超過す、以て繼續年割額の頼むに足らざる知るべきのみ

而して陸軍總計は

八〇七、四五八、〇〇〇

にして其減少は主として境界防禦にありて、外交上多少頼む所あるに似たり、海軍の増加は主として製艦及之に伴ふ所の港灣改良、船渠擴張なりとす

又收入に就て之を見るに左の如し

關稅及内地稅	一、四四一、六二〇、〇〇〇
にして之を現年度の	一、二〇三、二八〇、〇〇〇
に比するに僅かに	二三八、三四〇、〇〇〇

を増加す、元來立法の當時は新稅の增收は之を四億五千萬馬と見込みたりと雖も、實際豫算を編製するに當り二億馬以上を減ぜしは之を西曆千九百六年の經歷に願み頗る志慮ある處置と云はざるを得ず、其他は郵便、電信、鐵道收入、列邦分擔金等を以て支辨するものなり

公債に就て之を見るに本年度に於て前數年度の歳入不足を補填し及列邦分擔金の滞納を引受んが爲め總額六億八千萬馬の追加豫算を提出し内四億三千万馬は公債支辨にして其他一億五千二百萬馬は明年度豫算の不足を補ふ爲め借入を要す斯の如く公債増加するを以て利子總額は一億七千五百七十四萬馬となり現年に對し二千七百七十五萬馬の増加を示す。一時借入の利子は七百萬馬にして現年度に比し一千萬馬の減少なり、果して然らば中央銀行は少しく其金融を緩ふする事を得べし而して最近兩年の國債額の移動は左の如し

西曆千九百十年十月一日	同千九百九年十月一日
四 分利 公債	四一〇、〇〇〇、〇〇〇
三分五厘利公債	二、〇二〇、七四五、〇〇〇
三分利 公債	一、七八三、六六九、五〇〇
四分利大藏省證券	三四〇、〇〇〇、〇〇〇
合 計	四、八九六、六三三、五〇〇

右の外一時借入は常に中央銀行より借入るゝものにして金融市場を壓迫する

こと少なからず且つ斯の如く起債漸繁なるを以て獨逸の金利は常に他國に比して高位に在りて公債價格は晩近著しく降下せり、今過去十五箇年間の經歷を見るに西曆千八百九十七年に於ては舊四分利付を三分半に借換ゆることを得たりしに同千九百八年四月に至りては四分付に立戻らざるを得ず同九年の五月には幾かに四分利を以て發行するを得るの否境に陥れり、其價格を以て之を見るに西曆千八百九十年には三分半を百二半を以て發行するを得しに昨年五月の三分半は稍やくにして九十五、六を以て發行するを得たり第一の三分利付は西曆千八百九十年に於て八十七の價格にて之を發行して後久しく其發行を見ず同千九百三年に九十二にて發行せられたり而して西曆千九百十年の三分利公債の平均價格は八十四、四一なり、今西曆千八百九十七年以來の獨逸公債價格の變動及英佛との比較を示せば左の如し

西曆年次	獨逸帝國三分半利公債				獨逸帝國三分利公債				普漏西三分半利公債			
	平均	利廻	最高	最低	平均	利廻	最高	最低	平均	利廻	最高	最低
千九百十年	九四、二七	三、七二	九四、三〇	九四、二〇	八五、三三	三、五三	八五、五〇	八五、二〇	九四、二七	三、七二	九四、三〇	九四、二〇
一月	九四、一四	三、七三	九四、二五	九四、〇〇	八五、二四	三、五三	八五、四〇	八五、〇〇	九四、一四	三、七三	九四、二五	九四、〇〇
二月	九三、六三	三、七四	九三、九〇	九三、三〇	八四、六八	三、五四	八五、二五	八四、二五	九三、六三	三、七四	九三、九〇	九三、三〇
三月	九三、三七	三、七五	九三、七〇	九三、一〇	八四、七九	三、五四	八五、〇〇	八四、五〇	九三、三七	三、七五	九三、七〇	九三、一〇
四月	九三、〇六	三、七六	九三、三〇	九二、八〇	八四、六九	三、五四	八五、一〇	八四、三〇	九三、〇六	三、七六	九三、三〇	九二、八〇
五月	九三、〇〇	三、七六	九三、一〇	九二、〇〇	八四、六〇	三、五四	八四、八〇	八四、四〇	九三、〇〇	三、七六	九三、一〇	九二、〇〇
六月	九三、三三	三、七五	九三、三〇	九三、一〇	八四、五五	三、五五	八四、八〇	八四、一〇	九三、三三	三、七五	九三、三〇	九三、〇〇
七月	九三、〇四	三、七六	九三、三〇	九三、八〇	八三、九三	三、五七	八四、二〇	八三、七〇	九三、〇四	三、七六	九三、一〇	九三、八〇
八月	九三、三九	三、七九	九三、八〇	九三、〇〇	八三、三〇	三、六一	八三、六〇	八二、七五	九三、三九	三、七九	九三、八〇	九三、〇〇
九月	九三、四三	三、七九	九三、六〇	九三、一〇	八三、五三	三、五九	八四、〇〇	八二、七五	九三、四三	三、七九	九三、六〇	九三、一〇
十月	九三、四三	三、七九	九三、六〇	九三、一〇	八三、五三	三、五九	八四、〇〇	八二、七五	九三、四三	三、七九	九三、六〇	九三、一〇

西曆年次	獨逸帝國三分半利公債				獨逸帝國三分利公債				普漏西三分半利公債			
	平均	利廻	最高	最低	平均	利廻	最高	最低	平均	利廻	最高	最低
千九百十年本均	九三、一七	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇	八四、四一	三、五五	八五、五〇	八三、七五	九三、一七	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇
十一月	九三、二一	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇	八四、七三	三、五四	八五、二〇	八三、七五	九三、二一	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇
十二月	九三、一七	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇	八四、四一	三、五五	八五、五〇	八三、七五	九三、一七	三、七六	九四、〇〇	九三、三〇
千九百九年全	九三、一五	三、六八	九六、七五	九三、〇〇	八五、八四	三、四九	八七、七〇	八三、三〇	九三、一五	三、六八	九六、七五	九三、〇〇
千九百八年全	九三、五八	三、七八	九五、〇〇	九〇、九〇	八三、二四	三、六〇	八五、七五	八一、三五	九三、五八	三、七八	九五、〇〇	九〇、九〇
千九百七年全	九四、六六	三、七〇	九八、三〇	九一、八〇	八四、一五	三、五六	八七、三〇	八一、二〇	九四、六六	三、七〇	九八、三〇	九一、八〇
千九百六年全	九九、五四	三、五三	一〇一、五〇	九七、七〇	八七、七三	三、四三	八九、六〇	八五、九〇	九九、五四	三、五三	一〇一、五〇	九七、七〇
千九百五年全	一〇一、三三	三、四五	一〇三、六〇	一〇〇、三〇	九〇、〇八	三、三三	九一、八〇	八八、四〇	一〇一、三三	三、四五	一〇三、六〇	一〇〇、三〇
千九百四年全	一〇一、九四	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、三〇	九〇、〇三	三、三三	九二、二〇	八八、〇〇	一〇一、九四	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、三〇
千九百三年全	一〇三、〇〇	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、〇〇	九〇、〇三	三、三三	九二、二〇	八八、〇〇	一〇三、〇〇	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、〇〇
千九百二年全	一〇三、〇六	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、二〇	九〇、二八	三、三三	九三、五〇	九〇、三〇	一〇三、〇六	三、四三	一〇三、〇〇	一〇一、二〇
千九百一年全	九九、五四	三、五三	一〇一、七五	九九、八〇	八九、二七	三、三六	九三、四〇	八六、二五	九九、五四	三、五三	一〇一、七五	九九、八〇
千九百年全	九五、八〇	三、六五	九九、一〇	九二、七五	八六、七四	三、四六	八九、〇〇	八四、九〇	九五、八〇	三、六五	九九、一〇	九二、七五
千八百九十九年全	九九、七七	三、五二	一〇一、九〇	九六、九〇	九〇、七二	三、三一	九四、三〇	八七、六〇	九九、七七	三、五二	一〇一、九〇	九六、六〇

千八百九十八年全	二〇三、六五	三、四二〇	四、〇〇〇	一〇〇、八〇	九五、五三	三、一四	九七、七〇	九二、五〇	一〇三、六五	三、四二〇	四、〇〇〇	一〇三、六五
千八百九十七年全	二〇三、九五	三、三八〇	四、〇五〇	一〇二、六〇	九七、六六	三、〇七	九九、〇〇	九六、八〇	一〇三、六八	三、三八〇	四、〇五〇	一〇三、七〇

第二十表の二

西曆年次	普通西三分利公債						佛蘭西三分利公債					
	平均	利息	最高	最低	平均	利息	最高	最低	平均	利息	最高	最低
千九百十年	八五、二七	三、五三	八五、五〇	八五、一〇	八二、六〇	三、〇三	八三、一六	八二、一六	九八、八七	三、〇三	九九、一一	九八、五九
一月	八五、三二	三、五三	八五、四〇	八五、〇〇	八二、六〇	三、〇三	八三、一六	八二、一六	九八、八四	三、〇四	九九、一八	九八、五九
二月	八五、三二	三、五三	八五、四〇	八五、〇〇	八二、六〇	三、〇三	八三、一六	八二、一六	九八、八四	三、〇四	九九、一八	九八、五九
三月	八四、六八	三、五三	八五、二五	八四、二五	八二、二六	三、〇八	八二、八九	八〇、九二	九八、六七	三、〇四	九九、一八	九八、一八
四月	八四、七三	三、五三	八五、一〇	八四、四〇	八二、〇八	三、〇八	八一、三七	八〇、九二	九八、五七	三、〇四	九九、一八	九八、一八
五月	八四、六三	三、五三	八四、九〇	八四、三〇	八一、九八	三、〇五	八一、二七	八一、二七	九八、六八	三、〇四	九九、一八	九八、一八
六月	八四、五四	三、五三	八四、七五	八四、三〇	八一、〇四	三、〇五	八一、六二	八一、四一	九八、四〇	三、〇五	九九、一八	九八、一八
七月	八四、五一	三、五三	八四、八〇	八四、〇〇	八一、九八	三、〇五	八一、三三	八一、六二	九七、四四	三、〇八	九九、一八	九七、一八
八月	八三、九三	三、五三	八四、一〇	八三、七〇	八一、一〇	三、〇八	八一、六五	八〇、七六	九七、二八	三、〇八	九九、一八	九七、〇〇

西曆年次	平均	利息	最高	最低	平均	利息	最高	最低	平均	利息	最高	最低
千九百十年	八三、一九	三、六一	八三、六〇	八二、七〇	八〇、四六	三、一一	八一、〇〇	八〇、〇九	九七、四六	三、〇八	九七、八七	九六、九三
九月	八三、四九	三、五九	八三、九〇	八二、八〇	七九、九八	三、一三	八一、〇〇	七九、一五	九六、九三	三、一〇	九七、一八	九六、四八
十月	八三、六三	三、五九	八三、九〇	八三、四〇	七九、一八	三、一六	八一、〇〇	七九、七五	九七、三二	三、〇九	九七、五四	九七、〇〇
十一月	八三、六三	三、五九	八三、九〇	八三、四〇	七九、一八	三、一六	八一、〇〇	七九、七五	九七、三二	三、〇九	九七、五四	九七、〇〇
十二月	八四、五三	三、五三	八四、九〇	八三、七〇	七九、二一	三、一五	七八、七六	七八、五八	九七、三二	三、〇八	九七、八五	九六、九〇
千九百十年平均	八四、〇六	三、五五	八五、五〇	八二、七〇	八一、〇七	三、〇八	八一、一六	七八、五八	九七、九八	三、〇六	九九、一八	九六、四八
千九百九年	八五、八一	三、五〇	八七、七〇	八三、三〇	八三、八一	二、九八	八五、七四	八三、三〇	九七、七七	三、〇七	九九、三三	九六、三三
千九百八年	八三、一二	三、六一	八五、六〇	八一、二〇	八六、〇四	二、九二	八八、一六	八三、三五	九六、二四	三、一三	九七、六三	九四、三六
千九百七年	八四、一四	三、五七	八七、三〇	八一、二五	八四、一四	二、九七	八七、一四	八一、〇七	九四、八五	三、一六	九六、一三	九三、七八
千九百六年	八七、七三	三、三三	八九、六〇	八五、九〇	八八、三三	二、八三	九〇、八七	八五、七五	九七、六五	三、〇七	九九、九〇	九四、九五
千九百五年	九〇、〇六	三、三三	九一、七〇	八八、三〇	八九、八三	二、七八	九一、六五	八七、七〇	九九、二二	三、〇三	一〇〇、四五	九七、七〇
千九百四年	九〇、〇七	三、三三	九一、七〇	八八、三〇	八九、八三	二、七八	九一、六五	八七、七〇	九九、二二	三、〇三	一〇〇、四五	九七、七〇
千九百三年	九一、四八	三、三八	九三、三〇	八九、三〇	九〇、七五	二、八三	九三、四四	八七、二六	九八、一三	三、〇六	一〇〇、〇九	九六、三三
千九百二年	九一、九八	三、三六	九三、〇〇	八九、三〇	九〇、三五	二、九一	九三、六一	九二、二七	九九、六〇	三、〇八	九九、〇五	九四、五八
千九百一年	八九、二七	三、三六	九二、五〇	八六、〇〇	九四、三九	二、九二	九七、六九	九一、三〇	九九、二二	三、〇六	九九、四〇	九四、九四

千九百年全	六、六	三、四	八、一〇	九、九三	二、七	一〇、三二	九、八八	二、九二	三、〇七
千八百九十九年全	九、七	三、三	九、六〇	九、七、〇七、八	二、五七	二、二、三八	九、〇二	二、〇二、二四	二、九六
千八百九十八年全	九、二	三、二	九、三〇	九、七、五二、〇、九八	二、四八	二、三、〇三	二、〇七、三、四	二、九三	二、〇四、二八
千八百九十七年全	九、〇六	三、〇六	九、三〇	九、七、三三、二、四〇	二、三、五	二、三、六七	二、〇、九四	二、〇三、三三	二、九〇

四六

又地方債の票本たる西曆千八百九十一年の兩年に於て發行せられたる三分半利伯林市公債價格の變動を見るに左の如し

西曆千八百九十八年々末 一〇一、五〇
 同千九百三年々末 一〇〇、三〇
 同千九百八年々末 九三、八〇
 同千九百九年十二月初旬 九五、三〇

由是觀之最近の事實は伯林市の信用は帝國の上であり又奇ならず哉

ステング
ル氏ノ辭

輓近獨逸帝國の財政斯の如き悲況を呈するのみならず議會及各列邦及帝國間の關係頗る複雑し前大藏大臣ステングル男爵も殆ど之に處するの術に困却し終

に冠を掛て去り普國出身たるジドウ氏入て氏に次がり抑々ス氏はバイエルン國出身の人にして同國に於て理財上の令名夙に高く曩に西曆千九百三年帝國財政の漸やく困難の域に陥らんとするの兆あるに際し擡てられて帝國藏相の位に昇り爾來能く其任を盡せり然るに事茲に至る曩に帝國銀行總裁コツホ氏の辭職あり今又此良相を失ふ幸にして好後嗣を得るも友邦の爲め愛惜の情なきを得ざるなり。道般八月二七初旬ザキソン王國大藏大臣は帝國財政の實況を明言して曰く輓近帝國財政は滿性的缺乏の状態に陥り毎年不足額約二億二千五百萬馬に達す然るに西曆千九百八年度に於て新財源よりの收入豫期の額に達せざるを以て更に一億三千萬馬の不足を加ふべし故に國債償還の如きは全然望み能はざるの實況たり

と是れ蓋し其真相を得たるものにして獨逸帝國財政の根本的改正を要するや疑を容れず是に於て輿論亦之を促がしフランクフォルトツアイユング新聞等主として之を論ぜり然るに之が實施は容易の業に非ず國債は漸次に増加して既に四十億馬を超過し而して建國當時には關稅及内地關稅は之を帝國に收め直稅は之

を列邦に委し、帝國歳入の不足にして國債を以て償ひ能はざる者は人口割に基き列邦之を分擔し、列邦は關稅及内地間稅收入若干額を超過するときは其割前を受くるの規約なりし、然るに是等歳入の分類及歳出の分擔は當初より圓滿の結果を見ず、期年ならずして困難の狀を呈せしを以てビスマルクは保護製造事業に間稅を課し、繼かに國用を充し、西曆千八百七十九年乃至九十七年までは相應の收入を得、列邦の分擔額を減じ、却つて剩餘金の割戻を爲すに至り、圓滿の結果を見るを得たり、然るに關稅の收入は保護政策の爲め豫期の如くなる能はず、國運の進歩と人口の増加とは獨逸をして永く中歐七國の狀態を保つ能はしめず、海外殖民事業は其死活問題となり、大に海軍擴張の必要を生じ、爲に巨大の費用を要し、經濟財政の基礎茲に一大變動を生じ、以て新紀元を畫し、新たに財源を求むる必要を生ぜり、今軌近獨逸帝國が海軍擴張の爲め腐心したる結果を見るに左の如し

獨逸海軍費累年統計

第二十一表

西曆年次 經常費 一時限り費 臨時費 合計 製艦費

西曆年次	經常費	一時限り費	臨時費	合計	製艦費
千八百九十九年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百一年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百二年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百三年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百四年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百五年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百六年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百七年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百八年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百九年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇
千九百十年	千圓 七三、九四〇	千圓 四七、九六〇	千圓 四〇、三〇〇	千圓 一六二、二〇〇	千圓 四四、三〇〇

獨逸の製艦費は西曆千九百十六年までの繼續費にして其大部は七億六千九百萬馬の公債を以て支辨せらるゝものなり、西曆千九百十年の豫算までにて製艦費總

計は十億千八百二十四萬馬に上れり英國は全く公債に據らず年々必要の金額を豫算問題と爲すものとす、兩國財政の差違雖如として願はる豈に誣ゆ可ん哉

實に獨逸帝國は面積二十萬八千七百八十方哩を掩有し國土小なるに非ずと雖も人口既に六千三百萬を超過し而して其増加率は方今約百分の一半なるを以て佛のポリュエー氏大家シユエーラ氏等の説に據れば百年の後には二億に達すべく獨逸の海外殖民地を求むるに後々汲々たる故なきに非ざるなり、果して然らば舉國力を海軍の擴張に傾く是れ當然の結果のみ何を乎怪まん、然るに其費用を要すること亦莫大なるは論を俟たず、獨逸帝國の財政の實に容易に非ず、四海の市場に於て今日獨逸の信用伊太利の低位に在るは又是れ已を得ざるの數なりとす、然るに獨逸の地位たる陸軍も亦之を減ずる能はず西曆千八百九十九年には約六億四千五百萬馬に止まりしに同千九百八年には八億五千四百餘萬馬に増加し同千九百十年には少しく減ぜしと雖も尙ほ八億七百餘萬馬を計上す、今之を英國と比較するに更に一驚を添ゆるものあり即ち同時間英國の陸軍費は四一三、〇〇〇、〇〇〇馬より五六〇、〇〇〇、〇〇〇馬に海軍費は五二四、〇〇〇、〇〇〇馬より六五九、〇〇〇、〇〇〇馬に増加せり英國の數は九年までの數なり

西曆千九百三年ステンゲル氏就職の當初に於て遭遇せる困難は關稅及内地間

稅は之を帝國に保有せしと雖も其高若干以上に達するときは其超過額は之を列邦に分配すべきもの(フランケンスタイン規約に基く)なるを以て是等財源の増加は帝國の收入増加と成らず頗る困難を感じ規約を變じて帝國は關稅及煙草稅の全額を保有し列邦へ分配すべきは印紙稅及火酒稅の剩餘のみに止むる事に改定せり、然れども斯の如き姑息の變更は以て大勢に應ずるを得ず、關稅收入は保護の爲め増加を妨げられ、列邦は極力分擔額を増加するを拒み固く直稅獨占主義を採て動かず、進て間稅の増加を決行せんと欲すれば急進黨(ラヂカル)の反對する所と爲り政府黨(ブロック)亦四分五裂するの情況を示し殆ど術の施すべきものなきの窮狀を呈し、十分の經畫を爲すを得ず己むことを得ずして西曆千九百六年姑息なる折衷案を成立せしめ増加を直間兩稅に採り遺產稅(直系相續は免除)を設け間稅には運輸通交稅を設け自轉車稅を加へ、麥酒及紙卷煙草稅を増加せり、急進黨及社會黨は素より之に反對せり、是等新財源の收入を一億七千二百萬馬の豫期なりし

に實收は一億千八十萬馬に止まり、通交税の如きは四千二百萬馬の豫期なりしに其徴收に向上率を用ひしに由り上級旅客大に減じ人民旅行を見合はするの勢を生じ實收は千九百二十萬馬に止り、遺產税は四千八百萬馬の見込なりしに實收は二千六百三十萬馬に止り其他舊税に於て收入減五千萬馬に達し其他の減少を合し總計一億三千萬馬を減少し新經畫に係る實收概ね減少を示し其他尙ほ二億二千萬馬の起債を見るに至れり、然るに前記の如く來年度には尙ほ多くの不足を生ずるの見込なるを以て火酒の卸專賣及葉卷煙草税の増加を經畫すると雖も尙圓熟の機に至らず、直税の大部分は依然列邦の獨占に任ず

ステングル氏既に其職を辭し二月下旬逓信省次官ジードウ氏擧げられて以て藏相の任に就けり、抑々氏は西曆千八百八十三年甫めて逓信省に入り累進して同千九百一年次官の位に昇り帝國立法事項に通曉し曾て萬國無線電信協會に獨逸代表者として出席し夙に能吏の聞へあり、今回の拔擢亦故なきに非ざるなり而して氏が帝國大藏大臣たると同時に普漏西内閣に列せしは無門大臣として帝國と列邦との系統を一層深密ならしめ統一の域に一歩を進むるものと云ふを得べし。

ジードウ氏の就職及帝國財政改革の前途

元來方今獨逸財源困難の最大原因は海軍擴張に在るは勿論なりと雖も、帝國と列邦との間に成立する收入の分割法亦之が一大原因たらざるを得ず、加之立法行政の重複機關は徒らに費用を尨大ならしめ、バイエルン統計局長官教授ツァニン氏の調査に據るに獨逸國の歳入は帝國及各列邦を合して當時既に約七十七億馬の巨額に達せしが爾後頻りに増加し今や八十三億六千餘萬馬の巨額に達す、之を露國の約五十億馬、英の三十億馬、佛の三十二億馬に比するに頗る過大なりと云ふを得べし、勿論獨逸に鐵道及山林等政府事業の收入頗る多く之を西曆千九百六年の實況に徴するに南獨逸のみにして三十八億馬に達し、埃伊、佛、露、英の五大國の同種の收入の合計に四億馬を超過すと雖も獨民の負擔亦輕きに非ず、况や是等政府事業は之を民間に委するときは國民の收入と成り納税力を増加すべきものなるに於てをや、獨逸國經濟財政の状態亦夷々坦々と云ふを得ざるものあり、又前記ツァイン氏の調査に據るに方今(西曆千九百六年)英佛獨三箇國の直間及關稅收入の一人當は

第二十二表

國	直 稅	國稅及間稅
獨(帝國)	八一九	二六、五二
英(グレート)	一八、四二	四八、六六
佛	一二、三八	五〇、八二

にして表面獨に輕きが如しと雖も租稅負擔の計數上の輕重は直ちに採て以て其國財政難易の唯一の標準と爲すに足らず賦課徵收の情況課稅物件の種類亦大に調査を要すべきものあり獨の食品稅及原料稅の如きは大に國民殊に細民の納稅力を減ずるの結果なしと云ふを得ず况哉又前陳の如く官業盛大にして民業の立脚地を狹窄するの實あるに於てや新藏相の苦心亦鮮少に非ざるべし

執近獨逸財政の困難なる事既説の如く夫れ甚しく大に四海の耳目を惹き内外の新聞雜誌等毎號之を論ぜざるもの殆ど稀なり今各方面の調査成績に就て之を見るに其原因は軍備擴張にありて主として海軍費の増加にある哉疑を容れず其概況を述べれば左の如し年度は四月一日に始まる

第二十三表

西曆年次	支出總額	海 軍	陸 軍	海陸合計
一九〇三	二、三五九、三〇〇、〇〇〇	三三八、〇〇〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇二八、〇〇〇、〇〇〇
一九〇四	二、〇六八、〇〇〇、〇〇〇	三二〇、〇〇〇、〇〇〇	六四六、〇〇〇、〇〇〇	九六六、〇〇〇、〇〇〇
一九〇五	二、一五九、二〇〇、〇〇〇	三二六、〇〇〇、〇〇〇	六六六、〇〇〇、〇〇〇	九九二、〇〇〇、〇〇〇
一九〇六	二、四三三、二〇〇、〇〇〇	三五九、〇〇〇、〇〇〇	七三三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇九二、〇〇〇、〇〇〇
一九〇七	二、五九六、五〇〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇、〇〇〇	七九六、〇〇〇、〇〇〇	一、一二六、〇〇〇、〇〇〇
一九〇八	二、七五〇、〇〇〇、〇〇〇	三四一、一〇〇、〇〇〇	八五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、一九一、一〇〇、〇〇〇
一九〇九	二、八六五、四〇九、〇〇〇	三九九、〇〇〇、〇〇〇	八五五、七六四、〇〇〇	一、二五四、七六四、〇〇〇
一九一〇	二、八五二、二九五、〇〇〇	四四三、五五四、〇〇〇	八〇七、四五八、〇〇〇	一、二五一、〇一三、〇〇〇

由是觀之海軍費の増加と共に陸軍の費用も亦増加せり是れ中歐に國を建る獨逸帝國の決して免れ能はざる所の運命なり而して是等の金高には費用多き軍事的殖民地費用及膠州灣設備諸費西南阿弗利加及北清事件の費用を包含せず而して海軍繼續費も亦頗る巨額を要す請ふ之を左に掲載せん

第二十四表

西曆年次	經常費	臨時費(國債支辨)	合計
一九〇八	二四九、一〇〇、〇〇〇	九〇、一〇〇、〇〇〇	三三九、一〇〇、〇〇〇
一九〇九	二八七、七〇〇、〇〇〇	一一七、八〇〇、〇〇〇	四〇五、五〇〇、〇〇〇
一九一〇	三三三、八〇〇、〇〇〇	一二七、〇〇〇、〇〇〇	四四〇、八〇〇、〇〇〇
一九一一	三三七、二〇〇、〇〇〇	一二四、五〇〇、〇〇〇	四五七、二〇〇、〇〇〇
一九一二	三四九、七〇〇、〇〇〇	九九、四〇〇、〇〇〇	四四九、一〇〇、〇〇〇
一九一三	三五八、七二〇、〇〇〇	六一、六〇〇、〇〇〇	四三〇、三二〇、〇〇〇
一九一四	三六八、四〇〇、〇〇〇	四八、三〇〇、〇〇〇	四一六、七〇〇、〇〇〇
一九一五	三七四、四〇〇、〇〇〇	二七、三〇〇、〇〇〇	四〇一、七〇〇、〇〇〇
一九一六	三八七、四〇〇、〇〇〇	二二、三〇〇、〇〇〇	四〇九、七〇〇、〇〇〇
一九一七	三九九、四〇〇、〇〇〇	一八、三〇〇、〇〇〇	四一七、七〇〇、〇〇〇

獨逸帝國海軍の爲に要する繼續費斯の如く夫れ巨大なり然るに實際は尙ほ之より以上の費用を要することあるを期せざる可らず抑々繼續費なる者は現在を以て未來を推す者なるを以て時勢の進歩不時の出來事等の爲め之が増加及組替

を要するは之を過去の經歷に徴して殆ど疑を容れず我國に於て屢々之を經驗し又獨逸に於ける西曆千九百六年の海軍繼續費と今回の經常豫定額組替高とを比較するに思半を過るものあり請ふ其差違を左に表出せん(總高の差違は更に大なるべしと雖も經常費のみを以て比較する方國民負擔の真相を見るに便なるを以て經常費組替を以て比較す)

第二十五表

西曆年次	西一九〇六年の豫定高	今回の増加額
一九〇八	二三五、八〇〇、〇〇〇	一一三、三〇〇、〇〇〇
一九〇九	二五〇、八〇〇、〇〇〇	三六、九〇〇、〇〇〇
一九一〇	二六二、七〇〇、〇〇〇	五一、一〇〇、〇〇〇
一九一一	二七四、八〇〇、〇〇〇	六二、四〇〇、〇〇〇
一九一二	二八六、一〇〇、〇〇〇	六三、六〇〇、〇〇〇
一九一三	二九六、七〇〇、〇〇〇	六二、〇二〇、〇〇〇
一九一四	三〇五、一〇〇、〇〇〇	六三、三〇〇、〇〇〇

臨時費の増加

一九一五	三三三、七〇〇、〇〇〇	六〇、七〇〇、〇〇〇
一九一六	三二四、一〇〇、〇〇〇	七三、三〇〇、〇〇〇
一九一七	三三二、一〇〇、〇〇〇	七八、三〇〇、〇〇〇

由是觀之將來に於て復た増加的組替を必要とするなきを保せず况や獨逸は保護政策を以て國是と爲すに於てをや其大體の得失は此所に論ずべきに非ずと雖も之が爲め材料物資を高價ならしむるは論なき所にして隨て經費を増加するは疑を容るゝの餘地なし果然西曆千九百十一年度に於ては海軍總經費を四億五千餘萬馬に増加し内約九千萬馬には國債支辨の見込なり今比較の爲め西曆千九百七八兩年度の内譯を見るに左の如し

第二十六表(金高百萬馬止)

西曆千九百七年度	同千九百八年度	同千百十年度
内國政務費	一九	二四
陸軍	五二	五六
海軍	五七	九〇
		一一三

西曆千九百七年度の收入精算

殖民局	八	
郵便電信	四五	六〇
帝國鐵道	三八	三〇
東亞領地 <small>(在留獨人六七五名)</small>	七	七
南東阿同上 <small>(全上五、二七六名)</small>	四〇	
合計	二五八	二七五

抑々臨時の増加は經常増加の因を爲すは財政の通患にして深く注意を要するは論を俟たず而して本年度に於て東南阿洲領地の爲に臨時費を見積らず是れ豫算に於ては已を得ざる事に屬すべきも一週年を通じて無事なるを得るは蓋し望外の仕合なるべし然るに増税は最早國民の堪ゆる所に非ず曾て西曆千九百六年或新聞の調査せし所に據れば伯林に居住する一年千九百四十馬四十八片の收入を有する一印刷職の負擔する直間税總額は市税を除き百三十五馬に達し英國に於ける同情態にある者の約四倍(英では三十一馬)なるの事實を示せり

獨逸帝國財政の情況凡そ斯の如く殊に西曆千九百七年度に於ては各列邦の分

擔高も約三億二千萬馬に達し定規の數に超過すること約一億二千四百萬馬に達し列邦の財政亦裕かなるを得ず就中普漏西の如きは炭出年に増加し本年度の如きは其高約三十三億六千二百萬馬に達し鐵道改良の爲め二億四千二百萬馬の借入を要し其他ポロランドの土地強買役員の俸給増加等の爲め尙ほ五千八百萬馬の増加を要するの勢なり而して軌近發表せられたる西曆千九百七年度同八年三月に終るの收入精算を見る大體豫算に對し三百五十萬馬の超過ありと雖も豫算各目に對し増減頻繁殆ど百折の黄河を航するの思あり即ち關稅收入は實收豫算(豫算は六億百萬馬)に超過すること四千二百萬馬内地消費稅中火酒稅は實收約一億千三百萬馬にして豫算に超過すること約千萬馬にして前年度實收に比し約七百八十萬馬の超過を見るの好況を呈し之に反し釀造所稅は約三千百二十一萬馬にして豫期に對し六十萬馬の差減を示し紙卷煙草稅は約千二百六十七萬馬の實收を得豫算に對し百二十萬馬創始年度に對し約六百萬馬の增收を得砂糖稅は實收約一億二千八百萬馬にして豫期に達せず鹽稅は豫期(豫算は約五千八百萬馬)に對し二百四十四萬馬の增收を得鐵道收入(エルザス、ロートリサゲン線)に豫算約一

億千八百萬馬に對し實收三百三十萬馬の増加を示し郵便及電信收入は實收五億九千七百八萬馬に止り豫算に對し千三百萬馬の差減を生じ新發行證券登錄稅は二千百三十萬馬の豫算に對し實收千三百九十四萬馬に止まり株式及債券の讓渡稅は千九百六十萬馬を得るの豫期なりしに實收は僅かに九百四萬馬にして半額に達せず交通稅(鐵道切符)に賦課するものは三千萬馬の豫算なりしに實收は千八百六十萬馬に止まり同稅設立當時(西曆千九百六年)の豫期四千五百萬馬に對し莫大の減少を示せり而して新設の自働車稅及會社支配人賞與金稅は豫期の半額に達せり然るに船荷證書稅の如きは豫算額千三百七十二萬馬に對し千五百四十六萬馬の實收を得又前年度の實收千二百二十萬馬に比して著しき好況を呈し直系遺產稅は三千六百萬馬の豫算に對し實收は二千五百六十五萬九千五百萬馬に止まれば其他花籃稅の如きは頗る奇態の狀況を呈し州立に於ては豫算に及ばず私設は却て豫算に對し一萬馬の増加を示せり是れ或は弊習の社會下層に充盈するの表示にあらざらんか頗る注意すべきの現象なり

收入の實況斯の如く所謂擲頭流の弊に陥り一大改革を要する哉論を埃たず進

んで所得税を増さん乎列邦多くは之を守持し帝國の干渉を欲せず彼等自己の財政亦帝國の爲め費用を分擔するの餘地なく南北又水陸の利害を一にせず帝國は軍備及郵政改良等増費を要するもの一にして足らず事態斯の如く今日の問題は管に財政に止まるに非ずして帝國の基礎に關し頗る重且つ大なるものありと云つべし。是に於て帝國大藏省と列邦大藏省との間に協議を重ね西曆千九百八年七月中旬伯林に於て帝國大藏大臣之が會長となりて列邦大藏大臣の協議會を開き大に商量する所ありしに似たり會合は僅かに數時間を過ぎず其内容は固より秘密にして門外漢の知り得べき所に非ずと雖も世評は専ら「ブランデー」麥酒煙草税の増加及直系遺産税の賦課に關するものとし頗る世人の注意を惹く所と爲れり而してジードウ氏は電氣税を主張するも反對多く殊に南獨は大に之に反對し其他兵役免除税、新聞紙税等の説あれども勢力旺盛ならず

事態斯の如く帝國政府も終に已を得ず年々四億馬の不足を生ずべきを公認し其他列邦分擔の額を正當額に引直すには更に二千五百萬馬を要するの事實は最早蔽ふ可らざらに至れり而して役員を増俸(獨の下級官吏は甚だ薄給なり)國債償

還及砂糖税廢止の補填の爲めに少なからざる金高を要し、廢病文武官及孤兒寡婦給與基金の是まで他に流用されし者少からず是等も夫々補填を要し新財源を要すること實に燒眉の急となれり、然るに守舊黨は増税は之を間税に止むべしと主張し自由黨は之を直税にも及ぼすべしと爲し獨り社會黨は増税を賛し諸税紛々亂れて麻の如く今哉守舊黨と自由黨とは或事情の爲め合して政府黨を爲すと雖も増税問題に於て早くも分裂の兆を呈せり而して政府は遺産税は間税なりとの説を主張し守舊黨の歎心を得んことを力めしと雖も農業黨は絶対に幼者に遺産税を課するに反對せり

抑々獨逸農業黨は帝室黨の中堅なるに拘はらず此反對ありしは獨逸政界の變兆なりと云つべし而して急進黨(ラヂカル)は總て酒類煙草の如き消費品の税に反對し、自由黨は帝國所得税及一般財産税を主張すと雖も守舊黨は絶対に之に反對し四分五裂國論孰れに歸する哉豫め知るを得ずして無數の混雜を惹起せり、又彼の免除税の如き墮國及スウィツランドに其例あり其理由とする所は例へば方今獨逸に於て年々新に募集するを要する壯丁は約二十二萬人にして國中壯丁の約

半數を占む故に壯丁の過半は纔かの體格の不備又は全く必要なが爲め兵役を免る故に之を免れたる者は他に盡す所ありて國家に報ゆるは相當なりと云ふにありて固より一應の理なきに非ずと雖も之が爲め兵役は名譽に非ずして金錢を以て之に代ゆるを得べき者なりとの觀念を惹起するときは大體に於て大に不利なる結果を生ずべきに依り獨逸に於ても反對甚だ多し是れ吾人の意を得たる者なり而して免役の壯丁は他に盡す所なきに非ず則ち服役者の家族を助けて彼等をして内顧の憂なからしめ國民が兵役を苦と爲さざる様に力ひることは是なり斯の如くして服役者と免役者と分業し以て國を守るは至善の事と云はざるを得ず此道あるに免役税を課するは策の得たるものと云ふを得ず事態斯の如く紛糾を重ねつゝあるに實地の事情は大に費用の増加を要し陸軍に於て千十八萬馬海軍に於て四百九十六萬馬國債費に於て千七十一萬一千馬外務省に於て百十九萬五千馬内務省に於て九十一萬四千馬合計二千七百九十六萬馬の不足を生じ多大の差違を生ぜり

西曆千九百七年度の結果既述の如く而して西曆千八百八年度其後を受けて復

た頗る振はず四五六三箇月間の實況既に豫算に對し歳入實收五千六百萬馬の減少を示し取引所税に於て最も甚しく年度初の三箇月の結果より之を推すときは豫算は年額四千四十萬馬なるも實收は三千四百馬に止まるべきの傾向あり(昨年の實收は五千萬馬に登れり)是れ米國恐慌の影響を受け商業沈滞より來るの結果なるべしと雖も豫算に於て既に前年に對し減少を見積りしに實際の減少は豫期に超過す是れ市場の不振を表示するものにあらずして何ぞや是に於て帝國政府も公然年々の不足額五億馬を下らざることを承認し不足の原因は主として海軍擴張にありと雖も増俸減債孤兒寡婦扶助資金及文武官不具不健康者救助基金の缺乏の補充も亦之が原因たり(新たに財政計畫を立て西曆千九百八年十一月三日を以て帝國議會へ提出せり其計畫の大體は

- 一 新たに火酒專賣業を起し 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
- 二 燐子入葡萄酒税を新設し 二〇、〇〇〇、〇〇〇
- 三 煙草税を増加し 七七、〇〇〇、〇〇〇
- 四 麥酒税を増加し 一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

- 五 電氣及斯瓦燈税を新設し 五〇、〇〇〇、〇〇〇
- 六 公告税を新設し 三三、〇〇〇、〇〇〇
- 七 遺産税を擴張し 九二、〇〇〇、〇〇〇
- 八 列邦分擔高を増加し 二八、〇〇〇、〇〇〇
- 合計 五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

を得んと欲するにあり然れども此全額を得るは設備完成の上により其期は西曆千九百十三年の見込なり今哉四海浪静かにして風枝を鳴らさず國家太平を樂む三十年然るに此缺乏を生じ此増加を必要とす獨逸の運命亦容易ならざるものあり請ふ今一步を進めて少く各目に就き説明する所あらんとす

一 專賣業實施の上は現行の酒精及「ブランデー」税は之を全廢し方今の蒸溜業者は相當の賠償を受け其業を政府へ譲り政府は此際公債を起し賠償に當て其償還は專賣收入を以てす依て當初十箇年間は之が爲め專賣業の總收入は一年二億二千萬馬なるべしと雖も十箇年經過後は二億四千萬馬に増加すべきを期す

二 麥酒税は西曆千九百六年の財政改革に際し新設せられ六千七百萬馬の收入

を得るの計畫なりしが議會の修正する所と爲り大に其率を減じ收入二千九百萬馬に減ぜり此度は麥酒に課税し釀造事業の大小に従ひ其率を異にす(原料税及進税共に好良と云ふを得ず)

三 方今「醱酵質」(是も二箇年前の新設なり)を除くの外葡萄酒には國税なし本税は累進税にして價格に従ひ一罇十獨片より三馬に至る

四 煙草税も累進法に據り葉卷は六級に分ち千本四馬より九十六馬に至り紙卷は七級に分ち千本一馬半より二十四馬刻は一「キログラム」八十獨片より十二馬八十斤に至る他の煙草は一「キログラム」半馬より二馬に至り最下等は免除せらる而して葉卷は小賣相場の一割乃至一割三分紙卷は一割五分乃至二割輸入税は百英斤(メツリツク、カウト)毎に荒刻及「噛」(チユイン)煙草三百馬葉卷及細刻七百馬紙卷一千馬に増加す

五 電氣及瓦斯税は事業點燈税にて裝置の如何を問はず苟も燃料を是等に採る者は皆課税せらる而して其三割二分は電氣の負擔たるを期す切に望む獨民更に近眼を如ふるの結果なきを

- 六 公告税は新聞、張出等に課するものとす、日刊の新聞紙は其出数の多少に依り、
 廣告料の二分乃至一割を負するを期し、週刊其他は一定に一割を課す諸張出は
 其費用の一割を支拂ひ、廣告塔電柱其他使用料を支拂はざる場所に於ては市の
 廣袤に従ひ一千「サンチメートル」毎に一二又は三獨片を支拂ふものとす
- 七 遺産税は二箇年以前の施設にして現行は遺言に依り支系に傳ふる場合のみ
 に止まる、然るに今回は之を直系相續に擴張し二萬馬以下の財産には之を免除
 し累進法に依り百萬馬以上に三分を課するを以て限度と爲す、而して遺傳者が
 兵役を免除されたる者なるときは一分五厘の附加税を負担し三等系以下は遺
 傳の權利なきものとし、特に遺言なくして相當の遺傳者なきに於ては其財産は
 國家に歸すべきものとす
- 八 列邦分擔高は西曆千九百六年の財政方策に従ひ人口一人に付四十獨片と定
 めしと雖も前記諸收入の不足を補はんが爲め之を加倍するものなり
- 爾來之に對して無數の物議を惹起し議論八箇月に亘り政府原案は殆ど其條を
 留めず西曆千九百九年七月初旬議會は左の如く議決せり

一 麥酒税の増加	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
二 火酒及精酒税の増加(專賣は否決)	八〇、〇〇〇、〇〇〇
三 煙草税の増加	四三、〇〇〇、〇〇〇
四 土地賣買印紙税の増加	四〇、〇〇〇、〇〇〇
五 茶及珈琲輸入税の増加	三七、五〇〇、〇〇〇
六 繼足紙税の新設	二七、五〇〇、〇〇〇
七 分擔金の増加	二五、〇〇〇、〇〇〇
八 動産印紙税	二五、〇〇〇、〇〇〇
九 點燈税の新設	二二、〇〇〇、〇〇〇
十 燐寸税の新設	二〇、〇〇〇、〇〇〇
十一 商業手形及小切手税の増加及新設	二〇、〇〇〇、〇〇〇
十二 醱酵葡萄酒税の新設	五、〇〇〇、〇〇〇
合 計	四四〇、五〇〇、〇〇〇

にして政府原案より一層の混雜を來せり請ふ、今一步を進めて前記各目の沿革及

其性質取扱に就き陳述する所あらんとす

西暦千九百零六年までは麥酒税は内地税及關税を合せ六千二十四萬馬に止まりしが同千九百零九年四月よりは一億馬となれり舊法に於ては麥酒税は麥芽に課するものとして釀造所の大小に従ひ之を十級に分ち造石高の多少に依り累進法に依りて課税し四馬乃至十馬の税を課せり而して其最高は七千「クイントル」一「クイントル」は百キロにして凡そ三萬五千「ヘクタール」の麥酒を醸出す以上の製造所に課するものとせり今回の増税法にては釀造に用ゆる第一の二百五十「クイントル」の麥芽には税金を十四馬と爲し千二百五十「クイントル」以上の麥芽を使用する者には十五馬とし漸次増加して五千「クイントル」以上には二十馬と爲せり斯の如くして課税の平均は舊法にては一「クイントル」に付平均七馬三十六片なりしに今回は十七馬二十片に増加せり是れ則ち麥酒一「ヘクトリートル」に付き税金二馬より三馬に増加せしものなり而して脱税を防がんが爲め釀製造用の麥芽には麥酒用麥芽税の三倍を課す又造越の弊を防がんが爲め西暦千九百零九年一月以前に設立せられずして同年八月以降に釀造を始むる者及二箇年の休業後に釀造を再開す

る者には西暦千九百零五年までは五割の附加税を課し同年三月一日より西暦千九百零八年までは之を二割五分の減ずるものとせり元來獨逸に於ては麥酒税は是に止まらず更に市町村の附加税あり其最高は一「ヘクトリートル」六十五片なりとす其他尙ほ「バイエルン」「ウエルテムボルヒ」及「パデン」に於ては麥酒の通過税あり是れ昔日の内地關税の俵を残すものにして頗る奇異の思あり其金高は一「ヘクトリートル」二馬五十片なりしに今回五馬に増加せられたり而して輸入税は九馬四十四片と定められたり

獨逸は二十五年以來火酒及酒精税に就て大に之が研究を爲し種々に之を試験せり従前は聯邦其法を異にし大に不便を感じたるを以て帝國政府は西暦千八百八十六年一專賣法を議會に提し是に依て三億馬の收入を得併せて制度の統一を圖らんとせしと雖も不幸にして議會の容るゝ所と爲らず專賣案は殆ど滿場一致を以て破たり然りと雖も火酒税は税中の最良者たるは多辯を要せず此好財源を區々の制度の下に置くは財政上得策に非ざるを以て西暦千八百八十七年之を整頓し南北に於て蒸溜高を區分し北方は氣候寒冷從て其需用多きを以て蒸溜高を

一人に付四リートル半(一リートルは五合五勺強とし、南方に於ては之を三リートルと爲し、制限以内の製造者には一ヘクトリートル)五斗五升四合四勺強に付き税金を五十馬と爲し、制限を超過する者には七十馬と爲したり、此制限は他日帝國政府が專賣を試みるの下地にして政府は常に專賣を希望し、今回の増收計畫にも第一に主張せり、然れども議會の容るゝ所と爲らず、不幸にして復た破れたり而して増税は一ヘクトリートルに付百二十馬一片にして前記制限以内には殊に之を輕減して百四馬二十斤とす、酒精の輸入税は百キロ(一キロは二百六十六分六厘餘)に付三百五十馬、樽入蒸溜酒は二百七十五馬、其他は酒精同様三百五十馬に増加せり、燻子入葡萄酒税は議院に於て之を否決し、醱酵葡萄酒のみに止め、西曆千九百九年八月一日以降は一壇四馬の者までは其税金を一馬とし、五馬までは二馬と爲し、其れ以上は三馬と爲せり而して輸入税は百八十馬とし(一箱半場合に由り百三十馬にまで引下るを得るの機能を政府に與へたり)

煙草製造は獨逸に於ては可なりの大事業にして大小の製造所一萬箇所ありて二十萬の労働者を使用す、元來獨逸に於ける煙草業には種々の關係ありて事情頗

る複雑す、則ち帝國政府は歳入を得んが爲め之を國家の手に收め、專賣事業を爲さんことを熱望し、社會民主黨は彼等一種の手段として努力して之に反對し、地主黨即ち例の農業黨は煙草に關しては彼等の地面に生ずる馬鈴薯、穀物及び甘菜より製造する火酒、アルコール及び砂糖の如く熱狂せず、寧ろ之を冷眼視するの情態なり、然るに社會民主黨の煙草に對する諸税は其性質上郡小の喜ばざる所にして煙草問題に於ては政府常に受太刀の地位に居るの不幸あり、元來獨逸の煙草税收入は増税前は九千八百萬馬にして人口六千三百八十萬の大帝國としては頗る輕微なるものと謂つ可く、一人當り僅かに約一馬五十四片に過ぎず、之を佛國の三億餘馬一人當り七馬六十八片、英國の二億八千六百六十萬馬一人當り六馬四十片、伊太利の一億四千八百萬馬一人當り六馬七十二片、埃斯太利の一億五千四百四十萬馬一人當り五馬四十片に比し、實に同年の論に非ず、又税額と小賣價格とを比較するに獨逸に於ては税額は小賣價格の一割三分八厘に止まり、英は五割九分、伊太利は七割九分、佛は八割二分、西班牙は七割、ホンガリーは六割七分、北米合衆國は二割二分五厘に達し、何れの方面より之を見るも獨逸の煙草税は猶ほ増加の餘地あるものと

云はざるを得ず、帝國政府が煙草收入に腐心する抑々亦故あるなり。獨逸に於ける煙草税は種々の變化を経當初は耕地税なりしがビスマルク公は之を國家の專賣事業となさんと欲して成らず一敗地に塗れ其後ち莨菪の量目税となり内地産には百キロ四十五馬とし輸入品には八十五馬と爲し而して輸入製造煙草には重加率を課せり、西曆千八百八十八年專賣説を再興せしと雖も復た行はれず(一億七千八百四十萬馬の收入を見込み)同千八百九十三年政府は送狀價格に據り累進税を課するの議案を提出せしに議會は箱に貼用したる定價付に依り累進するのものとし之を紙卷のみに適用すべしと議定せり而して西曆千九百七年の實況に據れば國民煙草の消費高約六億五千三百六十萬馬にして今回の増收案は之を標準とし他日專賣を行ふの便に供する爲め成るべく工場の合併を希望せり、製造者も之を内外の事情に鑑み勢ひ増税の已む可からざるを察し量目税を以て多少の増税を忍ぶべしと覺悟せり。然るに中央黨は累進重加税を主張し保守黨之に賛成し事情漸やく複雑せり、然れども結局大に原案の收入額を減じ紙卷に關しては西曆千九百九年九月一日より其他は同年八月十五日より新法を施行す

るものとせり。今回の新法は(一)素葉輸入税(二)葉組其他多少手入したる葉煙草及製品の輸入税(三)内地産葉煙草税(四)内地製品の増税の四部より成立し素葉の輸入税は八十五馬(百キロ)砂拂葉分したる者及刻み粉煙草は八十五馬乃至百馬、葉組以上の工を加へたる葉煙草にして半成品と稱するものには百八十馬乃至二百十馬四十片、香氣を附したる莨菪葉には七百八馬、葉卷には二百七十馬(低に失す原文に誤植あるが如し)紙卷は千馬なり而して輸入煙草には更に船荷證書の價格に従ひ四割の從價税を課す(素葉と葉卷に限る)莨菪葉の輸入者は其本籍、賣渡人の姓名等、産地價格買入の日附等に付き申告を爲すを要す。獨逸の中等煙草畑(プランテーション)の産出品にして其種類が問題となる時は同様の申告を要す。賣渡人が外國に駐在するときは其送狀價格は其地に在る獨逸領事の證明を要す而して申告價格と送狀價格が符合せざるときは五割の附加税を課し、申告が低廉に過るときは評價人を命ず、帝國政府は申告價格に五分を加算したる價格を以て先買を爲すの權利を有す、政府が先買を爲さざるときは輸入者は評價人の定めたる價格に基き租税を支拂はざるを得ず、然らざれば二箇年以下の禁錮及十萬馬までの罰金に處せらる

而して見越輸入を防がんが爲め外國品の内國にある者は盡く新税を課するものとせり今回の増税に於て内國産苧葉の葉組等の手入を爲したる者は従前の「クインタル」四十四馬三十六片より五十六馬九十六片に増加せられ、又内國産に係る紙巻用の苧葉及紙巻は小賣價格に従ひ千本葉は千本分に付二馬乃至十五馬の累進税を負擔し、輸入の紙巻用の苧葉は「キロ」に付八十片乃至七馬、紙巻用の紙は千本分に付一馬を増加せり

政府提出の遺産税は全敗の運命に終れり、元來本税は今より三箇年前の新設に係り遺言に依り支系に傳りたる場合に限るものなり、依て今回は之を直系相續に擴張し二萬馬以下の財産には之を免除し累進法を採り百萬馬以上に僅々三分を課するを限度と爲し受遺産者が兵役を免れたる者なるときは一分五厘を附加し三等系以下には遺産を受けるの權なきものとし、特に遺言なくして相當の受産者なきときは其財産は國家に歸するものとし方法頗る穩當にして税額甚だ輕微なるものなりしと雖も不幸にして否決の運命に罹れり、然れども議會に於ても無責任の否決は之を爲すべきに非ざれば種々代用物の發見に腐心せり、然るに聯邦分擔

金は多く之を増すを好まず種々考究の上終に動産不動産の自然増價税を主張せり、蓋し自然増税とは財産が其の所有者の力に依らず社會經濟狀態の進歩に由りて自然に増價するに當り其増價部分に課税するものにして税法の好良なる之が右に出るものなく實に一世の運を盡すものと云ふ可し然れども之を動産に及ぼすは到底爲し得べきの業に非ず而して自然増價の度合に於ても土地の如き供給に限りある者に於ては固より動産と比す可きに非ざるなり、是に於て政府は之を不動産(土地なり)に限るは妨げなきも動産に及ぼす可らずと爲し不同意を表せり、議會も之を諒し終に土地に限ることと爲し西曆千九百十一年四月一日より之を行ふものとし、其以前に法案を提出すべきを約し其まては土地賣買印紙税の増加を以て之に代へ新法は既に議決せられ免稅輕減等の要項を定めり即ち其第一は帝國及列邦の君主にして其他は遺傳の土地を分配するの目的を以て受産中に起る賣買交換小兒及幼者への讓渡債權者が競賣に依り購買する場合及受産者數人ある場合に於て彼等が他人を交へず相寄りて其財産のみを以て有限責任の會社を組織する場合に於ては各々之を免稅と爲せり而して建物付土地の場合に於て

は二千馬、建物なき者に於ては五千馬までの土地にして土地賣買を業と爲す者の間に土地が賣買せらるゝときは輕減を許し又信託會社其他の法人に屬する土地にして容易に賣買に附せられざる者は三十箇年に一回遺產税の爲に定められたる價格に従ひ其價格の一分の三分の一を支拂ふべきものと爲せり而して法律の發布より其實施まで投機的賣買受授を爲すの弊を防がんが爲め法律實施までに賣買移轉及信託に附する者には一分の三分の二を課す可きものとせり

今回の増價税率に關して帝國政府は非常の注意を爲し殆ど全力を盡せり請ふ少しく之を述べん

市町村税として従來行はれたる増價税は一般に取得代價に對する増價額の比例に依り累進率を用ひ其重さに従ひ愈々率を加へたり是れ課税を仕拂能力に應ぜしむるの主義を採るものなり然るにハムベルヒ及柏林に於ては増價額の絕對數に據るを本位と爲し其取得代價に對する比例數の多寡は税率に對し累進的に附加増額する方法を以て之を斟酌するものとせり政府の原案は全く之に反し増價額の比例數に據るを本位と爲すの外絕對數の如何をも亦附加率の實施に依

り斟酌するを得ざるに非ずと雖も原案は其實施を規定せざりし其故は此事を規定するときは納稅義務者は土地を分割して賣却し増價の絕對數をして常に附加率適用の最下限を超えることなからしめ以て累進の目的を妨ぐることを得るにあり

右の外土地所有期間の長短に依り税率を異にするの必要あり何となれば所有期間の長短に依り土地の賣買の目的は投機的若くは他の事情に據るものと推定するを得るの理由あるのみならず實驗上屢々見る所の現象なればなり況や又増價の生じたる期間短に従ひ納稅能力も亦自ら大なるを常とするに於てをや之に反し時勢の進歩に伴ひ貨幣の購買力減少するの事實と増價の全部若くは其一部分は所有者若くは其家族の勞力に基因すること稀ならずと雖も之を計出するは其困難なるを以て原案に於て控除を許したるは金錢の支出に限るものとせり是れ亦所有期間の長さに従ひ税率を低減するの一理由なり固より増價を生ずる原因には種々あり之を分類して其幾分は何れの原因より生じたるかを確定するは極めて難事に屬す一般の規定としては所有者の勞力に因る増價例へば土地及其

附屬の使用上特に注意を加へ巧者に且勉強に保護したるに因ると公共團體の施設及特勢の變遷に因る自然の増價とを區分するを得るのみ而して茲に問題となるは其後者に屬する増價なりとす、大體に於て集約的なる農業園藝及之に類する目的殊に葡萄園並に小工業に使用の土地に在ては増價の原因は所有者若くは其家族の勞力に因るもの頗る多し

原案は是等の諸點を斟酌し左の規定を設けたり

- 第一 稅率は納稅義務ある増價が取得代價の壹割以下なれば之を五歩と爲し夫れより壹割を増す毎に累加して九歩五厘に至らしめ増價の額十割以上に上る者にありては之を十割乃至貳拾割二十割乃至四十割及四十割以上の三段に分ち稅率を壹割貳歩まで累加す
- 第二 土地所有期間十箇年未滿なるときは其少き年數一箇年毎に稅額の七歩を増加す
- 第三 前項に反し所有期間十箇年以上なるときは納稅義務ある増價の一部を免稅す即ち十箇年以上第一年目には取得代價の四歩を免じ其れ以上は一箇年

毎に其參厘を免稅す

右の率に依るときは所有期間短くして特に利得の多き者は從來の市町村増價稅の平均額に比し其稅額稍々多きに至るべし、然れども斯の如き利得は概ね投機的の利得に屬し且此租稅の收入額は徵稅權利者たる帝國各邦國及市町村の三者の爲め相應の收入を生ぜしめざる可らざるの必要あれば多少の加重は之を忍ばざるを得ざるなり、然るに委員會に於ては種々原案を修正し左表の如き結果となれり

第二十七表

取得代價に對する増加額の比例數	所有年數				
	年	五年	十年	十五年	二十年
五分	一五九、四	一三〇、五	一一〇、〇		
壹割	一五九、〇	一三七、五	一一〇、〇	四九、二	二八、〇
貳割	一六六、六	一五一、二	一三三、〇	八三、四	六二、二
三割	一八一、六	一六九、二	一四四、七	一〇一、七	七九、二
					四〇、六

五割(原)	二二二、一	一九二、五	一六八、〇	一二八、六	一〇三、〇	五六、四
七割五分(原)	二五七、五	二〇三、七	二〇四、九	一六〇、七	一三一、六	一七四、〇
十割(原)	二八七、八	二六一、二	二二八、〇	一八四、五	一五〇、六	三八、八
二十割(原)	一八〇、二	一七五、〇	一三〇、七	一一九、七	一〇二、四	九五、二
三十割(原)	一三三、三	一〇二、九	一〇四、二	一〇二、八	一〇二、八	一〇六、五
五十割(原)	三六三、六	三三〇、三	二八八、〇	二四三、五	一九〇、三	一四七、七
由是觀之修正案に於ては概して税額減少せり						

今一步を進めて更に一層實際的なる一例を擧げんに市内に於て若干坪の空地を取得し其取得代價は五萬馬なりしに滿十五箇年の後ち之を拾萬馬にて賣却せりと假定せば之に對する増價税額の計算は左の如し

取得代價	五〇,〇〇〇,〇〇
現實の取得代價	二〇,〇〇〇,〇〇
取得に付ての雜費(代價の四分)	五,〇〇〇,〇〇
原案第二十條第三項に依る加算額	二,〇〇〇,〇〇

(イ)二千五百馬(即ち二五×一〇〇)に對する二分五厘十五箇年分	九三七、五〇
(ロ)四萬七千五百馬に對する二分十五箇年分	一四、二五〇、〇〇
合計	六七、一八七、五〇

賣却代價	一〇〇,〇〇〇,〇〇
現實の賣却代價	五〇〇,〇〇〇
内控除すべきもの	二二、五〇〇,〇〇
賣却に付ての雜費(原案第十五條第一項)代價の五厘	二二、五〇〇,〇〇
取得代價に對する年三分の利子	二二、五〇〇,〇〇
十五箇年分(原案第十五條第二項)	二二、五〇〇,〇〇
小計	二二、五〇〇,〇〇
差引	七七、〇〇〇,〇〇

之より取得代價

六七、一八七、五〇

を控除し差引増價額

九、八一、二、五〇

右の計算に依れば納税義務ある増價額は九千八百拾貳馬五十片にして此數は取得代價の壹割九分六厘貳毛餘に過ぎざるを以て税額は増加額の壹割壹歩即ち千七拾九馬三十七片となるべし、然るに原案第二十條第二項に依れば尙ほ所有年數一年毎に其壹分を低減すべきに由り其壹割五歩に當る百六拾壹馬九十片を控除し實際の納税額は結局九百拾七馬四拾七片となる、帝國は其五割即ち四百五十八馬七十三片、各邦國は其壹割即ち千九十一馬七十四片、市町村は其四割即ち三百六十七馬を受くるものとす、是を以て自然的純益五萬馬に對する税額は僅かに九百十七馬四十七片に過ぎず換言すれば三箇の徵税權利者に向て仕拂はるべき税額は總計利得の萬分八厘三毛餘に止まり其九割八歩壹厘六毛餘は幸福なる利得者に於て之を保有し得るものなり、世之を評して山嶽鳴動して小鼠一疋を出したりと蓋し至言と云つべし、斯の如く増價税は之を以て大國財政の基礎とするに足らず又獨逸特質の投機抑制の功を奏する能はざるなり須らく英流に據り彈力あ

る國家の大財源と爲すべしなり

更に一步を進めて出費を加除すべき場合に相當する一例を擧げんに茲に五萬馬を以て土地を購入したるものありと假定せん其者購入後第十六年目に拾萬馬の資本を投じ、其上に家屋を建築し同年中地所及家屋を貳拾萬馬にて賣却したりとせん、此場合に於て土地の取得代價及自然増價は前の例に同じとせん、然るときは原案に於ては之が税額の計算は左の如くなるべし

取得代價

現實の取得代價

五〇、〇〇〇、〇〇

家屋建築費

一〇〇、〇〇〇、〇〇

家屋建築手数料

五、〇〇〇、〇〇

取得に就ての雜費

二、〇〇〇、〇〇

貳千五百馬に對する貳分五厘十五箇年分

九三七、五〇

四萬七千五百馬に對する貳分同上

二八、五〇〇、〇〇

合計即ち推定の取得代價

一八六、四三七、五〇

賣却代價

110,000,000

内控除すべきもの

賣却に就ての雜費

1,000,000

五萬馬に對する年三分の利子

十五箇年分(原案第十五條第二項)

22,500,000

小計

23,500,000

果して然らば差引殘即ち計算上の賣却代價一七六、五〇〇、〇〇〇取得代價は賣却代價よりも高きこと九千九百參拾七馬五十片なり隨て五萬馬の純益を以て實行せられたる賣却が法律上の認定に依れば損失を招きたるものとするの奇怪なる結果を生ず然るときは五萬馬の利得者に對し收稅官署は其實體を調査して土地の賣却に就て損失を蒙りたるの保證を與ふ斯の如きときは帝國々庫より之に損害賠償を仕拂ふべきは當然の事に屬す然れども實際斯の如き事は文明國には稀有の場合なり

右の例に於て四萬七千五百馬に對する貳分を計算に加へたるは土地所有期間

の終期まで空地のまゝ存し居たるに因る原案第二十條規定の文字より觀れば賣却の時には地上に建物を存せしも規定修正の精神に依れば右の如く計算するを正當なりとす元來家屋の建築は土地と共に之を賣却するの望あるに至り始めて之を實行するを通例とす若し其精神如何を顧みず種々の修正意見を綜合して成立したる規定を文字通りに解釋し取得代價の一分を以て計算するときは推定の取得代價は拾七萬貳千八百拾馬五十片となり四千參百拾貳馬五拾片の納稅義務ある増價を生じ之に對する稅額參百六拾六馬五拾六片は増價額の七厘參毛餘に當る而して其内帝國は百八十三馬二十八片各邦國は參拾六馬市町村は百四拾六馬六十三片を受くるの計算なり

茶及珈琲轉入稅の増加は政府の提案に非ずして全く議會の創始に係るものなり元來茶珈琲の消費は砂糖の消費に關するを以て農業黨は之を好まずと雖も今回は國家の必要上終に増稅是等に及びり則ち珈琲は従前は素品百「キロ」に付四十馬なりしに今回は之を六十馬に増加し焙は六十馬より八十五馬に増加し茶は一「キロ」百馬と爲し法律實施までは國中の在庫品は珈琲は二十馬茶は七十五馬の附

加税を負担すべきものとせり。繼足紙税は納税者に苦痛を與ふること少く好箇の一財源なり本税は債券の利札を用ひ盡したるとき例へば五十箇年期の債券に二十五箇年分の利札を附せしに之を使用し盡したるときは尙ほ其後の二十五箇年分の利札を要するを以て新たに本券に利札紙を貼付するの手數料として利札紙交付請求者が支拂ふものなり之を公債に用ふれば行政手數料となり、會社が爲すときは請求者は會社へ手數料を出し、會社は國へ納税する形となる(實際は印紙を貼用するなり)此度の増税案に於ては内國の商業及土地債券は券面金額の二分、外國物は五分を負担し、株券優先株には通例利札を附すは内外共之を一分と爲せり而して帝國及び列邦債には之を課せずと定めたり(免除の理由なし)其他の印紙税は多大の修正を経たり、今其舊率、原案及決定の蹟を見るに左の如し

印紙税	舊率		原案		委員の修正		議院の決定	
	分	分	分	分	分	分	分	
内國株券	二〇〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
殖民地株券	無税	無税	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	
外國株券	二五〇	二五〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	

商業及土地株券	〇、二〇	〇、三〇	〇、五〇	〇、五〇
礦山株券	一、〇〇	二、五〇	三、〇〇	三、〇〇
内國債券	〇、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
列邦市町村債、外國鐵道債券及	〇、六〇	一、〇〇	二、〇〇	一、〇〇
他の外國債券	一、〇〇	一、五〇	三、〇〇	二、〇〇

其他小切手印税は通し十片にして約千三百萬馬を得るを豫期し、外國人間の商業手形、獨逸人が外國に宛てる一覽拂及び十日後拂は之を無税とし、二百馬までの小切手は十片、其より四百馬までは二十片、八百馬乃至千馬までは四十八片と爲す等の舊法は依然之を保存せり而して今回の増税は専ら三箇月以上の者に係り是にて七百萬馬を得るを豫期せり

電氣及瓦斯税は今回の増税案中困難物の一つにて反對四方に起り政府は終に之を撤回し其適用を點燈の一部に止め點燈器の類に據り種々に課税すること、せり燐寸税は政府の提案に據るものに非ずして議院の創始に係り三十箇入の箱には一片、三十以上六十までは一片半を課し、六十以上は六十を加ふる毎に一片半

を加へ、蠟製は二十箇入一箱に付五片を課し、大箱は二十箇毎に五片を加へ、西曆千九百九年六月一日以降に開設したる燐寸製造所及其以前に開業したる者にして其製造高過去三箇年の平均高を超過する者には法律施行の日より五箇年間は二割の税を加重するものとし、輸入品には三馬を賦課す(一箱なる可し)是れ亦非常なる不人望の税にして人民は其價格の高きを厭ひ、寧ろ憤りて火打石を用ふるに至り、製造所は燐寸の兩端に發火薬を付着するに至れり、是れ或は増税不慮の結果にして物質經濟上多少の利益なきに非らざるなり

是れ有名なる獨逸財政改革(改革に非ず増税計劃なり)の梗概にして同國政治家の苦心經營慘憺たるの蹟歴々として顯はる而かも猶ほ未だ豫期の五億馬を得るに足らず一旦廢止減少と決したる通行税(二千萬馬)及砂糖税(三千五百萬馬)は依然之を存せり而して其効果の如きは日未だ淺ふして何人も之を知るを得ざるも、之を西曆千九百六年の小改革に鑑み新税及増税の結果或は意の如くならざらんを虞る唯だ之が爲め國民生活の費用及び生産費の増加は免れざるの數にして商工の發達に利あらざるは論なきのみフランクフォルト時報の如きは法律通過の當

時既に一家の經營に一箇月一馬四十八片を加へたりと公言せり豈に輕微なりと云ふを得んや

抑々獨逸は國情紛雜利權衝突して圓滿なる能はず提出以來一大紛擾を生じ改廢度なく終に地價差増税案を提出し、因に云ふ英國に於ても増價税は議院の問題と成り大多數にて下院を通過せり事情増々複雑し殆ど收拾す可らず然れども今の情態は之を久ふする能はず而かも此度の方策亦之を根治法と云ふを得ず假令無事今日五億馬の不足を補ふを得るも國家大體の組織を改むるを得ず依然として現状を保つに於ては期年ならずして復た不足を生ずるは識者を待つて後ら知るべきに非ず、堯水一たび去るも湯早直ちに到らば夫れ何を以て天下を保たん哉、切に望む傷春未だ已まざるに復た秋を悲むの患なきを、今日獨逸の爲に謀る者は區々財源を求むるに非ずして其國家組織の基礎を定め併せて國土人口の調和を圖るにあり、矢高麗を過ぐ誰か能く其落所を知んや、幸にして當局多士濟々而して民情亦勤勉なり、聊か以て人意を強ふするに足ん乎

獨逸帝國が今回收入増加の方策として發表せし所概ね斯の如し今一步を進め

て國債償還の方法を見るに尙ほ未だ往時の減債基金法を夢見るに似たり即ち國債全額を四十三箇年にして償却するを期し毎年之が爲に必要なる資金を積立て複利法を以てピット以前の英國の古智を學ぶにあり而して國債中鐵道電氣事業の如き所謂生産事業に屬する者は三十箇年陸海軍擴張の如き不生産的の爲に起りし者は二十二箇年に於て償却するを期す。抑々斯の如きの償還計畫は其形狀其趣旨は固より可ならざるに非れども國家百年を通じて平和を期する能はずして其功を奏すること甚だ難し而して償還基金を有するが爲め公債價格を騰躍し新債の利子を減ずる能はず市價を昇騰せしむるは元本を減じ新債を起さざるにあるは英國財政史の示す所にして方今の獨逸の如く將來五年の間に更に五億馬の公債を起すを期するが如き場合に於ては其効力甚だ微弱にして國家の信用を増進するに足らざるは識者を待つて後ち知るべきに非ざるなり。公債の價格を増加せんと欲せば須らく大に新債の募集を慎み一般經濟の機能を發揚し收支の基礎を固ふし以て市場を整へ一般有價證券價格飛躍の道を開くべし其を是れ願みず千萬有價證券中獨り公債證書のみを高ふせんと欲し萬一奇術を以て之を爲

すを得ば他の有價證券は之が爲に下落するは數の然らしむる所にして國家一般の信用を害ふこと甚だし況や數種公債中の一節を償還し其他の償還を後年に延長するに於てや同國發行同利歩の公債中其價格に著大なる相違を生ずるは蓋し已むを得ざる所の數なりとす。抑々國債政策中元金多大なるの一事は患は則ち患なるも更に患ふべきは國債費の多大なるにあり償還固より力るに足らずと云ふに非ずと雖も更に努力すべきは一般の經濟財政の情況を發達伸張し以て借換を便ならしめ組換を施行して財政を裕かにし後ち進んで以て償還を爲すべきなり而して其償還は毎年の豫算問題に屬すべきものにして之が爲め基金を設くるの不可なるは天下既に定論の存するあり。グラッドストーン氏の組換、ゴッセン氏の借換の如きは近世英國財政史の光彩にして世傳へて以て美談と爲す。獨逸の當局是に倣はずして彼に倣ふ又奇ならず哉。倫敦經濟雜誌の如きも之を論じて獨逸政府は關稅及貿易政策の如きは往々第十九世紀初期の志想を保持す而して國債償還に至りては尙ほ未だ第十八世紀の舊套を脱する能はざるに似たりと結論す。是れ頗る吾人の意を得たるものなり。然りと雖も近年に至り我國亦減債基金の設け

らるゝあり豈に他山の石視するを得ん哉
獨逸帝國政府の苦心慘憺以て計畫せし所の財政改革の蹟斯の如して新法に據
り編製せられたる豫算及海軍計畫は左の如し

第二十八表の一

西曆千九百十一年の豫算

歳入		歳出	
經常	直税	經常	財務行政費
印紙税	二二,六六,七〇〇	國債費	二七九,六三〇,〇〇〇
遺產税	三六,一八〇,〇〇〇	恩給基金	一五〇,五六一,五六〇
地價自然増加税	一一,七三〇,〇〇〇	國會費	二,〇五八,八八〇
關稅	六四,八五八,六〇〇	帝國高等官衙費	三〇七,八四〇
内地消費税	五二,六五〇,〇〇〇	宰相府	一八,七七,三三〇
		外務省	

官業收入

鐵道	二六,一八〇,〇〇〇	內務省	八八,九三二,一四〇
郵便電信	七八,七〇九,四〇〇	陸軍省	七七五,四二一,九一〇
印刷局	一一,三三三,〇〇〇	軍法會議	五三七,三六〇
雜收入		海軍省	三四一,八五三,八九〇
統計收入	一,五〇四,六〇〇	司法省	二,四二六,八六〇
帝國稅を徴收せざる		殖民省	三三,〇三三,三六〇
地方よりの收入	四五,三六一,六〇〇	大藏省	二〇〇,九九〇,〇〇〇
消費稅を徴收せざる		鐵道院	四七四,六四〇
地方よりの收入	一一八,六〇〇	會計検査院	一,二六六,一〇〇
中央銀行收入	一五,三六三,〇〇〇	官業費	
行政手数料	六,五三三,六四〇	鐵道費	一〇七,八〇七,七四〇
廣兵院收入	六,三三三,三六〇	郵便電信費	六四八,六二七,三六〇
聯邦貢納金	二〇七,五三三,四〇〇	印刷局費	八,七三二,四八〇
計	二,六五〇,八三七,一三〇	計	二,六五〇,八三七,一三〇

官有地及不要 要塞賣却代	二、一三七、三〇〇	同	十年	三三、八七六、五〇〇
東阿遠征收入	二、〇三三、三八〇	臨時		
要塞建築基金 よりの返金	二六四、三〇〇	内務省		四、九四七、六三〇
銅像保護國收入	四七、七四〇	陸軍省		三三、一九〇、八〇〇
鐵道	六〇〇、五八〇	海軍省		一〇六、七六四、四八〇
郵便電信	二、五八六、六〇〇	郵便電信		三二、五三六、九四〇
國債償還減(利子の 減平)	八七、六九九、六四〇	鐵道		一一、二一六、〇〇〇
造幣局殘金	二、五七、〇〇〇	計		二二、五五五、八四〇
國債募集金	五、六六六、四〇〇	合計		二、八六三、三六〇
計	二二、五五五、八四〇			
合計	二、八六三、三六〇			

第二十八表の二

海軍經常費

西曆千九百十一年 三三、一八五、九六〇

重要經常費科目
但西曆第九百十一年度

俸給 三八、二〇〇、〇〇〇
常備艦隊費 四七、六二〇、三六〇

同	九年	三三、三六六、五六〇	艦船及船渠維持費	三五、三九六、〇〇〇
同	八年	三二、七五七、六九〇	兵器及要塞費	一八、四七七、七三〇

一時限海軍費は製艦費及び兵器費にして膠州灣海軍費を除き一七〇、六一四、五八〇萬馬なり其總額は二五八、四四六、二〇〇馬にして内八七、八三一、六一二〇馬は公債支辨なり故に此總額は經常收入と國債募集金なる臨時收入より成立するものなり、會て西曆千九百年海軍擴張案を決するに當り議會は兵器の費用は總て之を經常費より支辨すべきを決せり而して船艦價格の遞減は之を年々六分と爲し其補修費も之を經常收入に仰き造艦費のみは之を國債支辨とすべきを議決せり、是れ當然の計畫なり、今獨逸艦體の總價格は一、一三三、六二六、〇〇〇馬にして其六分は六八、〇一七、五八〇馬なり而して西曆千九百十一年度の製艦費は一五五、八四九、一八〇馬なるを以て前記補修費と臨時收入の總額を要す、製艦補充及兵器費は二四五、〇〇五、三八〇馬を要す、殘額一三、四四〇、八二〇馬は船渠及倉庫に關する費用なり、抑々獨逸海軍は戰艦三十八隻大砲洋艦二十隻にして西曆千九百十七年までの繼續に係り同千九百八年に前者の壽命を二十五年より二十年に短縮せしに依

り補修費の如きは當初の豫定より大に之を増さるを得ざるべし、海軍は實に獨逸財政に重き負擔を強ゆる者なり、昨年の増税計畫ありしに拘はらず本年度に於ても尙ほ九千五百六十餘萬馬の新債を起さざるを得ざるの豫定なり

新法完成初年の豫算及近年の海軍計畫の大體右の如し而して其大部の施行せられたる西暦千九百十年度の精算に就て之を見るに商況の回復に因り全體に於ては豫算に對し實收に三千五百七十萬馬の増加を見しと雖も新税は概ね減收を示し「プランヂ」税は一億五千三百萬馬を豫算せしに實收は一億二千六百萬馬に止まり二千七百萬馬を減せり是れ社會民主黨が「プランヂ」に對し不用同盟を企てしに職由すと雖も豫算に於て既に増税案討議の當時に見込みしより二千萬馬を減せしに尙ほ此減少を見るに至れり、點燈税の如きは減少更に甚しく二千萬馬の豫算に對し實收は九百九十八萬馬に止まり半額に達せず獨民が徵税の爲め如何に燈火を儉約せし哉を窺ふに足れり、視力に關する結果なしとせず鑑みるべきなり、小切手税は増税案に於ては千二百萬馬を得るを豫期せしに豫算に於ては七百三十萬馬を計上し實收は三百五十二萬馬に止まれり、獨逸は英米に比し小切

手の使用甚だ少し本税は其發達を妨ぐるの虞なしとせず、其他麥酒税、シヤパン税、煙草税、燐寸税等皆甚だしき不結果を示せり、而して新税中土地移轉税、繼足紙税は多收の増收を示し、關稅所得税は頗る好況を示し、増收總高六千九百四十六萬馬に達せしと雖も減收と差引き前記の増加に止まれり

新法の結果斯の如し今便宜の爲め近年獨逸に於ける直間税及行政費の増加を表出すれば左の如し、直税は巴威耳國を採る)

一 巴威耳に於ける直税の増加

	税 額 (單位百萬馬)		百 分 比	例
	西曆千八百八十二年 同千八百九十五年 同千九百九年	西曆千八百八十二年 同千八百九十五年 同千九百九年		
地 租	一一・五	一一・五	一〇・四	四五・六
家 屋 税	三・八	五・八	一〇・二	一五・一
營 業 税	五・〇	六・八	一三・五	一九・九
資本貸附税	三・二	四・五	七・九	一二・七
所得 税	一・七	二・五	五・四	六・七
				八・〇
				一一・五

合計 二五・二 三二・一 四七・四 一〇〇・〇 一〇〇・〇 一〇〇・〇

二 獨逸帝國に於ける間税の増加

(單位 百萬馬)

	西曆千八百八十五年同千八百九十年	同千八百九十五年同千九百零五年	同千九百零九年同千九百一十年
關稅	二一五・七	三六八・三	三八三・二
穀物豆類	未詳	一一一・四	一〇九・〇
珈琲	、	四七・三	四九・〇
石油	、	四四・六	五六・六
烟草稅	一〇・二	一一・〇	一〇・九
紙卷烟草	、	、	、
砂糖	一八・一	五八・五	八〇・五
鹽	三八・七	四二・〇	四五・五
ブランド	三七・六	一一〇・四	一一四・四
シヤムバン	、	、	、
其他	、	、	、
合計	二五・二	三二・一	四七・四

麥酒釀造及移出稅

一八・三 二四・八 二七・四 三一・五 三一・四 五五・二 五六・〇

三 獨逸帝國に於ける行政費の増加

(單位 百萬馬)

	千八百八十一年乃至八十五年の平均	千八百九十一年乃至九十五年の平均	千九百一一年乃至五年の平均	千九百一十年
陸軍費	三七四・一	五八五・二	六七〇・三	八〇八・一
海軍費	四二・九	八四・三	二二〇・二	四三四・〇
外務費	七・三	一〇・六	一五・二	一九・〇
殖民費	、	四・八	一九・六	三三・八
内國行政費	三・八	一四・七	二七・一	三五・八
社會政策費	、	一二・六	四三・一	五五・〇
財務費	〇・八	一・〇	一・二	二九・七
療兵院基金	二・〇	四・二	一〇・九	三〇・三
恩給基金	一九・九	四五・五	七四・七	一一八・四
國債費	一四・四	六四・一	一〇三・五	二二五・〇

合計

四六五・二

八二七・〇

一、一七五・八

一、七八九・一

〔備考〕單に行政費にして官業の費用を含まず

帝國財政の概況斯の如くなるに搗て加へて列邦の財政裕かなるを得ず其債額を以て之を見るも一驚に値ひするものなしとせず、即ち西暦千九百八年末の現在高は總額約百四十三億六千二百四十萬馬にして内約七十九億六千四百萬馬は普漏西に屬し同千九百九年には八十七億七千餘萬馬に増加せり而してバイエルン、ザキソン等皆債額を増さざる者なくヘッセンの小なるも前記八年には三億九千八百萬馬の負債を有し、西暦千九百年乃至同千九百八年の九年間に約三割を増加し之を國民一人に割當るときは一人に付き三百六十二馬の負擔となり、普國は同時間に一割二分を増加し其一人當りは二百十四馬なりとす。然れども列邦の負債は軍事に關せず主として有利事業の爲め殊に鐵道敷設の爲に起り前記百四十三億六千餘萬馬中約七十二億萬馬は鐵道公債に屬し之に對する鐵道の資本價格は百三十七億馬にして收益亦七分以上なるを以て公債の負擔は外見の如く重からず又西暦千九百八年に於ける普國の豫算を見るに公債利子は三億二千八百萬馬

普漏西財政の概況

にして鐵道収入は二億九千二百萬馬なるを以て鐵道は公債利子の大部分を負擔する者と云ふを得べし而して前記年度始に於ける普國の公債は約八十億馬なるに其内約七十一億二千萬馬即ち約八割九分は鐵道礦山其他の有利事業の爲に起りし者なり故に債額の大なるは一見驚くべきものあるも公債の起因より之を見れば獨逸列邦は頗る好良の地位に居る者と云ふを得べし、市債其他の地方債は無論別なり然れども大體に就て之を論ずれば列邦の財政亦安穩なりと云ふを得ず、請ふ其大なる普國に就て之を述べん

普漏西の經費は年に増加し西暦千九百七年度は歳出總計三十二億七萬三千九百三十馬なりしに同八年度の豫算には三十三億六千二百二萬一千六百三十六馬を計上し臨時費に於て約一億八百萬馬を減少すと雖も經常費の増加約一億七千一百萬馬なるを以て總計差引約一億六千二百萬馬の増加を示せり、是れ主として曩に計畫せられたる役員増俸の爲め生ずる者七千七百萬馬を編入したるに由るものあるも鐵道經營等の爲め逐年費用を増加すに職由するものにして臨時費の使用に注意せずんば他日經常費増加の因を爲すの好例と云つべし、同年度鐵道費

の増加は昨年比し一億二千二百六十八萬馬にして、収入の増加は一億六百九十萬馬なり、收支の比例既に相償はず而して前記兩年度共歳入出の高に厘毛の差違なく全然同額を掲ぐ是れ亦財政上健全なる表示と云ふを得ず又鐵道収入は前年度に於ては約一億馬の不足を生ぜしに西曆千九百八年度に於ては更に多額を見積り(約二十億五千二百五十萬馬前年度は約十九億四千五百五十萬馬)たるが如きは或は豫算不確實の因たるなきを保せざるなり、歳出の増加斯の如くなるに普國國債も年に加はり西曆千九百五年の約七十二億八百萬馬より逐年増加し同九年には前記の如く約八十八億七千餘萬馬に達し尙ほ増加の勢あり即ち鐵道事業のみを以て之を見るも目下普國大藏大臣は改良費支辨の爲め二億四千二百萬馬の公債を起すの權利を保有す

帝國と列邦との合計

今一步を進め帝國財政及列邦の歳入出を加へ獨國財政(市町村は無論別なり)の全體を見るに更に驚くべきものあり、今試みに西曆千九百九年度(十年の三月に終る)の決算を見るに左の如し

收入總額

九、二一九、〇〇〇、〇〇〇

内

一、二七〇、五〇〇、〇〇〇

は臨時収入金

經費總額

九、二四〇、四〇〇、〇〇〇

内

一、〇三六、五〇〇、〇〇〇

は臨時費にして西曆千九百八年度に於ける列邦の負債總額は實に百三十五億馬にして而かも尙ほ逐年増加するの勢あり

由是觀之列邦の負擔輕きに非ず、今試に普漏西の實況に就て之を陳んに同國は所得税を九百馬他は概して之より低し四百馬に下る所あり(の歳入より始む今之を英の三千二百馬に比して固より同年の論に非ざるなり故に英に於ては中流以下は所得税を免るゝと雖も獨に於ては然らず千八百八十四萬五千八百二十六人則ち人口の約半數(四割九分七厘)は所得税を負擔し之を英に比し十分の九の多きを致す而して普國の所得収入は(西曆千九百七年法人の負擔する者を除き總額一億八百萬馬にして約九億六千五百萬馬即ち八割九分六厘は三千馬以下の収入の負擔する所なり、此階級に層する収入の平均は千三百四十五馬なるを以て其多數

普國下級人民の負擔

は平均と最低即ち九百馬の間に在る者と推定するを得べし而して三千馬以下の収入は家族同居人の収入を合計するものにして累進率は低しと雖も強もすれば役人が押上主義を採り之を大収入に比して多少不幸なる地位にあるものとす然りと雖も是れ唯普國の徴する者にして市は又別に所得税を課す西曆千九百六年の伯林市所得税の調査の蹟を見るに該市は所得税を八百六十馬の収入より始め人口二百四萬百四十八人中十四歳以下及兵役等の爲め免税せらるゝ者を除き百十二萬五千人の約半數は最低以下の収入を得る者にして課税を免れ残り六十萬八百九十九人は所得税負擔者なり内八百六十乃至千四百四十馬の収入者三十一萬五千六百十人其れ以上二千八百六十馬の収入者二十二萬六千六百七十八人其れ以上は僅かに五萬八千六百十一人にて此内四萬六千二百六人は千八百六十馬其れ以上九千五百二十馬までの収入者にして一萬八百十五人は其れ以上四萬七千六百馬までにして千百十四人は其れ以上九萬五千二百馬まで四百七人は其れ以上九十萬四千馬まで四人は其れ以上二百八十六萬馬まで其れ以上は僅かに二人に止まる普國人民の負擔固より輕きに非ず而して其大歳入の少き亦豫想の外に

伯林市民
の負擔

出るものと云ふべし

普漏西の豫算は頗る多額に上り西曆千九百八年度の決定額は歳入總額約三十三億六千二百萬馬にして歳出總額約三十三億六千二百萬馬内約一億八千八百萬馬は臨時費に屬し同九年度の歳入總額は約三億八千二百七十萬馬歳出總額は同額にして内約二億三千百萬馬は臨時費に屬す而して同千九百十年度の豫算に收入總額三、八三七、四一二、九六三馬にして歳出は經常費三、七二五、〇一九、五四二馬臨時費二〇、四三九、三、四二一馬にして合計三、九二九、四一二、九六三馬なり故に九千二百萬馬の不足を生ず各廳の請求通りにては二億千七百萬馬の不足を生ずべき所に大藏省にて大削減を加へ前記の額に止めたり故に各廳は決して満足して居らぬ他日の新請求は勢の免れざる所なり此不足は主として官吏増給に原因し其高二億馬を超過す加ふるに西曆千九百八年度の不足は一億五百萬馬にして同九年度の不足は一億五千六百萬馬に達するの見込なりしも幸にして商況少しく恢復し清算上の不足は一億五百萬馬に止まるの見込なり而して西曆千九百十一年度の豫算總額は四十億八千五百三十餘萬馬にして不足は二千九百萬馬の見込なり

普國財政亦困難なる哉而して普國歳入の特色は官有財産及官業の多きこと是なり。森林收入の如きは總收入一億一千一百萬馬純收入五千八百萬馬(森林面積は僅かに二百八十萬ヘクタール)一ヘクタールは一町二十四歩強の巨額を生じ、其他の官有財産收入は七千七百萬馬にして純收入は千七百萬馬なり、今兩國の總收入と純收入とを比較するに一見後者の方に利あるが如しと雖も前者は増加の傾向ありて後者は却て減少す、其實歴左の如し

第二十九表

西 曆 年 次	官 有 財 産	森 林
一八四九乃至六一	八二	四八
一八六八乃至八〇	七四	四三
一八八一乃至九〇	七三	三九
一八九一乃至九九	七二	四二
一九〇七乃至八年	六〇	五二

鐵道事業

斯の如き差違を生ずる所以のものは造林、整理、利用の結果漸次に顯はれ森林の利用は國家歳入の爲め非常に有望なる者たるを示すものに非ずして何ぞや、之に反し他の官有財産は收入増加の術を施すの範圍甚だ狹隘なり其差違歴然として争ふ可らざるものある固より偶然に非ざるなり又森林收入増加の實況を見るに西曆千八百九十年には一ヘクタールの收入十馬四十二片なりしに同九十九年には十二馬十一斤となり同千九百七十八年には三十九馬四十四片強となれり之を我國の一町歩(北海道を除きて)約一町七十八錢に比するに固より同年の論に非ざるなり(此好財源に對し目下種々議論あるは甚だ遺憾なり)然るに獨逸聯邦中普瀟西は尙ほ森業を以て誇りを得ずウルテムブルヒの如きは四十馬ザキソンの如きは能く四十二馬を擧ぐ實に盛なりと云ふべし、普瀟西の官業中是も盛大にして歳入最も多き者は鐵道にして政府は幹線約一萬九千キロメートル(一キロメートルは九町十間支線一萬二千キロメートル)を有し收入約十八億八千六百萬馬の巨額に達す、抑々普通鐵道國有は西曆千八百四十七年十一月二十八日の法律を以て其基を開き爾後數回の買收延長を經以て目下の幹支合計三萬一千キロメートルに

諸種の官業
 普國收入の特種
 所得税

達し普國政府が之が爲め投下せし資本總額は八十億馬にして運賃率は自ら之を定むと雖も他に帝國鐵道廳なる者ありて其支配を受け現業費は總收入の六割八分乃至七割一分にして軌近多少増加の傾きあり其他鑛山、鹽業等種々の製造業を營むも總收入都合二億四千四百萬馬にして費用二億二千八百萬馬に上り純收入は僅々二千六百萬馬に止まり財政上より之を見れば殆ど官業として存するに足らざるなり然れども是等官業は各々特種の歴史引繼、占領、契約等を有し西曆千八百九十九年五月一日の法律を以て其綱領を定め未だ劇かに之が存廢を定むる能はざる所のものあり其他、富籤税凡そ九百萬馬、温泉所税二百乃至三百萬、ジーンハン、ドリング(用達銀行)よりの償還金約四百萬馬(是は西曆千九百七年の數なり)諸會社の政府の持株より四分乃至六分の割賦を受く(會社の株金は五千萬馬あり政府は大株主なり)是等の税外收入頗る多く普國財政は尙ほ中古の状態を存す奇と云ふべし

租税收入中最も緊要なる者を所得税とす西曆千九百七年度は二億二千二百萬馬と見積り九百萬馬の歳入より之が徵收を始め國民の半數即ち約千七百萬人は納

税者にして其内五百三十八萬四千人は家長なりとす其他法人にして所得税を支拂ふ者七千人被賦課財産高は百二十億馬なり。所得税負擔者は自然市に多く田舎に少し則ち市の人口千七百萬の中約千萬は之を負擔し、田舎人口千八百萬中之を負擔する者は八百萬人に達せず、今試みに收入の大小、收税者人員及負擔金高の千分比例を示せば左の如し

第三十二表の一

		西曆千八百九十七年		同千九百七年	
收入の大小	金	高	金	高	人員
三、〇〇一 乃至 六、五〇〇	一六三、二	一五七、八	七一、九二		
六、五〇一 乃至 九、五〇〇	九七、八	六八、二	一三、三六		
九、五〇一 乃至 三〇、五〇〇	一八六、八	一六四、二	一四、七九		
三〇、五〇一 乃至 一〇〇、〇〇〇	一三六、二	一三一、二	三、一八		

一〇〇,〇〇〇以上	一三〇,〇〇〇	一五二,七〇〇	〇,六六〇
	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

由是觀之小收入を有する者多きは素より期する所なりと雖も其多數なるは思半に過ぐる者あり爲政家の三省以て慮ならざる可らざる所のものたり。次はミケル氏の考案に係る補充税(エルゲンツングストエイエル)にして西曆千八百九十三年七月十四日の法律を以て創設せられ同千九百六年に修正せられたる新税なり本税は負債及營業費を差引き動産不動産の總額に萬分の五を課する者にして六千馬より始め西曆千九百七年度の豫算は三千九百萬馬を計上せり而して賦課財産の價格は凡そ七百八十億馬なりとす本税は總て財産に行き渡り率輕く費用と負債を控除するを以て事業の發達を防げず且つ彈力ありて頗る好評を博せり是れにて地租を市に移せり又普漏西に於ける最近二箇年度の所得稅收入の内譯を見るに左の如し

第三十二表の二

收入階級	西曆千九百九年		同千九百十年	
	都會	田舎	都會	田舎
四百五十磅以上	三三九,三四四	三四五,三三五	三三九,三四四	三四五,三三五
二百二十五磅以上	二〇八,四五二	二〇八,四三六	二〇八,四五二	二〇八,四三六
一百五十磅以上	五,四七七,八五六	五,五三七,七四一	五,四七七,八五六	五,五三七,七四一
二百二十五磅以内	三二,三八六	三六,九一四	三二,三八六	三六,九一四
一百二十五磅以内	一一,二六三	一三,七九四	一一,二六三	一三,七九四
三百二十五磅以上	四三,六五〇	五〇,七〇九	四三,六五〇	五〇,七〇九
四百七十五磅以上	六三,二四〇	六七,七七四	六三,二四〇	六七,七七四
四百七十五磅以内	一四,六五〇	一六,四六七	一四,六五〇	一六,四六七
千五百二十五磅以上	七,八〇七	八,四二四	七,八〇七	八,四二四
千五百二十五磅以内	七,一二四	七,五三一	七,一二四	七,五三一
千五百二十五磅以上	一三,九一七	一四,八六〇	一三,九一七	一四,八六〇
千五百二十五磅以内	八,五一八	八,九九一	八,五一八	八,九九一
五千磅以上	一四,八七八	一五,二四五	一四,八七八	一五,二四五
五千磅以内	三,一四一	三,二九〇	三,一四一	三,二九〇
計	一八,〇一九	一八,五三八	一八,〇一九	一八,五三八

都會	三、〇七九	三、〇九四
田舎	七三九	七九九
計	三、八一八	三、八九三

都會	一一、一〇
田舎	三、五
平均	七、五

収入の大體は概ね斯の如し、然り而して支出は年々増加し西曆千九百七年度の經常費總額は二十八億五千七百萬馬臨時費二億九千二百萬馬なりしが十年度は前記の如く約三十九億三十萬馬に増加し約七億九千萬馬の差増を示せり、前年度の現計に據れば純然たる行政費は九億三千九百萬馬にして地方費補助四千七百萬馬、東部諸州殖民費二千二百萬馬は主としてポイランド人種を獨化せんとするの費用なり、是れ獨逸が久しく試みる所の政略にして成る丈ポイランド地主を追ひ立て獨逸人を其跡へ殖付んとするものなり、之が爲め西曆千八百八十六年には一億千馬を支出し同九十八年には二億萬馬と爲し、同千九百二年には更に三億五千萬馬に増加せり而して同年以降は更に一億馬の新支出を爲しポイランド地方

殖民の不
結果

の地所を購入し官營地及造林地と爲し之を普漏西政府の所有と爲すに力めたり。斯の如くして西曆千九百一年までに該地方に於て十六萬四千「ヘクタール」の地を購入し七萬六千「ヘクタール」を獨の移住人へ再賣せり、然れども其効果不良にして十有五年を経るも同地に於ける獨逸人口は尙ほ百分の一の増加を見ず、ポイランド人は土地を賣ること少なく賣却するは大地主が大區域の一部を賣るに過ぎずして獨人は却て賣却すること多く殊に政府より賣却せし土地の所有者が之を再賣するには投機を防ぐ爲め多少の制限を附したるを以て獲得者隨て少く政府も終に賣却するより寧ろ貸貸に付するを喜ぶの情を惹起し再賣の不自由なるより自然抵當借の増加を來せり、斯の如く移住策は全體に於て振起せず西曆千九百六年には東普漏西に於ては九萬五千四百「ヘクタール」の地面を處分し百七十七箇所の官有地及五十箇所の開拓地を見、ポイゼン地方に於ては三十三萬「ヘクタール」の面積を處分し四十三箇所の官有地と三百三十三箇所の開墾地を得たり、然れども費用は二億九千三百萬馬にして一「ヘクタール」約九百萬馬の割合なり而して其全體に於ては獨人は賣買の結果右の二地方に於て却て二萬五百「ヘクタール」の土地を

失へり、普瀋西の土地移民政略の斯の如く成効といふを得ざるも西暦千九百七年の豫算にはポーランド土地買収の爲め尙ほ二千二百萬馬を計上せり

軍事外交の費用は無論直接に普國豫算に掲ぐるることなし、依て次に財務の費用を述ん、財務費の總額は二億二千二百萬馬に達し主として文官、憲兵及其他の恩給(六千七百萬馬)、寡婦孤子扶助料(二千五百萬馬)、徵稅費(六千二百萬馬)等なり、工部省六千萬馬、商工省千六百萬馬、主として專賣特許の費用なり、司法省一億四千三百萬馬、内務省一億七百萬馬、主として警察、憲兵、監獄、及集治監、農林及官有地省四千八百萬馬、主として農學校、獸醫學校、教育及宗教省二億馬等是れなり

西暦千九百七年の帝國への上納高は一億三千九百萬馬、帝國よりの割戻高は酒精稅にて六千二百萬馬、印紙稅にて七千二百萬馬、合計一億三千四百萬馬にして上納高と殆ど同額なり、同千九百四年には上納高三億四千六百萬馬に對し帝國よりの割戻高は關稅收入及煙草收入にて三億四千六百萬馬にして彼是れ約同額を示せり。是れ獨逸帝國が其聯邦と表面負擔の平衡を取るの衣飾上已むなきの形式に據るものにして彼の帝國主義に於て避く可らざる繁文に屬するものなり、其矯正を要

すると論なしと雖も歴史上の關係一朝にして之を改むるを得ず、近時先覺の士大に論ずる所あるも事容易ならざるは智者を待て而して後ち知るべきに非ざるなり。一般財政の情況斯の如く而して國債及地方債の實況亦大に寒心すべきものあり、元來普國は非常準備に重きを置きフレデリック、ウィリアム王以來之を維持し今尙ほ其政策を襲踏し古來公債の少きを以て天下に鳴りし國なるに輓近内外無双の擴張を圖り爲に資金を要すること甚だ多く國債既に八十七億七千萬馬に達し(地方債は後に説く所あるべし)其内容は三分半の確定公債五十八億九千五百萬馬、三分利付十六億千六百萬馬、短期公債三億四千五百萬馬、買収鐵道株式及債券にして未だ國債に組替へざるもの及引受けたる舊ハノーヴルの公債三百萬馬等なり、是に於て西暦千九百八年度は利子二億七千六百萬馬に達し一方に募集の必要あるに拘はらず尙ほ四千七百萬馬の償還を見積れり、是れ即ち公債募集に際し其種類の選擇に注意せざるを得ず、西暦千八百二十七年の英のグレンウヰル主義の起る所以なり、則ち借りつゝ償還するは兒戲なり、償還の前には必ず歳入殘餘を得ざる可らず、元來普瀋西歳出の大なるは鐵道を以て最とし國債の大部分も之が爲に起り

しものなり、是等の公債は重に四分なりしも第十九世紀の終には利子減少し幸に三分五厘に借替ることを得たり、市場斯の如くなりしを以て當局明なく未來に於ては利率は三分に減ずべしと信じ頗る樂觀の情態に陥れり。然るに世界の實況は米西戦争、南阿戦争、北清事件、日露戦争、サンフランシスコ及ワルパレイゾの地震及火災は大に世界の資本を蕩盡し尋て米國の恐慌となり西曆千九百五年まで平價を保ちし三分半の公債同千九百八年上半年期に於ては九十二に降り七月に至り更に下落して八十二となり、同年八月には四分を以てすと雖も尙ほ募集に困難なるの情況を呈せり、是れ豈に多年の借錢政略に其結果を顯はし世人之を危ぶむの致す所に非ざるを得んや而して年初一月の六億馬の募集の如きは發行價格九十八半を以て先づ四分利半付と爲し西曆千九百十八年までは之を据置き其より利子を三分七厘五毛とし同千九百二十三年に至り之を三分半と爲し、在來の三分半利の面形を残し以て體面を保つものと爲せしは近來財政上の一奇觀と云ふべしなり。今之を本年三月バイエルンが六千萬馬を九十八、八五の價格を以て四分にて募集せしに此すれば普國の信用一見バイエルンの下にあるものの如し、是れ或は

募集金額の多きと同時に帝國も二億五千萬馬を募るに依るなきに非ざらん乎、又之を佛國の三分利公債は九十六英國の二分半利付は八十八、伊太利の三分半利付は百二の高價を保つに比すれば頗る不利なり、抑々市場に向て急に其慣熟せざる多額の證券を發し且つ屢々募債を爲すの弊斯の如し慎まざればある可らず。然るに四月に至り更に四分を以て五年毎に其幾部分を償還すべき短期公債二億馬を發行せり、是れ普國の慣用手段にして曾て西曆千九百四年に三分半を以て募集せし一億四千五百萬馬の一部が同千九百八年十月に期限に達せり、斯の如きは市場を動搖せしめ財政の屈伸を缺き非常の不便を生ずるも普國は屢々之を敢てす、又是れ財政の一奇觀なり。

斯の如くして普漏西は獨逸聯邦公債總額都合百四十億馬の約三分の二を有し帝國公債を合して全獨逸公債の半額を有す、今翻つて國民の貯蓄力を觀るに西曆千九百五年末には貯蓄銀行の預金者千六十四萬三千人、預金々額八十三億馬に上り國債全額と超過す、然れども屢々市場に出て供給過多なる者は民の嗜好に適せず其價格割合に高きを得ざると一般公債も其運命を免れず、今一步を進めて貯金

放下の百分比例を見るに公債割合に少し其實況左の如し

- 一 市街地抵當 三七〇・一
- 二 郡村地抵當 二一・六五
- 三 無記名證券 三六・二七
- 四 記名證券 一・九〇
- 五 手形割引 〇・九七
- 六 動産質 一・〇六
- 七 法人の貸付 一〇・二六
- 八 雜 〇・八八
- 合計 一〇〇・〇〇

國債の實況概ね斯の如し然れども國民一般負擔の情況を詳にせんと欲せば進んで地方債の實況を見ざるべからず今普國有名の都會に就て之を見るに其金高及市民一人當の額は左の如し

第三十三表

市名	債額	一人當
伯林	四二三 <small>百万</small>	二〇七
フランクフルト	一八三	五四八
コローン	一〇九	二五五
シャルロットテムボルヒ	八一	三四〇
プレスラウ	七五	一六〇
ツツセルドルフ	六九	二七三
ハノーウル	六七	二六八
エルベフェルト	五二	三二〇
ケニヒスベルヒ	四九	二二二
キール	四一	二五一
アイスラシヤッペル	二八	二二二

是等を始めとし主要なる獨逸の二十四都府重に普漏西に屬すが西曆千九百五年

乃重七年間に起せし公債は五億四千五百萬馬に對し其用途の百分比例を示せば左の如し

一 舊債償還	四、二五
一 瓦斯事業	一、二二五
一 病院費	一、四八
一 運河事業	一〇、七〇
一 公道架設	九、二七
一 市街及地方鐵道	八、七七
一 學校	七、三五
一 土地買收	五、九五
一 水道	五、八一
一 電氣事業	四、二八
一 市場	三、一七
一 公共建物	二、七七

一 港への通路	二、〇七
一 港灣	一、六八
一 屠獵場	一、五四
一 公園	一、二三
一 水道用堀割	六、八三
一 劇場	〇、七七
一 試業基金	〇、七六
一 兵事費	〇、六八
一 雜	四、三六
合計	一〇〇、〇〇

にして頗る多岐に渉るものと云つべし而して西曆千九百七年の獨逸の市町村債總額は六十五億六千餘馬の巨額に達し帝國公債を超過せり。然るに市の歳入は地租、職業税、營業税を主要のものとし其他倉庫税あれども殆ど數ふるに足らず第一の收入はミケル氏の改革に依り國より市に移せし者にして無建築物地四千二百

萬馬内四百萬馬は市に屬し三千八百萬馬は田舎に屬す有建築物地七千五百萬馬
 (内五千七百萬馬は市其他は田舎)第二は四千萬馬、第三は三百萬馬なり

普漏西財政の情況斯の如し、然るに費用は寧ろ増加するも減ずるの傾向なく西
 曆千九百八年一月八日大藏大臣ラインパーベン氏は議會に告て曰く、當年度中に
 は鐵道及農工事業の爲め六千五百萬馬の増費を要すべし而して是等事業經營の
 費用は其収入の六割一分八二の豫算なりしに實際は六割八分を要すべく、來年度
 には鐵道の經常費に一億二千萬馬の増加を免れざるべし、臨時費の請求は實に一
 億八千八百萬馬に達すと帝國財政と共に普漏西財政も亦裕かなりと云ふを得ざ
 るなり

又「ネエーピング」大學の書記官の一人なるゲルロフ氏の調査西曆千九百年乃
 至同千九百五年間の實況を百八十家族に就て調べたるものなり(家族の數は平均
 四人二分にして獨逸全體なり)に據れば四千馬乃至六千馬の歳入は市及國帝國を
 含まずの直税其四分に當り八百乃至千二百馬の歳入には減じて九厘五毛となり、
 八百馬以下は僅かに四厘九分に止まる、然れども間税に至りては正反對の結果を

獨逸全體
 の負擔

顯はし下層に至り最も重し即ち四千乃至六千馬の歳入は一分四毛乃至一分四厘
 八毛を負擔するに止まるも八百乃至千二百馬の歳入には増して三分六厘二毛乃
 至五分二毛となり八百馬以下には三分六厘四毛乃至五分二厘二毛となる故に肉
 類の如きは此級の最高者と雖も一家一週九英斤以上を食すること能はず、八百乃
 至千二百馬の者は三英斤九、八百馬以下は四人二分に僅か一英斤、四分の一に止ま
 る、而して穀類は三十四英斤、四十英斤、二十英斤と云ふ割合となる、今之を一箇年一
 人宛とすれば上等肉百十英斤、穀三百四十一英斤、最下等は肉類十五英斤、穀類二
 百四十六英斤四と成り、肉と穀との比例は上等一と三最下等は一と十六なり、其他
 獨逸労働者は養老年金として一年十馬乃至十五馬を支拂はざるを得ず、是れ租税
 と其趣を異にすと雖も一時彼の負擔となるは論を俟たず
 國民下層の情況斯の如し今又一步を進めて富民の負擔如何を見るに是れ亦輕
 微なりと云ひ難し請ふ少しく之を説かん

茲にエッセン市に二百萬馬の財産を有する一製造家あり其内百萬馬は自己所
 有製造所の固定及流動資本と爲し二十萬馬は他の株式會社の株式に他の二十萬

獨逸富民
 の負擔

馬は更に他の有限會社獨逸では兩者に差ありに放下し他は住家其敷地及其他に放下せり而して収入は製造業より七萬馬兩會社の割賦金各々七分其支配人として得る所の賞與金各二千馬にして小計三萬二千馬其他の放下より二萬馬住家の賃貸價格として八千馬外國では住家の賃貸價格は總て收入の一部として計算す都合十三萬馬なり此收入に對し列邦が賦課する所の此階級の所得は四分にして五千二百馬なり然るに市は國の所得税一馬に對し一馬八十斤を附加するを以て市所得税は九千三百六十馬にして株式會社の割賦は三分半以下は免稅と成るを以て七分と三分半の差に掛る所得税は二百八十馬となり他の會社の割賦には免稅なく全部に掛るを以て五百六十馬となり所得税のみにて一萬五千三百四十馬と成る其他千分の五の一般財産税ありて之が一千馬と成り帝國は賞與金に八分の税を課するを以て其高三百二十馬となり而して二百人以上を使用する營業者は養老基金積立の爲め一年千馬を支拂はざるを得ず其他交通運搬税及印紙税として少くとも五百馬を支拂ふを要す果して然らば同國地方税一萬八千六百六十馬即ち収入の一割三分以上を拂はざるを得ず而かも其高は關稅及内地消費税を包

含せず然るに彼若し伯林に居住するとせば市税は更に多を加ふ元來該市にはグウェルベ税と稱し營業免許税に類する者ありて五萬馬以上の收入ある者には其純收入に百分の一を課す然らば則ち彼が自己の製造所及他の二會社より得る割賦の合計九萬八千馬の一分九百八十馬を支拂はざるを得ず其他伯林に於ては住家及製造所建築の賃貸價格の二分乃至四分に當る建物税を支拂はざるを得ず其他新雜税を除き伯林に於ては市税のみが一萬二千八百八十馬となり之に國稅帝國税六千二十馬を加ふれば歲入の一割八分四厘七毛餘の強率を示し貧富を通じ此上の増税は實に不可能の事に屬す然るに國家財政の基礎を定むる爲め尙ほ巨額の増税を要し目下増税案の提出を見るは實に已む事を得ざるの勢あるに依らずんばある可らず内外の耳目是に集る蓋し偶然に非ざるなり抑々獨逸の國情たる複雜夫れ斯の如く隨て其財政の情況亦雜然として殆ど端睨す可らざるものあり故に今一步を進め總括的に之を達觀するは敢て無用の業に非ざるべし請ふ少しく之を述べん

輓近帝國政府は累年即ち西曆千九百年乃至同千九百九年引續き不足を生じ其

高積んで二十一億二千七百九十萬九千馬となり一年平均約二億一千二百八十萬馬にして西曆千九百十八年度は歳入大に増加せしと雖も尙ほ二千三百萬馬の不足を生し、其他バイエルン、ウエルテムボルヒ、ザキソン、パデン等が其議會に請求せし新税は八億乃至九億法に達し之を曩に西曆千八百七十一年佛國が敗後償金支拂軍備復舊等の爲め徴收せし税金六億法に比するに非常なる巨額と云はざるを得ず而して西曆千九百九年度の帝國及列邦の豫算總高は約九十二億四千四十七萬馬の巨額にして他國に於て未だ曾て見ざる所の巨額に達す、然れども獨逸の歳入は帝國及列邦共借入金及各種の官業收入を含有すること頗る多額にして是等を控除せざれば國民負擔の真相を見る能はず、依て今當該年度の借入金四億馬、郵便、電信、鐵道、森林及鑛山收入總額四十一億三千萬馬を歳入總額七十七億餘馬より差引くときは獨逸民租税の負擔額は三十一億九千七百萬馬と成る、然りと雖も前記諸業にして國民の手にあれば之れが爲め彼等の收入を増すも國有なるを以て其丈民業を狹窄し居るは片時も忘る可らざるの事實なり、尙ほ其他獨逸には帝國と列邦との間に受授の計算ありて計數重復に涉るを以て之を差引かざるを得ず、即

佛國との比較

ち列邦よりは帝國へ貢金として二億九千百萬馬を納付し帝國よりは關税の割戻として二億二百萬馬を受けたり、西曆千九百七年度故に今此割戻高を前記の約三十二億馬より控除するときは二十九億九千五百萬馬となり約三十七億法に當り之を佛國の總收入三十九億九千九百萬法に比すれば一見負擔の輕さを示すが如しと雖も佛國も郵便收入、煙草專賣收入等の如き税外收入あるを以て是等を差引くときは三十二億七千四百萬法となり獨逸の方却て重し況んや獨逸に於ては官業頗る多く國民の收入を得るの難易に於て佛國と日を同ふして談ずる能はざる所のものあるに於ておや、然れども一人當りの負擔高を以て之を見れば獨逸の人口は六千三百二十萬佛は約三千九百萬なるを以て佛は八十四法にして獨逸は五十九法に當り獨逸の方利あるが如し、又煙草酒類より生ずる收入の一人當り約十二法の方に利あり即ち當年度佛の煙草收入は四億七千萬法にして一人當り約十二法なるに獨逸は僅かに八千六百萬法にして一人當り一法四十參なり、酒類税は佛は三億二千二百二十九萬六千法獨逸は一億六千二百法にて佛の一人當りは八法獨逸は二法六十參に止まる、然れども佛の一人當りを獨逸の人口に乘じ直ちに之に相當する者を得

未來の費用

べしと爲すは是れ皮相の見なり何となれば佛は世界の遊覽所にして煙草酒類の如きは旅客の消費に係る者殊に上等品多ければなり「カヒ」税も佛は百「キロ」百三十六法なりと雖も獨は五十法に止まる然れども此品にも旅客の關係あり

帝國國債は既記の如く西曆千九百八年既に四十二億五千餘萬馬に達し同千九百十年には四十五億五千餘萬馬に達し尙ほ續々増加の勢あり今西曆千九百九年より同千九百十三年までの既定繼續費にして國債支辨に係る者を擧れば左の如し

内務所管	一、五六、五〇〇、〇〇〇
陸軍所管	四四、一〇〇、〇〇〇
海軍經常費	九二、〇〇〇、〇〇〇
同上補充費	三七、七〇〇、〇〇〇
帝國鐵道	五六、三〇〇、〇〇〇
支那方面	一五、三〇〇、〇〇〇
合計	七四一、九〇〇、〇〇〇

右の外第二期計畫に屬する者一億四千二百四十七萬馬及電話其他の事業完成の爲め要する者若干あるを以て前説西曆千九百十三年までには國債の増加七億餘萬馬に止まらず恐らく十億馬に達すべしとは世人の信じて疑はざる所なり

第九節 國家の選擇事業に對する費用

支辨の注意

第一目 巨大なる臨時費は經濟上の調和を破るの虞あり

古來邦家先天の職務は之を號けて必要職務と稱し統治機關の關係を正し、官省の制度を定め職務統治の職分を全ふし文武諸般の機關の効力をして強大ならしむるは國家先天の職分たり然るに又時勢の必要に應じ運輸、通信、勸業、土木等の事を經營するを國家の選擇事業とす。抑々國家が特別の目的を以て特殊の事業を經營するは固より妨げなしと雖も其選擇を慎まざるを得ざるや論を埃たず、元來國家の收入は限度あり萬般の施設其完成を求むるときは固より際限あるものに非ざるなり有限の收入を以て無限の需用に應ずるは不可能に屬す果して然らば國

國家の天職及選擇事業

家必要職分の費用を割て之を選択事業に充てて乎、是れ順序の本末を誤るものにして國政の調理上固より不可能の事なり臨時の費用は歳入の殘餘若くは臨時の收入を以て之に充てざるを得ざるは論を俟たず然れども事の當否は暫く之を論外とし市場の情況と元利支拂の難易とを顧みず漫に選擇事業の爲に國債を募集するも亦不可なり何となれば斯の如きは市場の平和を破るの虞あると同時に國債費の支拂は忽ち經常支出の増加となり甚しきに至りては經常臨時の關係を紊すの患あればなり上來論ずる所のものを以て之を觀れば經常費は經常收入に依らざるを得ざるは勿論臨時費と雖も漫に之が爲め國家の債額を増加するの不可なるは瞭然として疑ふ可らず西諺に曰く公債を以て事を爲すは後世に對して手形を宛るものなりと譬喩真妙の域に入るものと云つべきなり

選擇事業の多大なるは市場の不安を來し損失を蒙るに及ぶ

財政上選擇事業の爲め漫に公債を起すの不可なるは既論の如し而して其市場に影響する哉亦大なり幸にして金額小なれば實際上敢て多大の變を見ざるべしと雖も金額大なるときは市場の流通資本を吸收すると共に有價證券の價格を減少し其質物たるの價格に影響し甚しきに至りては増資の必要を惹起し金融の圓

滑を妨ぐるの虞なしとせず事業にして利益多く公債の元利支拂は其收入を以て優に之に應ずるを得べき場合に於ては結局果を後世に及ぼすが如き事なしと雖も當初建設の際に於ては多少前記の結果を來すは免れ難きの理勢なりとす况や收利の點に於て疑あるを免れざる者の如きに於てをや臨時事業中鐵道の如き有利の者にして經常歳入の殘餘を以て之を敷設する場合に於ては收支相償ふて些少の利益を生ずれば即ち可なりと雖も公債を以て之を敷設するときは其收益公債の元利を償ふに至らざれば忽ち經常費の負擔を増加す例へば既設鐵道の收入が之に投ぜし資本に對して六分五厘に當るに際し平價五分を以て公債を募集するを得ば更に進て公債を募集し新線を敷設し舊線を延長し或は之が改良を圖るを得べきが如しと雖も是れ新に放下する所の資本は既投資本と同一又は之より以上の收利を生ずべしと推定し得る場合に限るものにして線路延長の爲め工事漸く困難を増し又乗客貨物の數量は之を既設線路に比して不況を呈する場合に於ては其延長は偶々以て純收入を減ずるに足り資本に對し従前の收入歩合を得る能はざるに至るは蓋し鐵道經濟上普通の事情たり一葉落ちて天下の秋を知る

事茲に及んでは鐵道事業亦其秋に達せしや知るべき耳豈に漫然新設延長をのみ是れ事とするを得ん哉況や鐵道の收入は資本に對し六分五厘なるに平價六分五厘以上の割合に非ずんば公債を募集する能はざるの場合に於てをや其當初より國庫の損失たるや論を俟たず勿論鐵道の如きは其關係する所至大至廣單に國庫の利害を以て其取捨を論定するを得ず殊に歳入殘餘を以て其改良延長を計るを得る場合の如きは少しく放念するを得べし

然りと雖も其費用を國庫に仰がざるを得ざる時の如きは財政と市場との關係前陳の如くなるを以て大に注意せざるを得ざるものあり豈に輕々看過するを得んや而して鐵道問題の利害緩急を定めんと欲せば政略上の關係は暫く之を措き國土永久の地形上の關係も亦之を詳かにせざるを得ず漫に他國の例を以て之を論ずる能はざるなり今之を概論すれば鐵道の効用最も多きは國大陸に位し海岸線少うして稍々圓形若くは方形の國土を有し而して繁榮なる大國の間に介在する者に之れを見る半島國若くは島帝國にして幅員狹く國形細長にして大小箇數の島嶼より成立し水運の便利大なる國に於ては其効用比較的に微弱なり歐洲大

鐵道と地形との關係

陸獨逸帝國の如きは前者の好例にして我國の如きは後者の最たる者と云つべし宜なる哉我國鐵道の事業之を他業に比して遜色なしと云ふを得ざるものなしとせず是れ經營の精巧深切ならざる資本の豊富ならざる等其他種々の原因なきに非るべしと雖も邦土自然の情況亦以て之が一因たらずんばある可らず今試みに獨佛兩國を以て之を比較するに兩國は開明の度を等ふし國土の面積亦伯仲の間にあり獨二〇八、八三〇方哩佛二〇四、〇九二方哩而して西曆千八百九十年に於ける獨逸鐵道の延長は凡そ三七、〇〇〇哩内三千四百四十哩は私設佛は凡そ三〇、〇〇〇哩内四、九六八哩は地方線なりにして其差違凡そ七、〇〇〇哩なり佛國の地形敢て鐵道業の爲め不利なるに非ずと雖も四隣の關係之を獨逸に比して一を輸するものなしとせず又英國を以て之を論ずれば其差違更に甚しきものあり抑々英國と普漏西とは其面積人口伯仲の間にあり然るに鐵道事業に於ては左の差違を生ず則ち

第三十四表

國名	英	普
哩數	二二,〇〇〇	二一,〇〇〇
資本	一,一三〇,五三三,二二三	四三七,七〇〇,〇〇〇
純收入	四三,四八六,五二六 (三分八厘餘)	三三,五〇〇,〇〇〇 (七分五厘餘)

由是觀之地形の以て鐵道事業に關する至大なりと云つべし、鑑みずんばある可らず(英普兩國に於ては鐵道の純益尙ほ公債利子の上にある)

第二目 臨時費支辨に關する我國目下特有の事情

臨時費支辨の償まざるを得ざる夫れ斯の如し然り而して我國今日の事情特に大に戒めざる可らざるものあり、請ふ少しく之を辯ぜん。最近我國人文の發達實に驚くべきものありと雖も製造の業未だ盛大なりと云ふを得ず、而して鐵材亦未だ豊富なる能はず故に一事業の起る毎に之に要する所の機械器具材料等は之を歐米の諸國の仰がざるを得ず、鐵道造船、電務、築港等皆然らざるはなし、是に於てか事

目下我國の貨物輸出は不可とす

業の擴張は忽ち物品輸入超過の因となり、爲替の逆戻となり正貨の輸出となり市場に影響すること少しとせず、物品輸入の超過必ずしも憂ふべきに非ざるべしと雖も債務國に於て其原因の存するは實に憂ふべきの甚しきものにして大に警戒を加へざるを得ざるなり、是れ我國現今の特色にして又一大弱點なりと云つべし、故に我國目下の策は選擇事業の擴張を戒め事業の進行は之を其源を養ひ整理を目的とする者に止め暫く進取の銳氣を收め他日大に伸ぶ所あるを期するにありて正に是れ尺蠖一縮の時なり、書に曰く、走て地を視ざる者は顛へると子房之を奉して漢家三百年の基を開く言凡なりと雖も實に至言と云つべし、我國經常費臨時費の關係は先年まで前陳の如く夫れ佳良なりしも近年に至りては甲年度の施設にして乙年度以降に於ける經常費増加の原因となる者少しとせず、今にして大に戒むる所なくんば他日躋を噬むの悔あらん、豈に慎まざる可ん哉

第三目 臨時費支辨の結果に關する注意

軍備の爲め要する製鐵費、初度調辨費等の如きも其素質臨時費に屬し一時の者なれば或は市場の好況に乘じ公債を募集し著しく市場を紊亂することなくして

第一章 豫算の編製及執行 第九節 國家の選擇事業に對する費用支辨の注意 第二目 臨時費支辨に關する我國目下特有の事情 五七

之を支辨する事を得る場合なきに非ざるべしと雖も其維持の費用に至りては則ち經常費にして其増加は經常費臨時費の關係上不利なしと云ふを得ず固より軍事費の如きは周廻の情況如何に依り他動的に其必要を生ずることあるべしと雖も經濟的注意を要する哉論を俟たず又教育事業の如きも不經濟的に官設學校の數を増加し其設備のみは寄附金其他の臨時収入を以て之を支辨し得るも其經營維持發達の爲め要する費用は固より之を經常収入に求めざる可らず其他或は勞に乘じ深く事實の真相を穿たず或は地方的事業に驅られ時未だ至らざるに官立學校を増設し或は學制其法を得ず一級僅かに一二の學生あるに至り而かも其學ぶ所高等の専門科學に屬するか如きことあるは實に不經濟の極と云はざるを得ず凡そ天下の事大なりと雖も一時にして止み果を後年に及ぼさざるものあり事小なりと雖も現在の一舉手一投足は大に未來の利害に關係するものあり前者は猶ほ米麥の耕作の如く後者は葡萄園を開くが如し其將來の勞費豈に播種除草等に止まらん哉須らく事物の關係を明かにし現在將來の調和を計り國家進運の道を開くべし又功を急き時機の熟するを俟たず猛然國運を開かんと欲し大に負

債を起し臨時費を支出し事業より生ずべき豫期の利益を收むこと能はずして財政の困難を助長し大に經濟を紊亂せし者ありアルゼンチン共和國及伊太利經濟史眼第三版第十七章參看の如き即ち其好例たり輒近兩國の發達稍々見るべきものなきに非ずと雖も當初の施設或は經濟史學上の慮を缺くものなりとせず戒めずんばある可らず臨時収入を以て經常經費を支辨するの不可なるは論を俟たず臨時収入を以て臨時費を支辨するは差支なきが如しと雖も其結果動もすれば延いて經常費の増加となり餘響の及ぶ所終に經常収入を以て經常費を支辨することを得ず力を臨時収入に藉らざるを得ざるに至るなきを保せず果して然らば其害實に側り知る可かず故に數言を重ね臨時費支出の増加を戒め以て寸毫の過千里の差違を生ずるの歎なからんことを期す看官請ふ之を諒せよ

第十節 臨時費支辨の順序

第一目 一般の順序

經常費の支辨に就ては行政府は毎年度豫算案を以て精密なる順序方法を設け

立法府は熟考審査して之を決議し、行政府は之を受け慎重の注意を以て之を執行するを以て苟も大過なきを得べしと雖も、戦亂騷擾等の爲に要する所の臨時費支辨は事概ね咄嗟の間に起り順序方法意の如くなる能はず施設亦整然たるを得ざるは殆ど其常なり、果して然らば是れ獨り當時を誤るのみならず又永く禍害を後世に遺すべし故に平日に於て豫め之を研究し置くの必要あり依て左に臨時費支辨の順序を陳述せん

第一 非常準備金(若し之あれば)

第二 租 税

第三 短期公債

第四 長期公債

是なり、國家非常準備金を有するに於ては非常臨時費の支拂は先づ之に依るべきは多辯を要せず、然れども之なきときは今世の費用は今人之を負擔すべしとの原則に據り成べく租税を増徴し以て非常費の支辨に宛つるを至當とす而して其租税の選擇及徴收にも亦順序あり、請ふ左に之を辯ぜん

第二目 租税中の順序

租税の選擇は左の順序に據るべきものとす是れ易を先にし難を後にするものにして自明の理に屬し多く説明を要せず、即ち

- 一 所得税の如き屈伸税(若し之あれば)の増徴
- 二 他に影響すること最も少き酒煙草の如き間税の増徴
- 三 民業に影響少き現行税の増率
- 四 新税の設置

是なり、税中の順位夫れ斯の如し、今一步を進めて前記屈伸税の實例を尋ねるに英國の所得税は實に之が好例たり、方今四海富強の國少なからずと雖も富源の強大なるは先づ指を英國に屈せざる可らず而して其所得税の巨大なる實に恐るべきものあり、故に少しく其率を増加するときは巨萬の歳入忽ち至る英國政府の如きは實に良財源を有するものと云つべし而して其徴收の方法は所得一磅に對し何片と云ふ如き特定數を用ひ百分の何と云ふ如き比例を用ひず力めて其徴收を簡便にす、英國所得税の率は平時に於ては一磅に付き概ね八片にして同税の收入額

屈伸税の實例

は千八百萬餘磅なりしと雖も、最近南阿戰爭、北清事件等交も起り、費用頗る増加せしを以て、其率を増加して一磅に付き一志となせしに、西曆千九百一年三月三十一日に終る年度に於ては二千六百九十二萬磅、同千九百二年三月三十一日に終る年度に於ては率を十五片となし三千五百三十七萬八千七百磅の實收を得、同年四月一日より始まる所の年度に於ては三千八百八十萬磅を得而して、西曆千九百三年度に於ては四片を輕減し八百三十萬磅の減少を見込み、英國の富源強大にして其財政操縦も容易なる實に羨むべきものあり。

元來所得税は主として中流以上の人士の負擔にするを以て、其増加は國民の生計に影響すること最も軽く、此税は屈伸税として最も適當なるものとす。然りと雖も、凡そ租税の徵入に就き、念頭常に忘る可らざるものは、其効用如何にあり、假令條理に於て完全なるも、其收入にして國家必要の費用を支ふるに足らざるものならしめば、之を以て民を煩はすは策の得たるものに非ざるなり。我國所得税の如きは、稅近多少増加の實なきに非ずと雖も、其額英國の如く巨大なる能はず、租税の効力を缺き、未だ屈伸税として恃むに足らざるなり。方今我國の財政上良好にして行は

我國の屈伸
稅の未
來の收入

我國の屈伸
稅の未
來の收入

れ易き屈伸税なきは一大缺點と云はざるを得ず。惜々今日の實況を察するに、我國に於て屈伸税として選ぶべきは地租を措て他に之あるを見ず、其實行は頗る難きも、事情の之を許すあれば、經濟上諸般の關係は地租を屈伸税となすは之を他に求むるより有効にして、害少きは論を俟たず。現に近來一部人士の物議を排し、地租を以て屈伸税とするの端緒を啓きたり、即ち二十七八年戰後經營の爲め、費用多端なるを以て、明治三十六年度を限り、地租從前の率二分五厘を三分三厘に増加せるは、世人の熟知する所なり。當時頗る聲々の聲ありとし、雖も此増加の爲め、東京遊觀者を減じ、或は田舎の生計を困しめたるの結果あるを觀ず。然れども、増税は國家の大事に於て最も之を慎まざる可らず、只國家必要の費用を支辨する爲め、時に勢の已むを得ざるものなきを保せず、我國に於ては百難を排し、地租を増すも、其收入を増加すること、英國の所得税率の結果に及ばざること、遠し彼我財政の操縦に難易ある知るべき耳。然りと雖も、我國收入の基礎を定むる固より望あり、即ち酒類、煙草、收入の如きものをして十分に發達せしむるときは、將來頗る有力にして、且つ良好なる屈伸收入を得るや、疑を容れず、借すに歳月を以てせば、是等の事亦決して爲し